

令和元年度

つうきゆう

一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援と連携のあり方

第27号

＜通級指導実践報告集 一教材・教具編一＞



福井県教育委員会
令和元年度通級指導担当者専門性向上事業

< 目 次 >

通級指導教室の概要

◆小・中・高等学校共通◆

通級による指導について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
自立活動の内容 区分・項目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	3
通級指導担当者の時間割例・・・・・・・・・・・・・・・・	4
通級指導教室 運営および指導方針例・・・・・・・・	5
校内支援体制の整備について・・・・・・・・	7

◆高等学校における通級指導◆

福井県における「高校通級」の概要・・・・・・・・	10
「高校通級」年間指導計画（指導内容例）	11
「個別の指導計画」の作成と活用、評価	12
「高校通級」の授業実践例および成果	13

通級指導における教材・教具① ーワークシート関係ー

No. 1 自己表現ワークシート（さいころトーク）	15
No. 2 3枚の連続絵カードを使ったSST	16
No. 3 ソーシャルスキル実践ワーク「こんなとき どうする？」	17
No. 4 SSTワークシート 思春期編	18
No. 5 「見る力」サポートトレーニング	19
No. 6 1分間集中トレーニング	20
No. 7 間違い探し①	21
No. 8 間違い探し②	22
No. 9 かみこうさく	23
No.10 コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング	24
No.11 ことばのテーブル映像シリーズ「10秒映画」	25
No.12 特別支援の国語教材 初級編（ひらがな、語彙）	26
No.13 特別支援の国語教材 初級編（文書読解）	27
No.14 MIM-PM アセスメント用プリント	28
No.15 国語あそび ファックス資料集	29
No.16 ゆっくりさんすうプリント 10までのかず	30
No.17 パワーアップ読み上げ計算ワークシート	31
No.18 ひとりだちするための算数・数学ワーク	32
No.19 とってもやさしい数学	33

通級指導における教材・教具② ーカード・かるた・パズル関係ー

No.20	SST絵カード	35
No.21	五色ソーシャルスキルかるた	36
No.22	ころかるた(子ども向け)	37
No.23	ころかるた(全年齢向け)	38
No.24	SST2択展開カード「このあとどうなるの?」	39
No.25	アンガーマネジメントゲーム	40
No.26	名前をつけて早く呼ぶカードゲーム ナンジャモンジャ	41
No.27	おとあわせ おはなしカルタ	42
No.28	反対ことばカード	43
No.29	かなかなパズルゲーム	44
No.30	意味から覚える 漢字イラストカード①	45
No.31	意味から覚える 漢字イラストカード②	46
No.32	漢字博士(漢字作りカード)	47
No.33	ととあわせ(魚の漢字とイラスト合わせカード)	48
No.34	トランプの活用①	49
No.35	トランプの活用②	50
No.36	はじめておぼえるABCかるた	51
No.37	日本地図パズル	52
No.38	パズルト	53
No.39	図形モザイクパズル	54
No.40	お箸でお豆さんつかみゲーム	55
No.41	カヤナック(釣りゲーム)	56

通級指導における教材・教具③ ーダウンロード教材・ICT関係ー

No.42	まちがいさがし・点つなぎ	57
No.43	季節の工作	58
No.44	会話の練習用質問くじ	59
No.45	50音すごろく	60
No.46	カタカナカード	61
No.47	反対言葉 絵カード	62
No.48	認知特性別読み書き支援 スマイル式プレ漢字プリント	63
No.49	漢字カード合わせゲーム	64
No.50	ペンでタッチすると読める音声付教科書	65
No.51	アプリ「ドロップキット つくるんです」(お話作り)	66
No.52	アプリ「常用漢字筆順辞典」	67

No.53	アプリ「中学生漢字（手書き&読み方）」	68
No.54	アプリ「Voice Dream Reader」（文章読み上げ）	69
No.55	アプリ「SUM! かわいい数字で算数あそび」	70
No.56	アプリ「毎日1回100マス計算」	71

通級指導における教材・教具④ ー自作教材・指導の工夫ー

No.57	マインドマップ	73
No.58	ライフラインシート	74
No.59	マッチングカード	75
No.60	フェルトで小物作り	76
No.61	すごろく①（会話すごろく）	77
No.62	すごろく②（作って遊ぼう）	78
No.63	カレンダー作り	79
No.64	紙芝居	80
No.65	コミュニケーションスキルカード	81
No.66	リクエストカード	82
No.67	シルバニアファミリー（お話作り）	83
No.68	道徳教材の活用「出迎え三歩、見送り七歩」	84
No.69	短い詩の制作（自己表現活動）	85
No.70	ふれあい囲碁	86
No.71	将棋（集中力とコミュニケーション）	87
No.72	絵カード	88
No.73	ひらがなカード	89
No.74	拗音かるた	90
No.75	生活の中の漢字「給食メニュー編」	91
No.76	漢字パズル	92
No.77	目と手を使う計算カード	93
No.78	お金の数え方練習プリント	94
No.79	方程式・移項 学習支援グッズ	96
No.80	ローマ字カード	97
No.81	マスキングテープで見やすいノート作り	98
No.82	英語授業プログラム	99
No.83	ALTの活用と連携	100
No.84	校内連携の工夫と手立て	101

【参考資料】

通級指導における記録・連携シート例	103
出典一覧	108



通級指導教室の概要

(小・中・高等学校)

通級による指導について

※「通級による指導」とは、学校教育法施行の改正等に伴い、平成5年4月1日から実施された制度である。

(1) 通級指導の概念

比較的軽度の障がいがある児童生徒に対して、各教科の指導は通常の学級で行いつつ、心身の障がいに応じた特別の指導を特別の指導の場（通級指導教室）で行う。

(2) 対象となる児童生徒

各教科等の大部分の授業を通常の学級で行いながら、一部の授業について当該児童の障がいに応じた特別の指導を特別の指導の場（通級指導教室）で行うことが必要な者。

(3) 障がいの種類

- ①言語障がい ②自閉症 ③情緒障がい（選択性かん黙等）
- ④弱視 ⑤難聴 ⑥学習障がい（LD）
- ⑦注意欠陥多動性障がい（ADHD） ⑧肢体不自由、病弱および身体虚弱

(4) 指導内容・時間

障がいによる学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とする指導（自立活動）。

【指導例】

言語障がい：構音の矯正を図る指導や話し言葉の流ちょう性を改善する指導など
ADHD：自己の理解と行動の調整に関する指導、集中力の向上を図る指導など
学習障がい：視知覚の特性に応じた指導、図や絵等の活用、目と手の協応動作の指導など

※単に各教科の学習の遅れを取り戻すための指導ではない。通級による指導の内容について、特に必要があるときは、障がいの状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら行うことができるが、その場合も、障がいによる学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とする指導とする。

●特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とする。

「自立活動」を週1～8単位時間程度

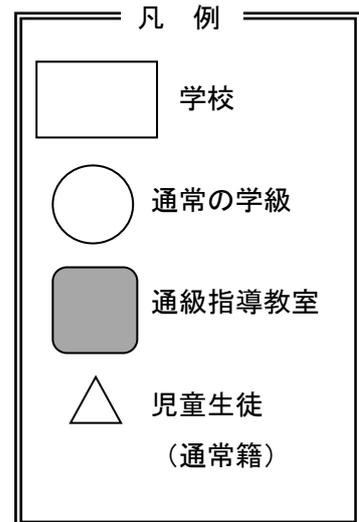
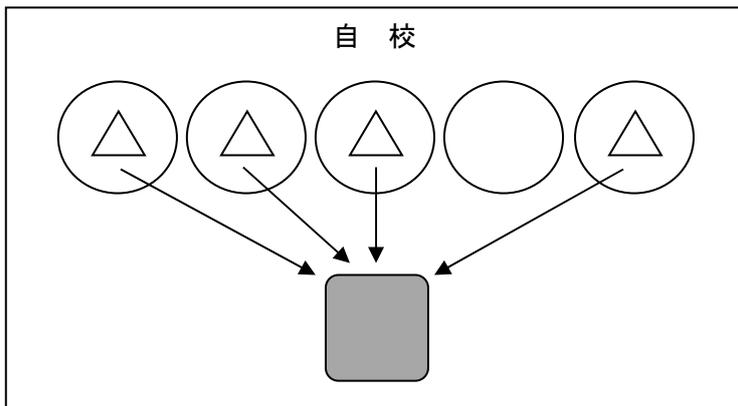
LDおよびADHDの児童生徒については、月1～週8単位時間程度

(5) 指導方法

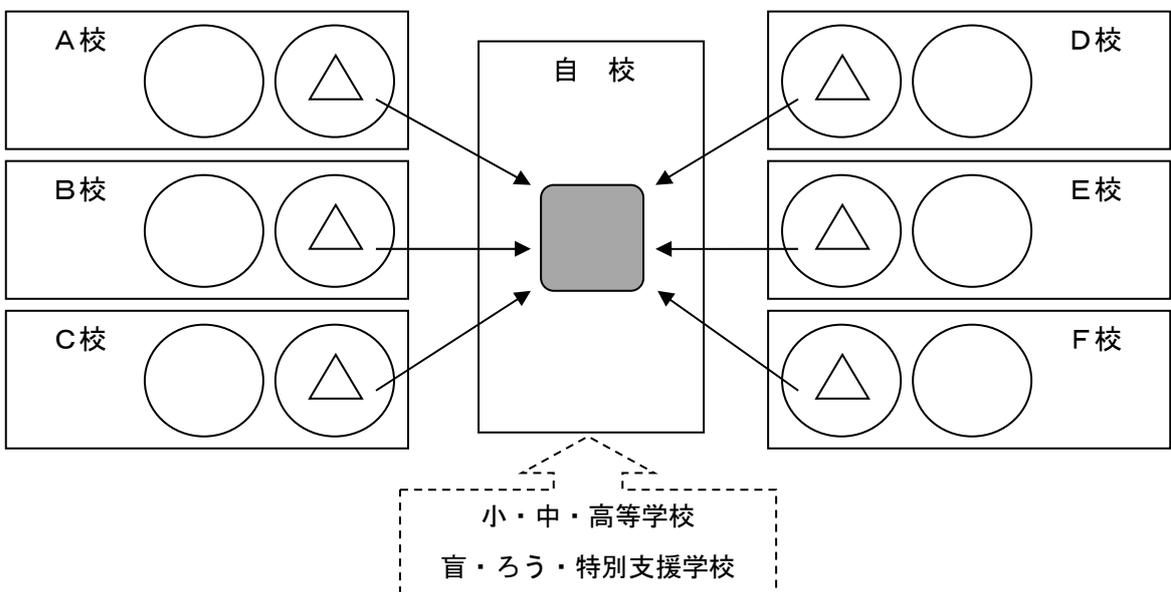
個別指導を中心とし、必要に応じて、グループ指導を組み合わせることも可能。

(6) 通級による指導の形態例

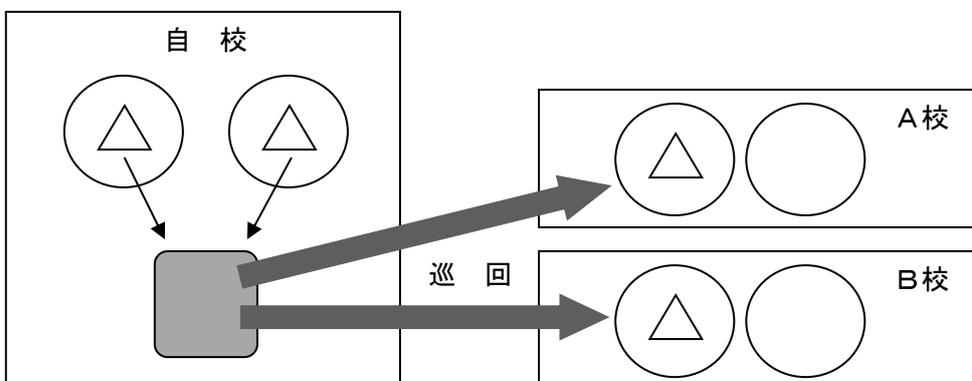
①自校通級



②他校通級



③巡回による通級指導



自立活動の内容 区分・項目一覧

※特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容より

1 健康の保持

- 1－(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
- 1－(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
- 1－(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。
- 1－(4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事。
- 1－(5) 健康状態の維持・改善に関する事。

2 心理的な安定

- 2－(1) 情緒の安定に関する事。
- 2－(2) 状況の理解と変化への対応に関する事。
- 2－(3) 障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。

3 人間関係の形成

- 3－(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
- 3－(2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
- 3－(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
- 3－(4) 集団への参加の基礎に関する事。



4 環境の把握

- 4－(1) 保有する感覚の活用に関する事。
- 4－(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。
- 4－(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
- 4－(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。
- 4－(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。

5 身体の動き

- 5－(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
- 5－(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
- 5－(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
- 5－(4) 身体の移動能力に関する事。
- 5－(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。

6 コミュニケーション

- 6－(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
- 6－(2) 言語の受容と表出に関する事。
- 6－(3) 言語の形成と活用に関する事。
- 6－(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
- 6－(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

通級指導担当者の時間割例 (本務校、兼務校を巡回する場合)

曜日や時間帯（午前・午後）によって兼務校が決まっている。

指導に当たっては、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の6区分27項目の内容を参考とし、児童生徒一人ひとりに、障がいの状態等の的確な把握に基づいた自立活動における個別の指導計画を作成し、具体的な指導目標や指導内容を定め、それに基づいて指導を展開する必要がある。

指導は、個別または少人数で行われる。

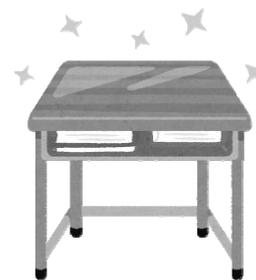
【実施例】	本務校 A校 指導児童生徒 あ～こ 兼務校 B校 指導児童生徒 A～F C校 指導児童生徒 ①～④
--------------	---

		1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	5 限目	6 限目
月	指導内容	心理的な安定	コミュニケーション	心理的な安定	人間関係の形成	心理的な安定	
	児童生徒	あ/い	う/え	お	か	き	
火	指導内容	コミュニケーション	環境の把握	心理的な安定	身体の動き	心理的な安定	
	児童生徒	A	B	C	D	E	
水	指導内容		人間関係の形成	心理的な安定	心理的な安定	コミュニケーション	
	児童生徒		く	け	お/き	こ	
木	指導内容	健康の保持	身体の動き	コミュニケーション			人間関係の形成
	児童生徒	F	D	A			か
金	指導内容	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成		コミュニケーション	
	児童生徒	①	②	③		④	

通級指導教室 運営および指導方針例

学習環境の整備

- ・落ち着いた雰囲気です学習に取り組めるよう、教室環境の整備に努める。
- ・静かで刺激が少なく、学習に集中できる場となるよう環境を整える。
- ・心のふれあいを大切にし、「分かる」「できる」「楽しい」場作りに努める。
- ・安心して活動や学習ができるよう明るく、温かい雰囲気づくりを心がける。
- ・一人ひとりとじっくり向き合い、児童生徒が素直に自分を表現し、安心して過ごせる雰囲気作りに努める。
- ・一人ひとりとの丁寧なやりとりを大切にし、児童生徒が安心して自分を表現できるような雰囲気作りに努める。



指導のねらい、目指す児童生徒像

- ・「できた」「分かった」という経験を積み重ねることで、自己肯定感や自信を高めることができる。
- ・情緒を安定させ、落ち着いて学校生活を送ることができる。
- ・個に応じた指導や教材を活かし、集中力や注意力を高めることができる。
- ・心豊かに学習や学校生活を送ることができる。
- ・やる気と喜びをもって学ぶことができる。
- ・自分のことがしっかりと自分でできる。
- ・自己理解や他者理解ができ、人とのかかわりを大切にすることができる。
- ・自分の思いを適切に表出し、相手に伝えることができる。
- ・課題について自分で考えて取り組み、自分の考えを表現することができる。
- ・自分の課題にねばり強く取り組むことができる。
- ・個性豊かに、たくましく生きていくことができる。
- ・課題の改善を図るだけでなく得意な分野を伸ばすことで、児童生徒のよさやもてる力をさらに高めることができる。
- ・生活上または学習上のルールやきまり、時間等に対するけじめ等を理解し、習得することができる。
- ・学級集団や学校生活への適応力を高め、集団内で自分の力を発揮することができる。
- ・将来の自立や社会参加につなげることができる。

指導内容や方法、教材の工夫

- ・対象児童生徒の実態や課題、教育的ニーズに対応したきめ細やかな指導内容と方法を工夫する。
- ・ゆとりをもった指導および個に応じたきめ細やかな支援を行う。
- ・意欲的に楽しく取り組むことができるように、児童生徒の興味・関心のある教材・教具や指導方法を工夫する。
- ・取り組んだ過程やよいところ、できたところを積極的にほめて、自信や自己肯定感を高める。
- ・活動の中で達成感や成就感を味わい、自信をもって通常学級の中で生活できるように指導・支援を行う。
- ・児童理解を深め、一人ひとりの特性と個性を活かしながら、課題を克服・改善しようとする児童生徒を根気強く指導・支援する。
- ・児童生徒が自身の発達段階に応じ、自分なりの方法で生活上または学習上の困難を改善・克服できるよう、自己理解および自己支援への理解を図る。
- ・将来を見通したきめ細やかな指導・支援を行う。
- ・障がいによる困難さから派生する二次障がいも見据え、ソーシャルスキルトレーニングにて適切な人とのかかわりや社会での振る舞い、言動について指導・支援する。
- ・ICTなどの情報機器を活用して、楽しみながら理解できるよう、指導・支援のあり方を工夫する。
- ・認知面の特性に応じ、ビジョントレーニングや音声を活用した指導・支援を心がける。



校内支援体制の整備について

1 指導の記録例

個別の教育支援計画・指導計画 通級指導を受ける児童生徒については、必ず作成

- ・管理職、特別支援教育コーディネーター、通級指導担当者、在籍学級担任、関係教職員、保護者（および児童生徒本人）等と連携し、児童生徒や保護者の願いを大切にしながら、指導目標や目標を達成するための手立て等について検討、共通理解を図るとともに、その方向性を定め、連携・協力して指導・支援を行うために作成・活用する。そして、定期的に評価、見直しを行い、より実態に応じた適切な指導・支援につなげる。

通級指導の記録

- ・毎時間の通級指導における学習内容や児童生徒の様子、成果等を記録し、使用した教材に関するプリントや連絡事項等とともに連絡ファイルに綴る。連絡ファイルは、校内*および保護者で回覧し、それぞれサインやコメント等を記入する。連絡ファイルの回覧によって、児童生徒についての情報交換や共通理解を図る。
- ・通級指導で取り組んだ学習内容や児童生徒の様子を記録し、校内*で回覧し、情報交換や共通理解を図る。通級指導の成果や評価は学期ごとにまとめ、懇談会等で保護者に渡して説明し、これからの指導・支援の検討につなげる。
- ・取り組んだ内容とともに、児童生徒の感想や担当者の所見も記入し、振り返りや即時評価を図る。
- ・学習の記録として、児童生徒自身が授業のはじめに学習内容や目標を記入し、学習の見通しをもたせる。また、感想の記入によって、振り返りや自己評価をさせる。
- ・次回の通級指導の予定も記入しておくことによって、学習意欲を高めたり、見通しのある学習につなげたりする。

※校内とは、通級指導担当者、在籍学級担任、管理職、特別支援教育コーディネーター等、対象児童生徒とかわりのある教職員等を示す。



2 連携例

担任・保護者・関係教職員

- ・児童生徒や保護者の願いを大切にしながら指導を進めるとともに、連絡ファイルや保護者懇談会を利用し、本人の学習の足跡や伸びを共有する。また、対象児童を指導・支援する教職員間でも連絡ファイルを回覧し、共通理解のもとで効果的な指導ができるように連携を図る。
- ・担任や保護者と密に連携し、児童生徒や保護者の願いを大切にしながら、担任、通級担当者の共通理解のもとで児童生徒へのより良いかわり方について検討する。実際の指導に当たっては将来の自立のために、今大切にすべきことを具体的に考え、適切な支援につなげる。
- ・毎時間の学習の様子を記録し、学期ごとに成果や課題等をまとめる。これらを保護者会等で伝えることによって、保護者・担任・教科担任との連携を密にし、よりよい支援・指導を目指す。
- ・個別の指導計画等を作成し、担任や他の教職員と連携しながら、通常学級において児童生徒がたくましく積極的に活動できるように支援方法を考えていく。

関係機関

- ・外部専門機関や相談機関との連携を密にし、それを家庭・在籍学級および通級指導教室での指導に役立てる。
- ・特別支援教育センターや嶺南教育事務所、特別支援学校などと連携し、児童生徒理解や指導内容について指導・助言を受け、通級指導に活かす。

校内支援体制

- ・児童生徒、保護者、教職員に対する啓発活動を推進し、特別支援教育や通級指導の理解推進に努める。
- ・関係機関や近隣の学校から講師を招いて、特別支援教育や通級指導に関する研修会を開き、教職員の理解啓発を図る。
- ・通級指導で行っている指導のポイントや有効な支援方法、教材等について、校内へ情報を発信し、指導・支援について共通理解を図るとともに、必要に応じて他児への指導・支援に活用する。
- ・連絡ファイル等の回覧を通して、児童生徒についての共通理解を図る。
- ・定期的に校内支援委員会を開き、児童生徒の実態把握や必要な指導・支援等について検討または見直しを図る。

高等学校における 通級指導

福井県における「高校通級」の概要

全国的に中学校で通級による指導（通級指導）を受ける生徒数が年々増加している状況を踏まえ、平成30年度から高等学校においても障がいに応じた特別の指導を個別に行うための通級指導が制度化されました。福井県における「高校通級」の概要は、以下のとおりです。



○実施対象校

すべての県立高等学校を対象としています。

（令和元年度は11校12か所…普通科：5、職業系：3、定時制：4）

○対象生徒

言語障がい者、自閉症者、情緒障がい者、弱視者、難聴者、学習障がい者、注意欠陥多動性障がい者またはその他障がいのある生徒のうち、障がいに応じた特別の指導を行う必要がある生徒を対象にします。福井県では、卒業後の社会生活を見据え、社会性およびコミュニケーション面に困難さのある生徒を中心に指導します。

○指導形態

専門性のある特別支援学校教員を中心に、各高等学校を巡回して指導します。

○指導内容

単に教科学習の遅れを補充するための指導ではなく、障がいによる学習上または生活上の困難を改善または克服することを目的に指導します。特に必要があるときには、障がいの状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら行うことができます。

福井県では、卒業後の社会生活を見据え、コミュニケーション面を中心としたソーシャルスキル、情緒の安定、自己理解等を中心に指導しています。指導実践例については下記のとおりです。

○実施時間帯

時間割の中で選択科目に替えたり、放課後に指導時間を設けたりして実施します。高等学校では「必履修科目等に替えて実施することはできない」等の条件があるため、学校との相談が必要です。

○評価・単位認定

本人・保護者とともに指導計画を作成し、その目標が十分に達成できたと校長が判断した場合に単位の認定を行います。年間35時間を1単位として、卒業認定単位に含めることができます。令和元年度の状況では、週1～4時間程度実施しています。

○問合せ・手続き

日頃から学習や学校生活等で困難さを感じていたり、「通級指導」に関心があったりする場合、まずは窓口となる担任や校内の特別支援教育コーディネーターに相談してください。相談の中で、「通級指導」が必要か、時間帯は適当かなど本人にとってより良い指導・支援のあり方について検討していきます。

【指導実践例】

ケース①

生徒の状態：状況に応じたコミュニケーションや意思の表出が苦手

指導内容例：就労に向けたプログラム（面接の練習、職場に必要なソーシャルスキルに関するロールプレイング等）



ケース②

生徒の状態：友達とのコミュニケーションでトラブルやパニックになることが多い

指導内容例：コミュニケーションスキル、長所・短所等の自己理解、アンガーマネジメントなど情緒面の安定に関する学習



「高校通級」年間指導計画(指導内容例)

●自己理解		●状況に応じたコミュニケーション	
中心課題			
NO	指導内容	時数	
1	オリエンテーション(学習内容や計画について知る)	1	
2	自己理解	2	これまでの学校生活等を振り返り、自分のことをより深く理解する。
3		2	自分の長所や短所について整理する。
4		2	自分の特性を整理する
5		2	自分のことを伝える
6	会社・仕事の仕組み	3	働くことをイメージする
7		3	職種と必要なスキルを知り、自分に適した仕事について考える。
8		2	自分の長所に合った職種について、就職するまでの流れを学ぶ。
9	スキルコミュニケーション	2	実際の応募を想定して、効果的な履歴書の書き方を学ぶ。
10		3	メモの取り方や自分の考えをわかりやすく伝えるための活用方法を学ぶ。
11		3	職場で必要とされる報告、連絡、相談の具体的な場面をイメージしながら学ぶ。
12		2	面接に必要な社会人としてのマナーを学ぶ。
13		2	実践を通して、面接のポイント、身だしなみや言葉遣い等を学ぶ。
14	将来の生活	2	働くことの意義について考え、準備しておくことについて知る。
15		3	先輩から仕事や余暇等の話を聞き、就職後をイメージする。
15	振り返り(1年間の学習を振り返り、自分の成長を確認する)	3	一人暮らしを想定し、給料と支出について具体的に考える。
15	振り返り(1年間の学習を振り返り、自分の成長を確認する)	2	

「個別の指導計画」の作成と活用、評価

①	実態把握 (アセスメント、情報収集、情報の整理) ※ <u>ふくいつ子ファイル活用</u>
②	目標設定 (方向性を定めるために、課題の抽出、中心課題の整理、 <u>評価規準の設定</u>)
③	指導内容の設定 (自立活動の項目と関連付けた具体的な計画)
④	指導 (指導の実際、情報の共有、目標・指導内容・評価規準の見直し)
⑤	評価 ● <u>規準</u> 自立活動による指導、通常の授業における「 <u>出席日数</u> 」「 <u>授業態度</u> 」「 <u>目標の達成度合</u> 」 ● <u>評価の根拠</u> <u>自己評価</u> (授業の記録および満足度、達成度、達成感など) <u>他者評価</u> (通級担当者、担任、特別支援教育コーディネーター、関係機関など) ● <u>他教科・学校生活への汎化</u>

【作成と活用のポイント】

- 課題や目標の設定 → 具体的な目標設定、見直しも可
- 評価 → 明確な観点による自己評価および他者評価
- 活用 → 他の授業および学校生活に汎化

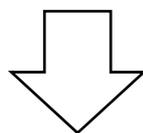
【指導要録および調査書への記載】

- 指導要録の「様式1裏面」「様式2表面」の総合的な探究の時間の下に「自立活動」の欄を設けて、修得単位数の計を記載する。また、「様式2裏面」の「総合所見および指導上参考となる諸事項」の欄に、「自立活動」の授業時数および指導期間、指導の内容や結果等を記載する。
- 調査書についても、指導要録と同様に、総合的な探究の時間の欄の下に「自立活動」の欄を設けて、修得単位数の計を記載する。(参考：令和元年6月4日付け元文科高代102号・文部科学省高等教育局長通知「令和2年度大学入学者選抜実施要項について」)

「高校通級」の授業実践例および成果①

【授業実践事例】

在籍状況	全日制高等学校 職業系学科
生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広汎性発達障がい ・ 計画的に行動することや自分の意見を言葉で伝えることが苦手
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後「加える」形で実施（週1時間）
授業内容 （※例を抜粋）	<p>目標「就労に向けた知識や技能を獲得しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の特性（得意・不得意）について知る。 ・ 自己PRにおいて、相手への伝え方を学ぶ。 ・ 職種と必要なスキルを知り、適した仕事を考える。 ・ 履歴書の書き方練習や模擬面接をする。 ・ 給料と支出など卒業後の生活をイメージする。 ・ 就労支援機関の人の話を聞く。



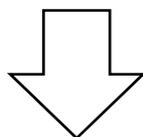
【成果】

生徒の様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の特性など自己理解が深まり、自己肯定感が高まった。 ・ 就職に向けて、企業見学や面接会参加など、自ら積極的に進路について考える姿が見られるようになった。 ・ 模擬演習を通して、社会人としてのマナーなど具体的に知ることができた。 ・ 企業に就職するとともに、支援機関の方との関係づくりができた。
校内支援体制	<p>（校内）担任、職業学科担当、特別支援教育コーディネーターとの連携が密になった。</p> <p>（校外）ハローワーク、スクラム福井など、卒業後の就労における支援機関との関係を構築できた。</p>

「高校通級」の授業実践例および成果②

【授業実践事例】

在籍状況	定時制高等学校
生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障がい ・友人関係のトラブルやパニックになることが多い ・自己理解は乏しいが、困難さを感じている
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・選択科目に「替える」形で実施（週2時間）
授業内容 (※例を抜粋)	<p>目標「ソーシャル（コミュニケーション）スキルを身に付けよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とまわりの人との関係を、コミュニケーションマップにまとめる。 ・相手の気持ちを想像する。 ・コミュニケーションに関するゲームをする。 ・実際の場面を想定した模擬演習をする。



【成果】

生徒の様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者との関係を理解し、相手の立場になって考えることができるようになってきた。 ・トラブルになった理由を客観的に知ることができた。 ・友人との関係で、トラブルを防ぐための予防的な対応方法を身に付けることができた。 ・コミュニケーションの基礎を知り、自己肯定感が高まるとともに、部活動など学校生活全般に意欲的に参加するようになった。
校内支援体制	<p>(校内) 担任、教科担当、特別支援教育コーディネーター、養護教諭など、校内教職員で情報共有する体制ができた。</p> <p>(校外) 本人・保護者、特別支援教育センター等の専門機関を交えた支援会議を定期的開催できた。</p>

通級指導における

教材・教具①

－ワークシート関係－

1 教材名 自己表現ワークシート（さいころトーク）

2 対象児童生徒の特性

- ・特定の友達とは話ができる。
- ・大きな声で指示されたり、注意されたりすると、怒られていると感じ、萎縮してしまう。
- ・咄嗟に受け答えができず、無言になることがある。そのため、緘黙傾向と思われることがある。

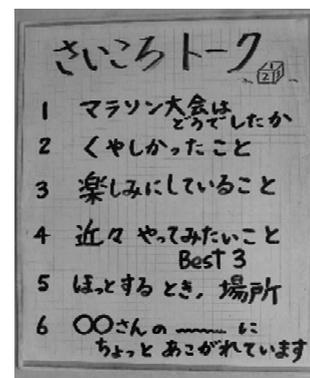


3 ねらい

- ・自分の思いを声に出して、相手に伝える力を育む。
- ・未知の話題について、児童が自分なりに考える機会を設定する。
- ・うまく話せない、または、上手にその場を乗り切れないストレスを軽減する。

4 使い方

- ① 行事、家族、将来、仮想などについてのお題を、毎回6つホワイトボードに書いて準備する。
- ② さいころをふり、出た目の質問事項に対して回答する。
「私は～ですが、あなたはどうか。」と対話形式になるように交互に続ける。特に教師側はエピソードや失敗談を取り入れ、誰にでも失敗や苦手なことがあることを伝える。
- ③ 設定した時間になるか、6つ全部回答したら終了とする。



5 指導上の留意点

- ・自己肯定感を強めていくことも目的としているので、児童が話しているときはうなずいたり、感嘆の声を発したりして、話し手の内容を認めていくようにする。
- ・考えてみても、どうしても話しにくいことはパスしてもよいことにする。
- ・さいころ（軽い紙製）はどんなふう回転がしてもよいことにする。
(指ではじいたり、サッカーが得意なA君は、ヘディングやキックをしたりした。残っている目を出そうとする行為がゲーム化になり、気持ちが盛り上がり、雰囲気が和むようにもなった。)
- ・トーク内容を担任に知らせ、情報交換を密にするようにする。

6 出典

- ・教材名 図書文化「自己表現ワークシート2」
- ・著者 大竹 直子
- ・価格 2,420円(税込)
- ・備考 「自己表現ワークシート」の続編であり、キャリア教育、保護者用、教師用のシートが追加されている。

1 教材名 3枚の連続絵カードを使ったSST

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・学習活動中に、別のことを考えたり手遊びしていたりするため、指示の聞き逃しが多く、指示を聞いて自ら取り組むことができない。
- ・友達とかかわりたい気持ちはあるが、うまくかかわることが難しい。
- ・文章を書くことが苦手である。

3 ねらい

- ・友達とうまくかかわれるよう、コミュニケーション能力を高める。
- ・集中力をつけ、一斉の指示で行動しようとする態度を育てる。



4 使い方

- ① 授業で扱うSSTを選ぶ。
- ② 場面1のカード「問題が起こるきっかけの場面」を見せ、どのような場面かを、児童と会話しながら一緒に考える。または、必要に応じて児童に説明する。
- ③ 場面2のカード「その後に起こる問題の場面」を見せながら、「こんな時はどうしたらよいのかな？」などと問いかけ、児童の意見を出しながら解決の方法を探り出していく。
- ④ 場面3のカード「問題解決の場面」を見せる。
- ⑤ カードで学んだ後、ロールプレイを交替で行い、登場人物の気持ちをより理解する。
- ⑥ 本日のSSTについてまとめる。

5 指導上の留意点

- ・児童の実態や課題を考慮して、扱うSSTのカードを選ぶ。
- ・話の流れを振り返ることができるように、各場面をコピーして、掲示する（絵はカードの裏表を使って描かれているために、3つの場面を同時に掲示できない）。
- ・カード3の「問題解決の場面」で、児童からもっとよい解決方法が出てくれば、児童の意見を大切に対応していく。
- ・児童の性格を考慮して、ペープサートを作って、ロールプレイをする。ペープサートはSSTの登場人物を用意するが、児童と同じ小学校に通う小学生という設定のペープサートも用意し、それを使ってロールプレイをすることによって、より、自分にとって身近な問題であると意識づけるようにする。
- ・児童は、文章を書くことが苦手なので、振り返りの時は、ペープサートを持たせて、SSTについて気付いたことや驚いたこと、納得したことなどの感想を言わせる。
- ・振り返りの時は、感想だけでなく、学習したSSTがどんな場面で活用できるのかを考えさせ、友達とのコミュニケーションやかかわり方を意識させるようにする。



6 出典

- ・教材名 黎明書房「小学生のための3枚の連続絵カードを使ったSSTの進め方」
- ・著者 田中 和代
- ・価格 5,093円（税込）
- ・備考 カラー絵カード 32枚（48場面）付き



1 教材名 ソーシャルスキル実践ワーク「こんなとき どうする？」

2 対象児童生徒の特性

- ・こだわりの強さがみられ、特に武器の特徴に関する知識が豊富である。
- ・友人と遊ぶより、一人で読書したり、ゲームをしたりしている時間が多い。
- ・様々な活動や遊びの中でルールが守られていないことが許せず、感情が乱れる。
- ・自分の気持ちや考えを言葉にするのが苦手である。
- ・授業中、集中できないことがある。
- ・教科では、理科・数学は得意であるが、国語・英語が苦手（特に作文）である。

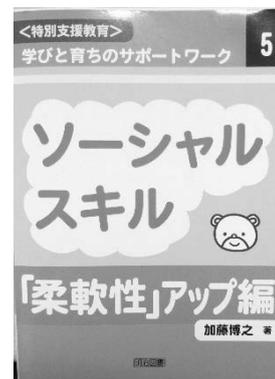


3 ねらい

- ・自分の気持ちを言葉に表す力を高める。
- ・問題の解決に対して、よりよい対処法について考える力を育む。

4 使い方

- ① 「週の振り返り」で自分を見つめる時間をもつ。
- ② 本教材に取り組む時間を決める（通常は10分程度取り組んでいた）。
- ③ 場面の想定ができるように、対話をしながら実施する。
- ④ 「自分ならどうする。」「なぜ、そうするのか。」を言葉で表せるようにする。



5 指導上の留意点

- ・話したい事がある場合、対話を優先し、気持ちが落ち着いてから実施する。
- ・できるだけ直近のトラブルに似た場面例を用意する。
- ・会話をしながら場面理解を図り、実体験での場面との関連を図る。
- ・「自分の気持ち」だけでなく、「相手の気持ち」を考えることも意識させる。
- ・相手に自分の気持ちをどのように伝えようかを考えさせる。
- ・文章で書かせることだけにこだわらず、自分の気持ちを表出させることを優先する。場合によっては、聞き取ったことを書き留める場合もありとする。

6 出典

- ・教材名 明治図書出版「ソーシャルスキル『柔軟性』アップ編」
- ・価格 2,420円（税込）

1 教材名 SSTワークシート 思春期編

2 対象児童生徒の特性

- ・その場の状況に応じた言動がとれない。
- ・友達の気持ちを察することができずトラブルになる。
- ・自分を律することができず、やりたくないことを避ける。
- ・自分の興味のあること（鉄道関係）には膨大な知識を有するが、状況を考えず、その話を延々と続ける。
- ・文字を書き写すこと、字形を整えて書くことが苦手である。



3 ねらい

- ・対人関係のスキルを身につける。
- ・学年にふさわしい自立・自律した生活ができるようになる。

4 使い方

準備1：どのワークシートをいつ活用するか生徒の実態に応じて計画を立てる。

準備2：生徒の実態に応じて、元の項目を削除したり選択項目を追加したりする。

準備3：生徒の興味・関心を高めるため、可能な場合は設定を変更する。

- ① 生活の振り返りを行ってから、関連したワークシートに取り組む。
- ② 必要に応じて教師の励ましや助言を受けながら、じっくり取り組む。
- ③ ワークシートの記入事項について、教師と話し合い、同意や異なる意見を得ながら検討する。
- ④ ワークシートはファイリングし、保存する。

5 指導上の留意点

- ・ワークシートを通して、理解できていること、実践できていることを認める。
- ・生徒の実態に応じた身につけさせたいスキルに関するもの、学校行事に関連して使いたいもの、繰り返し定期的に使いたいものなど、ワークシートを内容ごとに分析する。
- ・身につけたスキルを生活で実践化するために、生徒や保護者、担任等と相談しながら、スモールステップで目標を設定する。
- ・適切な時期に、保存してあるワークシートをもとに、身につけたスキルや実践できていることなどについて確認したり生活を振り返ったりする機会を設ける。

6 出典

- ・教材名 かもがわ出版「あたまと心で考えよう SSTワークシート思春期編」
- ・価格 2,200円（税込）
- ・備考 コピーしてすぐ使えるような製本となっている。同シリーズに、「自己認知・コミュニケーションスキル編」、「社会的行動編」がある。

1 教材名 「見る力」サポートトレーニング

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・「読む」ことが苦手である。
- ・読み間違いが多い。

①「とびとびよみ」(横)



3 ねらい

- ・集中できる時間を伸ばす。
- ・視線のジャンプ移動が素早く正確にできるようにする。
- ・文字や文章を正しく速く読むことができるようにする。

4 使い方

授業の始めに、それぞれを印刷した物を使う。

- ①「とびとびよみ」 □印の文字だけを、横(縦)にできるだけ速く間違えないように声に出して読む。
- ②「とびとび迷路」 紙に書いてある文字を、迷路に沿って声に出して読む。
- ③「とびとび矢印」 紙に書いてある文字を、矢印の順番にできるだけ速く間違えないように声に出して読む。

5 指導上の留意点

- ・頭や体を動かさないように、目だけでターゲットをしっかりと見るようにする。
- ・紙に顔が近づきすぎないように、姿勢良く座ってトレーニングをする。
- ・時間を計ったり取組み後にシールを貼ったりするなど、学習意欲を高める工夫する。

6 出典

- ・教材名 中央法規出版「教室・家庭でできる『見る力』サポートトレーニング」
- ・著者 奥村 智人
- ・価格 2,200円(税込)

①「とびとびよみ」(縦)



②「とびとび迷路」



③「とびとび矢印」



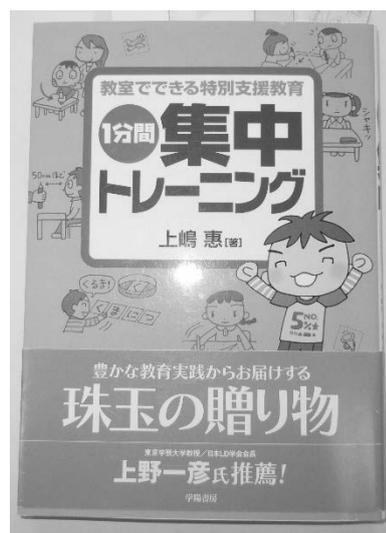
1 教材名 1分間集中トレーニング

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・話しの流れや周囲の状況に関係なく、急に自分の興味のある話を始めることがある。

3 ねらい

- ・学習のための着席姿勢を身につける。
- ・目と手を使って、「見る」力を高める。
- ・聞き取りで、「聞く」力を高める。
- ・「考える」集中力を高める。
- ・絵カードで「記憶力」を高める。



4 使い方

準備：取り組む課題を決める。

【例：数字の聞き取り書き】

- ① 教師が数字を読み上げる。
 - ② 児童生徒は読み上げられた数字を一つずつノートに書いていく。
 - ③ 書き終わったらみんなで答え合わせをする。
 - ④ 条件を変えた数字の聞き取り書きをする。
- ※必要に応じて、別課題にも同様に取り組む。



5 指導上の留意点

- ・目的に応じて課題を選んで取り組む。
- ・1日の始まりや授業の始めに取り入れ、児童生徒の様子を見ながら活動の組み合わせを考える。
- ・少しずつでもよいので、継続的に行う。
- ・短時間でできるので、授業に取り入れやすい。

6 出典

- ・教材名 学陽書房「教室でできる特別支援教育 1分間集中トレーニング」
- ・著者 上嶋 恵
- ・価格 1,870円(税込)
- ・備考 同著者による「3ステップ『聞く』トレーニング 自立と社会性を育む特別支援教育」(さくら社 税別1,700円)もある。

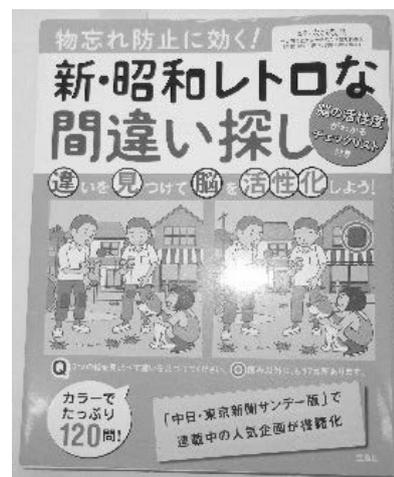
1 教材名 間違い探し①

2 対象児童生徒の特性

- ・絵が好きである。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・話しの流れや周囲の状況に関係なく急に自分の興味のある話を始めることがある

3 ねらい

- ・集中力を高める。
- ・学習課題の合間に息抜きとして取り入れ、生徒の気持ちを整える。
- ・言葉で違いを表現する力を育む。



4 使い方

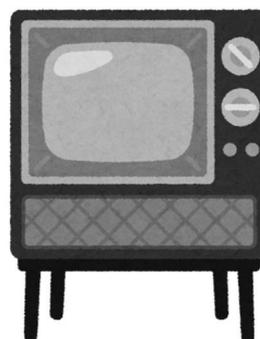
- ① 絵が描かれたプリントを用意する。
- ② 2枚の絵の違いを決められた時間内に見つける。
- ③ 時間内に自分で見つけられた間違いの個数を書く。
- ④ 回答を言うときは、主語や述語を使ってできるだけ適切な日本語で伝える。

5 指導上の留意点

- ・授業のウォーミングアップや息抜きとして使う。
- ・絵には季節の行事や身近な題材が取り上げられているので話を膨らませることができる。

6 出典

- ・教材名 宝島社「新・昭和レトロな間違い探し」
- ・著者 太城 敬良 監修
- ・価格 770円(税込)
- ・備考 同社からは、「クイズ 三丁目の記憶 昭和レトロな間違い探し」や「まちがいさがし おぼけの国のおしごとたんけん」など、他にも間違い探しに関する書籍が出版されている。



1 教材名 間違い探し②

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力の持続が難しい。
- ・教科の学習に意欲的に取り組むことが難しい。
- ・注意力が散漫である。
- ・視覚認知力が弱い。
- ・ことばで説明することが苦手である。



3 ねらい

- ・一定の時間、集中する力を高める。
- ・部分的箇所やポイントに絞ってみる力につなげる。
- ・楽しみながら学習することで学習意欲につなげる。
- ・自分のことばで説明する力を高める。

4 使い方

- ① 今日のテーマの絵を見る。
- ② 何をしている絵かを簡単に想像して話し合う。
- ③ タイマーを計って間違いを見つける。
(7～8か所)
- ④ 1つつ、友だちと交互にどこがどうちがうのか発表し合う。



5 指導上の留意点

- ・なかなか間違いを見付けられない児童には、右・左・上・下などポイント箇所を区切ってみることを意識させる。
- ・細かい部分を注意してみることを、漢字の細かい部分などを注意して見たり書いたりすることにつなげていく。
- ・児童の実態に応じて難易度やヒントを与える度合いは柔軟に対応していく。
- ・学習の導入の段階で、学習意欲を高める手立ての一つとして取り組んでも効果的に使うことができた。

6 出典

- ・教材名 世界文化社「間違い探し2」
- ・価格 638円(税別)
- ・備考 同シリーズとして、「間違い探し」1～4がある。

1 教材名 かみこうさく

2 対象児童生徒の特性

- ・物を作ることが好きである。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・授業中も周囲の状況に関係なく、自分に興味のあることだけをする。
- ・手先が不器用で、ひらがなも正しく書けない。

3 ねらい

- ・学習への興味・関心を高める。
- ・集中できる時間をのばす。
- ・手先の巧緻性を高める。



4 使い方

- ① 1枚ずつ切り取れるようになっているので、その時間に取り組む教材を切り取る。
- ② 作り方を一緒に読んで、見通しを立てる。
- ③ はさみとのりを使って作成する。
- ④ できあがった物を使って遊ぶ。
- ⑤ 後片づけをして、作品は教室に持ち帰る。



5 指導上の留意点

- ・教材は、簡単な物から難しい物へと配置されているので、順番にやるのが望ましい。
- ・のりだとうまくくっつかないことがあるので、その場合はホッチキスを使うとよい。
- ・ただ作って終わりではなく、作った物で遊ぶことで創意工夫が生まれる。その際に画用紙を数枚用意しておく、いろいろと付け加えるようになる。
- ・完成した物を教室に持ち帰り、学級みんなに紹介し、休み時間に一緒に遊ぶという姿が見られている。そのためには、受容的な学級の雰囲気を作るよう担任と話し合っておくことが必要となる。
- ・使い切りの教材になるので、教材費を徴収することになる。保護者の了解が必要である。

6 出典

- ・教材名 学研「こうさく（学研の幼児ワーク）」
- ・価格 726円（税込）
- ・備考 3～4歳用もあり

1 教材名 コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング

2 対象児童生徒の特性

- ・絵や工作に丁寧に取り組む。
- ・説明文等の段落の並び替えの学習は好きである。
- ・他者と言葉でのやりとりが少ない。
- ・語彙が少なく、自分の思いや考えを言葉で表現することが苦手である。

3 ねらい

- ・絵を見て、話の筋の根拠となる手がかりを見つけ、物語を推理する力を養う。
- ・自分が考えた物語を口頭や文で表現したり、先生と言葉でやりとりしたりすることを通して、言葉で伝える力を育てる。
- ・語彙力の向上を図る。



4 使い方

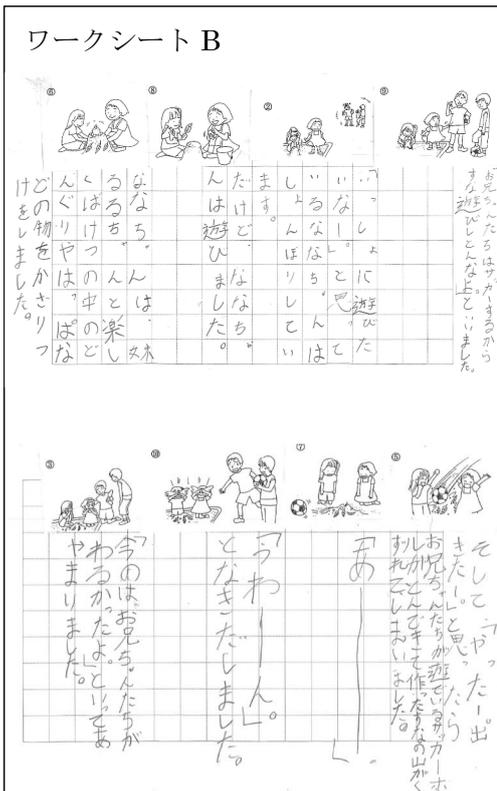
- ① ワークシートAのばらばらになっている絵をよく見て、どんなお話か推理し、絵を順番に並べる。
- ② 並べ替えた根拠を先生に言葉で伝える。
- ③ 並べ替えた絵に沿って、自分の言葉でお話を語る。
- ④ 筋が通っていることを確認し、ワークシートBに順に絵を貼り、考えた物語を書く。

5 指導上の留意点

- ・語彙力を高めるために、表現したいことに最適な言葉を探すヒントとして「ことばのたからばこ」ポスター（光村図書出版）を活用する。
- ・1単位時間内に仕上がるよう時間を確保する。

6 出典

- ・教材名 三輪書店「コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング（プリントして使えるCD付き）」
- ・著者 宮口 幸治
- ・価格 2,200円（税込）
- ・参考 光村図書出版「言葉の宝箱」国語（2年生以上）の教科書の巻末にあり



1 教材名 ことばのテーブル映像シリーズ「10秒映画」

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲームをしたり動画を見たりすることが好き。
- ・書くことが苦手で、時間がかかる。
- ・集中力が持続しにくく、指示を聞き逃すことが多い。
- ・見聞きしたことや体験したことを記憶し、順を追って説明することが難しい。



3 ねらい

- ・体験した出来事（映画）を、時系列に沿って文章化する力を高める。
- ・注意を持続させる力を高める。
- ・先生と一緒に思い出すことで、想起力につなげる。
- ・必要な情報を選択し、それを相手に正確に伝える力を高める。

4 使い方

- (1) ① 映画を視聴する。
② 内容を文章化する。
- (2) ① 映画を視聴する。
② 視聴した内容を見ていない人に伝える。



DVDプレーヤーでの視聴例

5 指導上の留意点

- ・映画を一時停止したり繰り返し見たりするなど、児童生徒の状況や課題内容に応じた方法で視聴する（集団で行う場合は大型テレビを使用する）。
- ・なかなか書き出せない場合は、内容の理解を問う質問をしたり、感想を聞いたりして思い出すきっかけとなる言葉かけをする。
- ・文章化（文字化）には、紙やホワイトボード、タブレット、代筆など、本人の取り組みやすい方法で行うと、書くことへの抵抗が軽減される。
- ・文章化した内容をナレーションしている動画を撮影したり、他者と見せ合ったりして、自己理解・他者理解、そして学習意欲の向上につなげる。

6 出典

- ・教材名 葛西ことばのテーブル「10秒映画 第1集」
- ・価格 1,574円（税別）
- ・備考 DVDプレーヤー、DVD再生可能のパソコンで視聴可能
10秒映画のほか、記憶クイズや手品映像、描画も収録されている。

1 教材名 特別支援の国語教材 初級編（ひらがな、語彙）

2 対象児童生徒の特性

- ・絵を描くのが好きである。
- ・こだわりが強い。
- ・集中力が持続しにくく、授業中に離席することがある。
- ・言葉（発音）が不明瞭である。「き」→「ち」

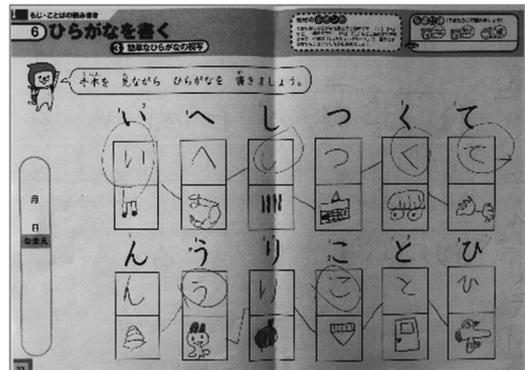
3 ねらい

- ・本人の好きなことを活かしながら、文字に対する興味・関心を高める。
- ・集中する時間を延ばす。
- ・学習のルールを身につける。



4 使い方

- ① 本時のめあてにあったシートを選択して、コピーする（40種類ほどある）。
- ② 教材のポイントは各シートにも書かれているが、目的や児童の状況に合わせて使い方を工夫することができる。
- ③ 写真のシートは手本を見てひらがなを書き写す教材であるが、この児童には、教師が指示した文字を探して上の枠に書かせ、正解したら他の子が終わるまでの間、下の枠にその文字が頭につくものを絵で描かせた。
- ④ 正解した文字数を記録し、活動を振り返る。



5 指導上の留意点

- ・事前に学習上のルールを確認しておく。
- ・本来は文字を読んだり書いたりするワークシートであるが、目的に合わせて使い方を工夫できる。

※今回の実践は、こちらが読んだ文字が理解できているかを確認することに焦点をあて、課題ができれば、文字を練習する枠の1マス分に得意な絵を描かせた。このことにより活動にメリハリをつけ、集中する時間を増やした。

6 出典

- ・教材名 学研「特別支援の国語教材 初級編」
- ・著者 伊庭 葉子
- ・価格 11,000円（税込）
- ・備考 同シリーズとして、中級編・上級編、同様に算数教材初級編・中級編・上級編もある。

1 教材名 特別支援の国語教材 初級編（文章読解）

2 対象児童生徒の特性

- ・ひらがなや学年相当の漢字はしっかり読み書くことができる。
- ・物事に集中して取り組むことができる。
- ・学年相当の文章の読解が難しい。
- ・友達とのコミュニケーションがうまくできない。

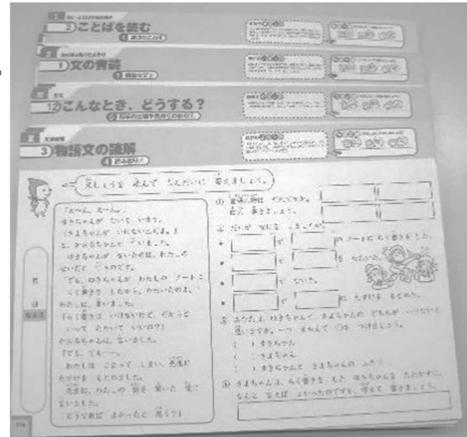


3 ねらい

- ・4文～5文の文章の読解から、段階的に物語文・説明文の読解ができるようにする。
- ・自己肯定感を高める。
- ・特別支援教育の視点に立った教材を扱うことによって、児童の実態に応じたスモールステップの学びを支援する。

4 使い方

- ① 実態把握から、学習上の困難（課題）を見つける。
- ② 保護者の要望を聞き、支援に関する共通理解をする。
- ③ 該当のシート（文章読解など）を選び、最初の課題から順番に取り組みさせる。
- ④ その都度評価をし、できたことを確認する。
- ⑤ つまづいたシートの類題をさせる。



5 指導上の留意点

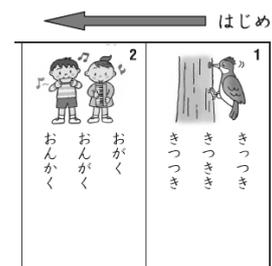
- ・担任と情報を交換し、学級での学習上の困難に関する実態をつかむ。
- ・保護者の要望を聞き取り、本人にとって簡単なシートから段階的に始めることを共通理解する。
- ・本人にとって簡単にできるシートから始め学習に対する意欲を引き出し、できたという自己肯定感を高める。
- ・つまづいたことは丁寧に説明しながら、類題をさせる。また、その結果を担任や保護者と共有する。

6 出典

- ・教材名 学研「特別支援の国語教材 初級編」
- ・著者 伊庭 葉子
- ・価格 11,000円（税込）
- ・備考 同シリーズとして、中級編・上級編、同様に算数教材初級編・中級編・上級編もある。

1 教材名 MIM-PMアセスメント用プリント

※テスト①「絵に合うことばさがし」と、
テスト②「3つのことばさがし」の2部
で構成されているものが11回分ある。



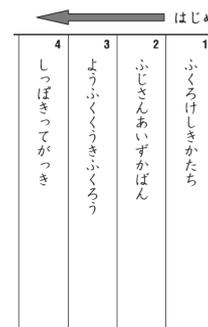
テスト①
「絵に合うことばさがし」

2 対象児童生徒の特性

- ・特殊音節（促音、撥音、長音、拗音、拗長音）の言葉や片仮名を読んだり書いたりすることにつまずきがある。
- ・平仮名の言葉を読んだり書いたりできるが、単語のまとまりが分からず逐字読みをしている。

3 ねらい

- ・特殊音節の言葉を読んだり書いたりする力を高める。
- ・正しい表記の語を素早く認識したり、視覚的なかたまりとして素早く認識したりする力を高める。
- ・言葉への興味・関心を高め、語彙を増やす。
- ・学習の導入時に毎回実施することで、学習のスタートは“ことばの勉強”からとの意識が働き、本時の学習にスムーズに取り組めるようにする。



テスト②
「3つのことばさがし」

4 使い方

準備：対象児童が読みやすいようにするため、A4判（テスト①、テスト②）を拡大コピーしてB4判サイズにする。

- ① テスト①を実施する。完了までの時間を計測する。
- ② テスト①の答えを読ませる。間違いがあれば、正答を繰り返し声に出して確認させる。
- ③ テスト②を実施する。完了までの時間を計測する。
- ④ テスト②の答えを読ませる。間違いがあれば、正答を繰り返し声に出して確認させる。
- ⑤ テスト①・テスト②の完了時間を記録させる。

5 指導上の留意点

- ・本来は「読みのつまずきを発見する」ためのアセスメントのテストだが、指導では特殊音節の習得に向けての学習として使用した。
- ・毎回、テスト①とテスト②をセットで使用した。11回ですべてのテストを使用することになる。12回目からは同じテストを繰り返し使用した。
- ・抵抗感を減らすため、テスト②は3段あるうちの1段目か2段目だけを実施した。
- ・テストにある言葉について「好きかどうか」「見たことがあるか」などを訊ね、言葉と事物を結び付けながら、言葉への興味・関心を高めるように声をかけてきた。

6 出典

- ・教材名 株式会社 学研教育みらい
「多層指導モデルMIM 『読みのアセスメント・指導パッケージ』」
- ・編著者 海津 亜希子
- ・価格 19,800円（税込）
- ・備考 iPad アプリ「MIM-よみめいじん」「MIM-トレーニング」でも同様学習可。

1 教材名 国語あそび ファックス資料集

2 対象児童生徒の特性

- ・音読が好きである。しかし、言葉を飛ばして読んでしまうことがある。
- ・文字の読み書きが苦手である。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・授業中の離席が多い。



3 ねらい

- ・文字に対する不安や苦手意識を軽減する。
- ・注意力や集中力を高める。
- ・根気強く取り組むことによって、本人の達成感につなげる。

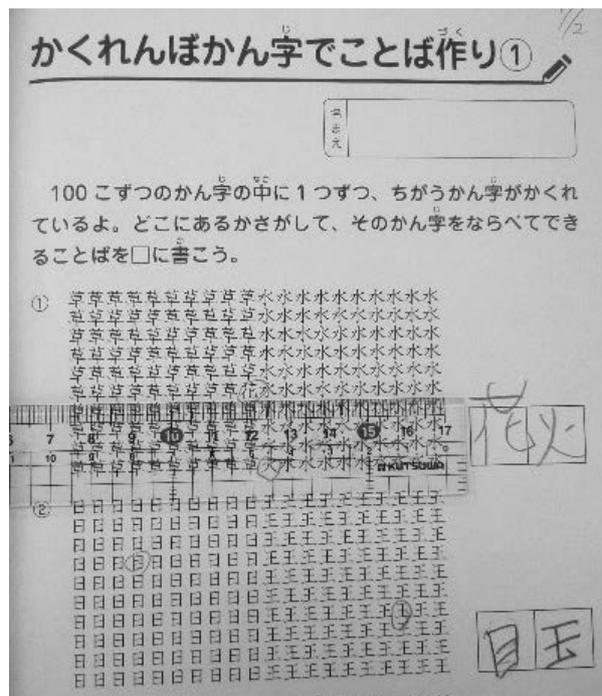
4 使い方

※項目（内容）によって使い方は様々である。

- ① 定規を使って、一行あるいは一列ずつ確認をしながら進める。
- ② 塗りつぶす時は、色鉛筆を使う。

5 指導上の留意点

- ・出てきた漢字や表れた漢字などの読みや意味なども考えさせながら取り組ませる。
- ・一緒に取り組む、競争する、時間を図るなど、取り組み方を工夫して、意欲向上を図る。
- ・途中で投げ出しそうになったら、ヒントを出して、励ましたり集中を促したりする。



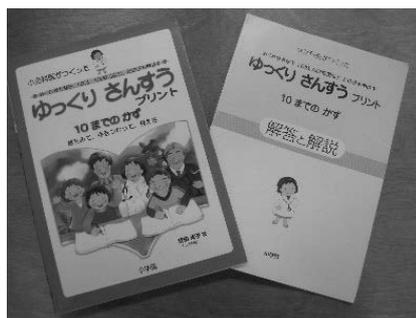
6 出典

- ・教材名 民衆社「国語あそび ファックス資料集 小学校1・2年生」
- ・価格 1,980円（税込）
- ・備考 「小学校3・4年生」や「小学校5・6年生」、「算数あそび」もあり

1 教材名 ゆっくりさんすうプリント 10までのかず

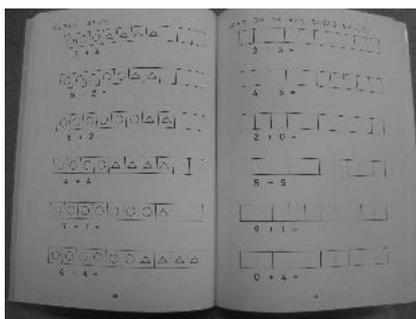
2 対象児童生徒の特性

- ・ひらがなや視写などの学習は喜んで取り組む。
- ・数は数えられるが理解していない。数の合成・分解については、5までは理解できる。
- ・数の学習になると表情が暗くなる。
- ・手先が不器用である。
- ・集中力が持続しにくい。



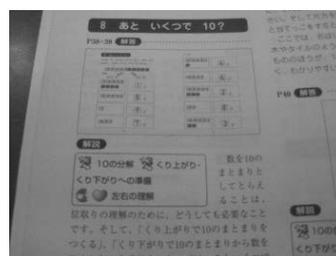
3 ねらい

- ・生活体験とそこから学ぶ学習の相互強化をする。
- ・絵や図によって、イメージ化や理解を補助する。
必要に応じて、絵を見て、手を使って考えさせる。
- ・頭の中に留め置く力を伸ばす。
- ・集中して取り組む力を伸ばす(絵を見て、手を使って考える)。



4 使い方

- ① つまづきの把握のために順番にワークシートに取り組む。
- ② 例題のほかに問題数が少ないので、数を変えたり、場面を変えたりしてスモールステップで進むとより効果が期待できる。
- ③ 動作性の力と言語性の力に偏りがある場合には、児童の実態に応じた方法で支援する。
- ④ 各問題に「数に関すること」「感覚や運動」「言葉に関すること」「気持ちの面」の4つのジャンルからの支援方法が具体的に解説に書かれている。それぞれのタイプの児童にあう問題と方法を選ぶ。



5 指導上の留意点

- ・数の概念に関する理解度を把握することができる教材である。別冊「解答と解説」を読んでから問題の意図を熟知し、児童に取り組みせるとポイントを外さず支援できる。
- ・絵や図で表すことが多く丁寧に進むようになっている。
- ・医学と教育の接点を模索しながら作られた本であるので、医学的な面からのアプローチもなされていてとてもわかりやすい。
- ・視線と手先の協応作業で学習が進むため、集中力が途切れず進めていくうちに目や手の機能が訓練される。

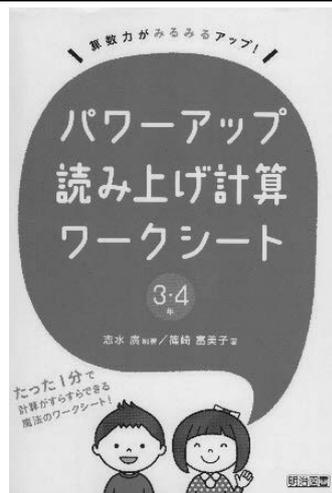
6 出典

- ・教材名 小学館「小児科医がつくった ゆっくりさんすうプリント 10までのかず 絵をみて、手をつかって、考える」
- ・価格 1,980円(税込)
- ・備考 国語「ゆっくりこくごプリント こころ、ことば、もじ」もある

1 教材名 パワーアップ読み上げ計算ワークシート

2 対象児童生徒の特性

- ・簡単な計算は正確にできる。
- ・単位や公式、定義など学習しているときは理解できているが、次の学習が始まると混乱する。
- ・集中力が持続せず、根気強く取り組めない
- ・数量関係の理解が十分ではない。
- ・算数の教科書がすらすら読めず、読解力が低い。



3 ねらい

- ・取組時間を1分間と区切ることによって集中力を高める。
- ・暗算の力や、単位や公式、定義などを繰り返し練習することで、少しずつ定着を図り、児童ができたことや個人の伸びを自覚することにつなげる。
- ・友達や教師、家の人などに聞いてもらうことで、他者とのかかわりを図る。

4 使い方

- ① 一人で課題を見て、1分間答えを声に出して言う（答えを自分で確かめながら）。
- ② 教師に確認してもらいながら、課題について、1分間答える。
- ③ その場で答え合わせをして、間違いを訂正する。
- ④ できなかった問題は印をつけ、繰り返し練習する。

問題	○	●	◎	答え	正	誤	時	分
①	1 km = □ m	3000 m = □ km	プールのたて 25□	25m	✓			
②	2 km = □ m	100 cm = □ m	教科書のあつさ 5□	5m	✓			
③	1000 m = □ km	300 cm = □ m	遠足で歩きより 8□	8m	✓			
④	4000 m = □ km	160 cm = □ m □ cm	はがきのたて 15□	15cm	✓			
⑤	1100 m = □ km □ m	1 m = □ cm	つめのはば 9□	9m	✓			
⑥	3400 m = □ km □ m	1 km = □ m	つくえの高さ 60□	60m	✓			
⑦	1060 m = □ km □ m	1 m60 cm = 106□ cm	黒板の横はば 4□	4m	✓			
⑧	2090 m = □ km □ m	2 m 8 cm = □ m □ cm	米つぶ 8□	8m	✓			
⑨	1 km 200 m = □ km □ m	3 m 6 cm = □ m □ cm	リコーダーの長さ 30□	30m	✓			
⑩	2 km 80 m = □ km □ m	3 m 45 cm = □ m □ cm	1円玉の直径 20□	20m	✓			

5 指導上の留意点

- ・児童の実態に合わせて問題の量を増減させる。
- ・1分間で何問答えることができたか記録をつけて、伸びを視覚的に自覚できるようにする。
- ・繰り返し練習する場合は、逆から読んだり、横から読んだりして変化をつける。
- ・できなかった問題については、児童の実態に応じて具体物を使ったり図やイラストで説明したりするなどして、つまずきの解消を図る。

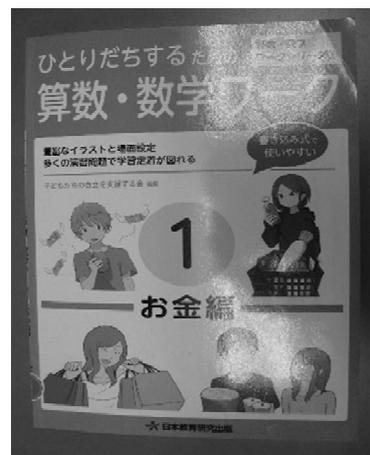
6 出典

- ・教材名 明治図書「パワーアップ読み上げ計算ワークシート 3・4年」
- ・編著者 清水 廣 / 著者 信崎 富美子
- ・価格 2,090円(税込)
- ・備考 「1・2年」「5・6年」もある。

1 教材名 ひとりだちするための算数・数学ワーク

2 対象児童生徒の特性

- ・いつもにこにこしていて、友達が多い。
- ・ADHD、LD、発達遅滞の診断がある。
- ・話を集中して聞くことが難しい。
- ・語彙が少なく、長い文章や説明の理解は苦手である。
- ・ひき算の暗算が苦手、簡単な計算でも筆算する。
- ・学習に向かう力がどの教科も弱く、登校渋りがある。
- ・小学校3年生から算数の通級を始め、今年度で7年目。

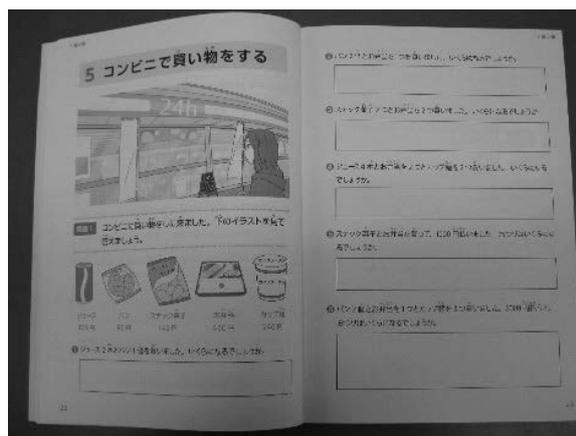


3 ねらい

- ・学習に向かう時間を延ばす。
- ・生活に役立つ基礎的な計算力と数学の知識を高め、学習上または生活上の困難さを改善しようとする意欲の向上を図る。

4 使い方

- ① 自分がよく買い物に行く店を聞く。
- ② ワークから教材を選ぶ。
- ③ 買い物に行く店の問題に取り組む。
- ④ 今まで学習した計算を使って解く。
- ⑤ 買い物の模擬体験をする。



5 指導上の留意点

- ・学習した計算や数学の知識が実際の自分の生活に役立つことに気付くことで、学習に向かう力の向上につなげる。
- ・店の写真やお金や品物の模型を準備し、視覚的支援と模擬体験することで、より深く学習定着を測る。

6 出典

- ・教材名 日本教育研究出版「ひとりだちするための算数・数学ワーク①お金編」
- ・著者 子どもたちの自立を支援する会 編集
- ・価格 1,375円(税込)
- ・備考
 - ・「ひとりだちするための算数・数学ワーク②時間編、③量と測定・図形・表とグラフ編」、「ひとりだちするための算数・数学」など、「ひとりだちするための・・・」の他シリーズもある。
 - ・東洋館出版「くらしに役立つワーク数学」も同様の学習に有効である。

1 教材名 とってもやさしい数学

2 対象児童生徒の特性

- ・簡単な四則計算など、単純計算には積極的に取り組むことができる。
- ・解き方のポイントが覚えられず、見通しをもった計算が苦手である。
- ・数学への苦手意識が強く、特に小学校の内容を学習することには抵抗が大きい。
- ・高等学校への進学を目指している。



3 ねらい

- ・苦手な数学に対して親しみをもたせ、ゆっくりじっくり取り組ませる。
- ・易しい言葉で書かれた要点まとめとコラムで、楽しく理解を深めさせる。
- ・解き方の簡単なポイントや過程を視覚的に確認することによって、自分なりに順序立てて課題に取り組む力を高める。

4 使い方

- ① 「サラッと要点」を教師が説明する。
- ② 「ビシッと確認」を生徒が書く。
- ③ 練習問題をやる。
- ④ コラムで楽しい覚え方をもう一度確認する。

5 指導上の留意点

- ・コラムや番外編を利用し、楽しく理解させる。
- ・中学校の数学が難しい生徒は、関連した小学校の内容を適宜入れながらやるとよい。
- ・要点や解き方のポイントの説明は、具体物や図・イラストなどを用いて、生徒の実態に合わせた学び方で行う。
- ・生徒が学習意欲を高めることができるよう、できたことを積極的に褒める。また、視覚的に達成感を感じられるような工夫（評価表、ファイリング、類似課題など）をする。

6 出典

- ・教材名 旺文社「とんでもやさしい数学（中学1～3年）」
- ・著者 佐藤 寿之
- ・価格 各学年 968円（税込）



通級指導における

教材・教具②

—カード・かるた・パズル関係—

1 教材名 SST絵カード

2 対象児童生徒の特性

- ・理解力はあるが、自分の興味・関心のあることに固執してしまい、学習課題が疎かになる。
- ・自分が話したいと思うと人の話が聞けず、自分の話を中断されると腹を立てる。
- ・自己主張が強く、友達とトラブルになりやすい。
- ・絵を画くことは好きだが、文を書くことには抵抗がある。



3 ねらい

- ・相手の気持ちを考えたり自分の気持ちをコントロールする方法を考えたりして、コミュニケーション能力を高める。
- ・振り返り活動を通して、その時間に何を学んだか確認し、より良い行動への意欲を高める。

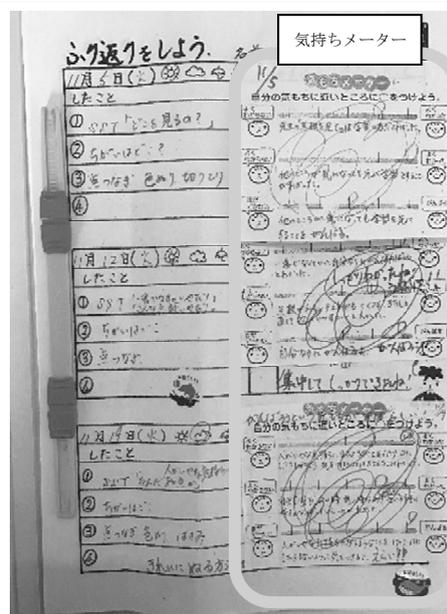


4 使い方

- ① カードを見て、どんな場面か確認する。
- ② カードの人物の言動についてどう思うか話し合う。
- ③ どうしたらよかったのか考えて話し合う。
- ④ 同じようなことはないか自分の生活を振り返り、自分のできる方法を考える。
- ⑤ 振り返りカードや気持ちメーターで振り返る。

5 指導上の留意点

- ・実際にあった、またはありがちな場面のカードを事前に選択して使用する。
- ・文章で振り返りを書くことが難しい児童には、『気持ちメーター』で学習の理解度を表現させ、分かったことや自分のとるべき行動を確かめさせる。
- ・担任と連携し、教室で起きた問題行動を記録用紙で確認したり、通級での学習を在籍学級での指導に活かしてもらったりする。



6 出典

- ・教材名 株式会社エスコアール「SST絵カード 状況の認知絵カード2」「SST絵カード B時間的、空間的な文脈の中での場面や相手の気持ちの認知」
- ・価格 4,180円(税込)
- ・備考
 - ・同教材には、他に「状況の認知絵カード1」「A場面の認知と予測と対処」「C社会的な常識と許される範囲の行動の認知」がある。
 - ・日本標準「U-SST ソーシャルスキルワーク」(1学年 320円)の気持ちメーター参考。

1 教材名 五色ソーシャルスキルかるた

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲームが好きである。
- ・人との関わり合いが苦手で、上手に関わることができない。
- ・じっくり課題に取り組むことが苦手である。
- ・集中力が持続しにくい。



3 ねらい

- ・かるた遊びの中で、学校生活に必要なマナーとルールを自然に身につけることを図る。
- ・かるた遊びという日本の伝統的な遊びを通して、楽しく覚える力を高める。
- ・社会生活を送るために必要な力を高める。
- ・集団でゲームすることにより、人とかかわり合う力を高める。
- ・集中して聴く力を高める。
- ・絵を見たり場面を想像したりして、様々なバリエーションを想像する力を高める。

4 使い方

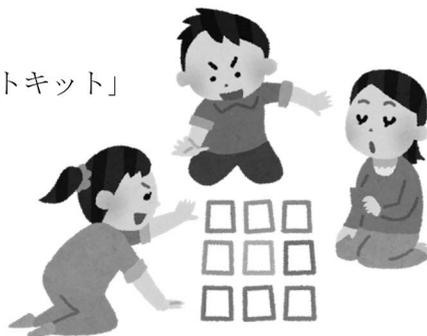
- ① 札を5色（20枚ずつ）に分けて、ゲームをスピーディに行う。
- ② かるたを取るときに、「はい」と返事をして取らせる。
- ③ ②ができるようになったら、取り札の内容を口に出して取る。

5 指導上の留意点

- ・事前に学習上のルールを確認しておく。
(話したいときや席を離れたいときは手を挙げる。かるたを取るときに、「はい」と返事をして取らせる。かるたを取るときに、「はい」ができるようになったら、取り札の内容を口に出してとる。)
- ・複数で取り組む場合は、コミュニケーション面や他者とかかわりの面も意識させる。

6 出典

- ・教材名 株式会社 教育技術研究所
「五色ソーシャルスキルかるた スタートキット」
- ・著者 TOSS オリジナル教材
- ・価格 3,000円(税込)



1 教材名 ころかるた（子ども向け）

2 対象児童生徒の特性

- ・自分の思いをコントロールすることが難しい。
- ・授業中などに思ったことをすぐ口にしてしまう。
- ・自分に自信がもてない。
- ・不安や心配事があると、自己主張が強くなり、周りと協調して活動できなくなる。



3 ねらい

- ・話を聞くときのルールなど、適切なコミュニケーションスキルを身につける。
- ・自己理解を深め、自分の思いや考えを言葉にして表現する力を高める。
- ・自分の思いや考えを受け入れてもらえる機会を増やし、自己肯定感を高める。

4 使い方

- ① ころかるたを引いて出た話題について、相手に質問する。
- ② 話すときは、文章にして分かりやすく伝えることを意識する。言葉遣いに気をつける。
- ③ 話を聞くときは、相手の話が終わるまで口を挟まないことをルールにする。最後に1つ質問や自分の思いを述べてもよいが、相手を否定するような意見や言い方は控える。
- ④ 基本ルールが身についてきたら、児童の興味があり、話したくなるまたは意見を言いたくなる話題を教師が題材として選び、自分の気持ちを調整する難易度を上げる。

5 指導上の留意点

- ・かるたの内容は自分の思いを表現できるものが多いので、児童からどのような言葉が出てきても否定せず受け止める。また、児童の思いを担任にも伝え、共有する。
- ・かるたの答えから児童の日ごろの思いや考えを引き出し、児童自身が自分の思いに気付けるような声掛けや質問を投げかける。
- ・教師対児童の1対1では、比較的基本ルールが身につけやすいが、慣れてくると形式的なものになってしまい、在籍学級でのかかわりに活かされにくいように感じる。友人などを交えながら実践することで、教室での周りの人とかかわり方により近づけていく。



6 出典

- ・教材名 株式会社クリエイションアカデミー「ころかるた（子ども向け）」
- ・価格 2,178円（税込）
- ・備考 「ティーン向け」や「全年齢向け」もある。

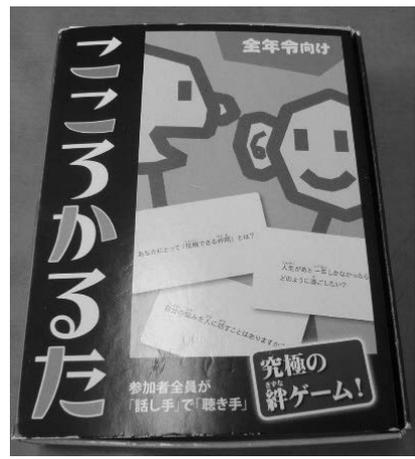
1 教材名 こころかるた（全年齢向け）

2 対象児童生徒の特性

- ・自分の思いを文章で伝えることが苦手である。
- ・集中力が持続しにくい

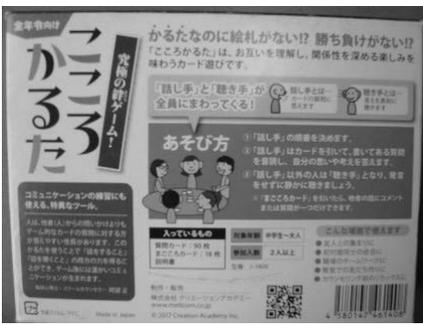
3 ねらい

- ・対象児童生徒の実態把握や特性の理解につなげる。特に、年度当初は有効である。
- ・教師と1対1で取り組んだ場合も、複数の児童生徒で取り組んだ場合も、お互いの性格や行動様式を理解するツールとなる。



4 使い方

- ① 時間に合わせてカードを10枚程度用意し、3～4枚選ばせる。
- ② 選んだカードの問いを読ませて、答えやすい問題から話させる。
- ③ 問いによっては、回答が難しい内容もあるので、答えたくない場合は、1回はパスしてもよいこととする（教師は、児童生徒が答えられる問いをあらかじめ選択しておくとうい）。
- ④ 初めて対応する児童生徒とかかわるときにも、会話のきっかけとして使える。



5 指導上の留意点

- ・児童生徒によって質問内容が難しく理解できない場合があるので、内容を吟味して扱う。
- ・答えを否定せず、うなずいたり拍手をしたり、気持ちよく答えられる雰囲気を作る。
- ・できれば教師もカードの質問に答える。

6 出典

- ・教材名 株式会社クリエーションアカデミー 「こころかるた（全年齢向け）」
- ・価格 2,178円（税込）
- ・備考 「子ども向け」や「ティーン向け」もある。

カードの質問例

あなたの一番お気に入りの時間について話してください。

さいきんみえいが最近見た映画（DVD）でいちばんかんだう一番感動したタイトルや内容を教えてください。

あなたの親友のことを話してください。

あなたが思う自分のイメージを教えてください。

1 教材名 SST 2 択展開カード
「このあとどうなるの？」

2 対象児童生徒の特性

- ・文書読解が苦手なで、文書全体の把握が難しい。
- ・反射的に反応することが多く、全体を見通すことが難しい。
- ・短絡的な理解で、適切な行動ができないことがある。



3 ねらい

- ・葛藤する場面の絵から全体の状況を読み取る力を高める。
- ・絵から読み取れることを物語にすることで、言語として表現する力につなげる。
- ・絵から読み取れる登場人物の心理を読み取ることで、他者理解の姿勢を育む。

4 使い方

- ① 「このあとどうなるの？」の問題場面の絵を見せる。
- ② この絵から読み取れることをできるだけ多くあげる。
- ③ 絵から読み取れる状況を自分の言葉で言語化する。
- ④ 絵に出てきている登場人物の心理を読み取り、その後の行動を推察する。
- ⑤ 正反対の行動をとった後の結果を推察する。

5 指導上の留意点

- ・苦手とする文書読解に関する課題として、全体を把握することに意識がいくように指導する。
- ・登場人物を自分に置き換え、その後の行動で自分だったらどうするかを考えさせる。
- ・短絡的な判断から、全体を見て総合的に判断し行動できるようその視点を育む。

6 出典

- ・教材名 株式会社クリエーションアカデミー
「SST 2 択展開カード このあとどうなるの？」
- ・著者 本多 恵子 / 監修 鈴木 眞理
- ・価格 9,900円(税込)
- ・備考
 - ・日常で起りがちなトラブル場面(15シーン)が描かれた「問題提起カード」と、2通りの解決法が描かれた「選択カード」が3枚一組になっている。
 - ・同発行元からは、SSTボードゲーム「なかよしチャレンジ(小学校低学年)」「フレンドシップアドベンチャー(小学校高学年以上)」も出ている。

1 教材名 アンガーマネジメントゲーム

2 対象児童生徒の特性

- ・些細なことでイライラしてしまう。
- ・気持ちが高ぶると攻撃的な言動をしてしまう。
- ・怒ってしまった後、一旦は後悔するが、しばらくすると再び同じような行動をとってしまう。



3 ねらい

- ・怒りの理由を知り、怒りのコントロールができるようになることで、自己肯定感を高める。

4 使い方

- ① 「怒りのできごとカード」の中からカードを1枚引きく。
- ② 「怒りの温度計カード」を使って、自分の怒りの感情度を1～10の中から選ぶ。
- ③ カードを引いた人がどのくらいの怒りを感じているか、他の人も予想する。
- ④ 自分と他者とでは怒りの感情の度数や怒りのポイントが違うことを知る。
- ⑤ 怒りの出来事を通して、どんなクールダウン方法があるかを話し合う。

5 指導上の留意点

- ・小学生に使うならば、オリジナルの「怒りのできごとカード」を作るとよい。
- ・ゲームをする前に『イラスト版子どものアンガーマネジメント』を使って、「アンガーマネジメントチェック」や「自分の怒りのチェックシート」を行うとよい。
- ・点数にこだわりやすい場合は、点数化しない（ゲームは、相手の怒りの感情度を予想し、合っていると得点が入るルールになっているが、実際の活動では、怒りに対する共感やよりよいクールダウンの方法を共有することに重点を置く）。

6 出典

- ①・教材名 一般社団法人 日本アンガーマネジメント協会
「みんなの怒りのツボを当てろ！アンガーマネジメントゲーム」

・価格 2,200円（税込）

- ②・教材名 合同出版
「イラスト版子どものアンガーマネジメント」
（日本アンガーマネジメント協会監修）

・著者 篠 真希、長縄 史子

・価格 1,870円（税込）



1 教材名 名前をつけて早く呼ぶカードゲーム ナンジャモンジャ

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲーム的な要素のある学習を好み、積極的に取り組むが、勝ち負けにこだわる面が見られる。
- ・他者というよりも、一人でいることを好む傾向がある。
- ・自分の考えを説明することに苦手さがある。
- ・想像力に乏しいが、記憶することは得意である。



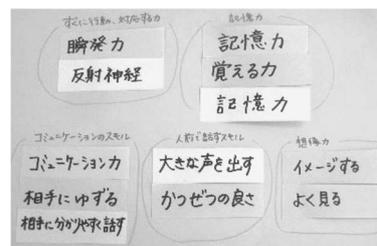
3 ねらい

- ・他者に自分の考えを説明したり、質問したりすることで、語彙を増やす。
- ・楽しくゲームに取り組み、友達とやりとりしながら、コミュニケーション力を高める。
- ・想像力や思考力を高める。

4 使い方

- ① めくったカードに描かれたキャラクターに名前を付ける。
- ② 自分がそのキャラクターに命名した理由を説明する。
- ③ 友達の説明を聞いて、さらに聞きたいことを質問する。
- ④ ゲーム終了後、楽しかった点や盛り上がった点について発表し合い、楽しさを共有する。
- ⑤ このゲームにはどんな力が必要かを各自で考え、付箋に書く。
- ⑥ 各自の意見を出し合い、同じような意見をグループにしていき、まとめる(上図参照)。
- ⑦ それぞれの力が将来どのような場面で生きてくるかについて、想像して話し合う。

①から③までは
ゲームの中で行う。



5 指導上の留意点

- ・ゲームに取り組む前に、このゲームを通してどんな力が身に付くかを考えることがねらいであることを伝え、勝敗にこだわることをないようにする。
- ・命名した理由についてうまく説明できない場合は、着目した点など、答えやすいような質問を教師が投げかけ、話しやすいようにする。
- ・各自が付けた名前や命名した理由について、良いところを教師が全員に伝える。
- ・付箋を出し合って話し合う際には、自分の意見について、他者が理解し、グループ分けしやすいように、具体的な場面を提示しながら説明してもらう。
- ・和やかな雰囲気で行うことができるように配慮する。

6 出典

- ・教材名 株式会社すごろくや「ナンジャモンジャ シロ」「ナンジャモンジャ ミドリ」
- ・価格 1,430円(税込)

1 教材名 おとあわせ おはなしカルタ

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲームが好きである。
- ・作文が苦手である。
- ・表現が苦手である。
- ・考えることが苦手である。
- ・集中力が持続しにくい。



3 ねらい

- ・「音」や「様子」を表した絵札と読札を使った言葉遊びカルタで、表現力、思考力を高める。
- ・集中して聴く力を高める。
- ・絵を見たり場面を想像したりして、様々なバリエーションを想像する力を高める。

4 使い方

① 「おとあわせカルタ」としての遊び方

「おと」や「ようす」を表し、擬音のシチュエーションに合った絵札と擬音カード（読札）が1対になったカードが30組ある。絵札をすべて広げ、読札を読み、内容にあった絵札を取る。十分に読札と絵札の組み合わせが理解されたら、読札を広げ、絵札を見せて、読札を取る。

② 「おはなしかるた」としての遊び方

絵札を全て裏向きに置く。遊びに参加している児童全員一斉に4枚の絵札を手に取り。手に取った4枚の内容を自由に組み合わせて、お話を作る。どんなお話でも構わない。素敵なお話や面白いお話など、できた人から順に発表していく。何回か繰り返しい、気に入ったお話をたくさん作った方がよい。

5 指導上の留意点

- ・事前に学習上のルールを確認しておく。
(話したいときや席を離れたいときは手を挙げる。かるたを取るときに、「はい」と返事をする。お話を発表するときも「はい」と返事をして発表する。)
- ・複数で取り組む場合は、コミュニケーション面や他者とのかかわりの面も意識させる。

6 出典

- ・教材名 ヒラメキ工房「おとあわせ おはなしカルタ」
- ・価格 1,650円(税込)



1 教材名 反対ことばカード

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・急に自分の興味のある話を始めることがある。
- ・正しく活用できる語彙が少ない。
- ・順番をなかなか守れない。

3 ねらい

- ・集中できる時間を延ばす。
- ・活用できる言葉を増やす。
- ・ルールを守って学習する。
- ・やりとりを通して、コミュニケーション面での成長につなげる。



4 使い方

- ① 今日の学習のルールを確認する。
(いくつかの中から選ぶ)
- ② 順番を決める。
- ③ 神経衰弱のようにカードをめくり、反対ことばが合っていたら、大きな声で読んでとる。
- ④ 全部取り終わったらそれぞれ枚数を数えて、順番に大きな声で読む。
- ⑤ 振り返りをして、後始末をする。
- ⑥ 次時の学習内容を確認する。



5 指導上の留意点

- ・事前に学習のルールを確認しておく。
- ・相談して今日の学習の方法を決める。
 - <例>自分の意見をみんなにわかるように伝える。
 - 友達の話も聞き、相談できるようにする。
 - みんながやりやすいように考えて、ゲームの準備をする。
 - ゲームに負けても、怒ったり暴れたりしないで、受けとめる。

6 出典

- ・教材名 銀鳥産業株式会社「ことばであそぼう 反対ことばカード」
- ・価格 605円(税込)
- ・備考 くもん出版「反対ことばカード」「CD付き英語反対ことばカード」もある。

1 教材名 かなかなパズルゲーム

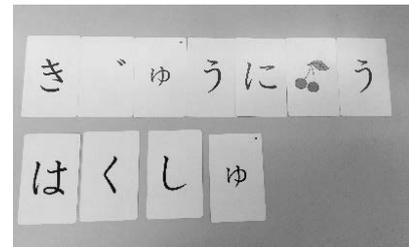
2 対象児童生徒の特性

- ・ゲームや個別のやりとりが好きである。
- ・ひらがなを読むことができる。
- ・勝ち負けにこだわりがある。
- ・特殊音節（っ、ゃ、ゅ、ょ）の読み書きが苦手である。
- ・言葉の数が少なく。言葉の意味理解が苦手である。
- ・話す、書くなどの言語表現が苦手である。



3 ねらい

- ・言葉の数を増やす。
- ・特殊音節の読みや書きに慣れる。

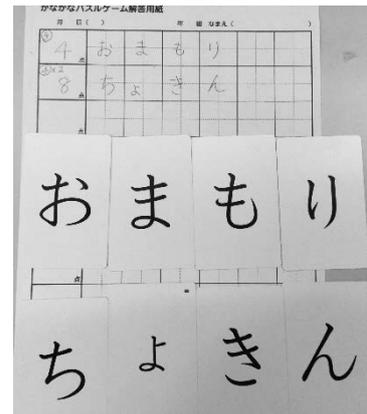


4 使い方

- ① ひらがなが1文字ずつ書いてあるカードを5枚ずつ配る。
- ② 順番に山から1枚ずつカードを取り、自分のカードと合わせて単語ができたなら自分の前に並べる。
- ③ できた単語を解答用紙に書き写し、得点を記入する。

【得点のルール】

- ・カード1枚を1点とする。濁点も1点となる。
 - ・拗音、促音を1文字使うと2倍、2文字使うと $2 \times 2 = 4$ 倍となる。
- ④ 順番に山からカードを取り、単語を考える。なければパスする。チェリーカードが出ると何にでも使える。
 - ⑤ 得点の合計をする。
単語を作ることに慣れてきたら、単語が作れずに残ったカード枚数を合計得点からひいてもよい。



5 指導上の留意点

- ・単語を想起できないときは、「〇〇もあるよ」などとヒントやアドバイスを積極的に伝え、語彙の獲得や言葉の意味の理解につなげる。
- ・促音、拗音を使って単語を作ると得点が増えることを具体的な単語で例示し、促音、拗音を使う意識を高め、読み書きの向上につなげる。
- ・「相手のカードの中で欲しいカードがあればもらえる」というルールを設定すると「交渉する、譲る」などのSSTにつながる。

6 出典

- ・教材名 かもがわ出版「かなかなパズルゲーム」
- ・著者 山田 充
- ・価格 3,080円（税込）

1 教材名 意味から覚える 漢字イラストカード①

2 対象児童生徒の特性

- ・絵入りカードなど次々と目先が変わるものがあると、興味を示して学習に取り組むことができる。
- ・漢字の読み書きや意味を伴って覚えることが苦手である。
- ・文字だけの単調な学習では、集中力が持続しない。



3 ねらい

- ・漢字が含まれた言葉を読むことによって、イメージや意味を伴いながら、漢字の意味を理解する力を高める。
(たとえば「頭」と「顔」が混同しやすい児童には、比べることができて効果的である。)
- ・絵を見て漢字の読み方が言えることで、「読める、意味が分かる」という自信を高める。
- ・漢字の書き順を確認させるとともに、漢字を書く学習への抵抗を軽減する。

4 使い方

- ① あらかじめ、教師が児童の実態に応じて、使用するカードを選ぶ。(一度に20～30枚)
- ② 児童にカードの表を見せて(持たせて)、漢字を読ませる。
- ③ カード1枚ごとに、裏を見て筆順を確認し、漢字の含まれた語句を音読させる。
- ④ もう一度カードの表を見ながら、リズムよく全部の漢字を音読する。また、字形の似ている漢字同士や対義語を並べて、読みや意味の違いを確認する。
- ⑤ 取り組んだ漢字を出題したプリントをする。(思い出せないときは自分でカードを見て漢字を書く。)

5 指導上の留意点

- ・事前に学習上のルールを確認しておく。
- ・児童の自主性を重んじる(漢字が読めなかったら自分でカードの裏を見て、読み方や筆順の確認をする。漢字を書くプリントでも、分からないものは自分でカードを見て書くなど)。
- ・児童の実態によって、筆順や語句の読み方の許容範囲を工夫する(幾つかの読み方のどれか一つだけでも、読めれば合格とするなど)。

6 出典

- ・教材名 かもがわ出版「意味から覚える 漢字イラストカード」
- ・著者 山田 充
- ・価格 3,080～5,280円(税込)
- ・備考 小学校1～6年まで展開されている。

1 教材名 意味から覚える 漢字イラストカード②

2 対象児童生徒の特性

- ・明るく、対人関係は良好である。
- ・自分の得意なことや好きなことには集中して取り組むことができる。
- ・漢字や文章を書くことに苦手意識がある。



3 ねらい

- ・カードを使って語彙を増やし、自分の言葉で話したり、文章を書いたりする力を高める。
- ・言葉でのやりとりを楽しみながら、コミュニケーション力の向上を図る。
- ・できたことを認め、成就感を得させることで自信を高める。

4 使い方

- ① 取り組む時間を決める。
- ② 表のイラストと裏の漢字を照らし合わせて覚える。
- ③ かるたのように、イラストを見て、漢字を言う。
- ④ 漢字を確認する。
- ⑤ 活動を振り返り、覚えられなかった漢字を確認する。



5 指導上の留意点

- ・コミュニケーションを図りながらゆっくり学習を進め、学習への抵抗感や負担感を軽減させる。
- ・担当者との信頼関係を築き、心理的安定を図る。
- ・できたことを認め、励まし、やる気を促すことによって、学習意欲の向上を図る。
- ・覚えられなかった漢字に対しては、無理をせず、時間を空けて繰り返し取り組ませる。

6 出典

- ・教材名 かがわ出版
「意味から覚える漢字イラストカード」
- ・著者 山田 充
- ・価格 3,080～5,280円（税込）
- ・備考
 - ・漢字の形・読み方・意味をうまく関連づけられない児童について、イラストとゲーム形式で習得を図る。
 - ・小学校1～6年まで展開されている。



1 教材名 漢字博士（漢字作りカード）

2 対象児童生徒の特性

- ・感情が高ぶることがあり、泣き止まないことが時々ある。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・多弁である。学習中も、その時の学習内容に関係なく、唐突に話をし出すことがよくある。
- ・算数（計算等）はできるが、漢字の読み書きは得意ではない。



3 ねらい

- ・学習意欲と集中力を高める。
- ・字形の認識能力を高め、読み書きの力を高める。



4 使い方

- ◎ 1 2 0の偏(へん)のカードと旁(つくり)のカードがあり、組み合わせ、漢字を作る教材である。ゲーム形式で行った。
- ① 漢字の偏と旁の書かれたカードを裏返しにして、全て並べる。
 - ② 取り組む時間と、先攻・後攻を決める。
 - ③ 2枚めくり、漢字ができれば自分の物とする。
 - ④ できなければ、表にしたまま相手に順番をゆずる。
 - ⑤ 繰り返していき、時間内にできた漢字の数を競う。



5 指導上の留意点

- ・最初、「神経衰弱」のように2枚をめくり、漢字ができなければ、また裏返していたが、とても難しく、また時間もかかったため、上記のように、一度めくったカードは表にしたままにするようにした。
- ・高いレベルの児童の場合や長い時間を使える場合などは、「神経衰弱」形式で行っても良いと思う。ただし、対象児童の集中力の程度もよく考慮する必要がある。
- ・この教材には、『漢字組み合わせ一覧表』が付いており(上記写真)、このゲームでできる主な漢字が記載されている。児童には、この表を使っても良いことにすることで、読めなくても漢字を作ることができ、漢字を知り、読みを知っていくきっかけになっていく。
- ・読みを覚えることは強要せず、児童の状況に合わせて取り入れる。
- ・右写真は、教師より多く作れて満足そうに眺めている様子である。



6 出典

- ・教材名 奥野かるた店「漢字博士 No.1 (ポピュラー版)」
- ・価格 2,200円(税込)
- ・備考 漢字博士(入門編、No.1、No.2、No.3)、もじもじ博士シリーズ、漢字の宝島シリーズなど、「奥野かるた店」だけで20種類以上ある。

1 教材名 「ととあわせ」
（魚の漢字とイラスト合わせカード）

2 対象児童生徒の特性

- ・漢字に苦手感がある。
- ・ローマ字に苦手感がある。

3 ねらい

- ・漢字の苦手感を軽減する。
- ・ローマ字を覚えたり、キーボード打ったりすることを楽しく学習させる。
- ・漢字やローマ字を覚えることは、パソコン打ちに利便性があることを経験させる。



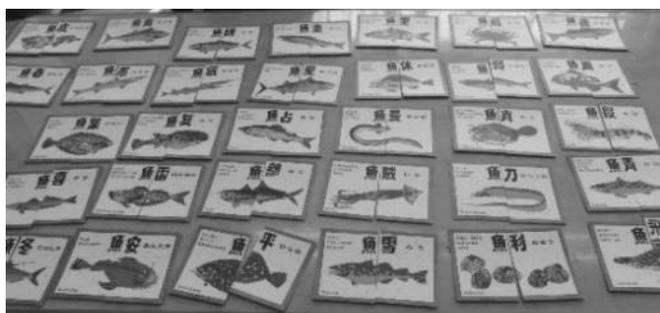
京都丹後版



江戸前版

4 使い方

- ① 「魚へん」カードと「つくり」のカードを分けてランダムに並べる。
- ② 「鮭」「鱈」など漢字を合わせる。絵を参考に合わせることもできる。
- ③ カードにローマ字（ヘボン式）が書かれており、それを読んで参考にして、漢字カードを合わせることもできる。
- ④ すべて合わせたら完成。



5 指導上の留意点

- ・「魚と春でさわら」「魚と青でさば」「魚と安いでアンコウ」など覚えやすいカードから並べるようにする。
- ・キーボードのローマ字打ちをさせる場合は合わせたカードのローマ字を打ち、漢字に変換させるとよい。



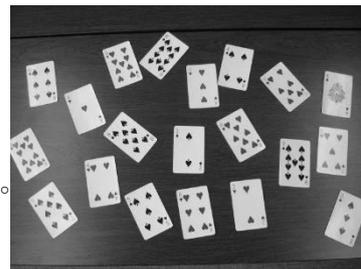
6 出典

- ・教材名 株式会社環境総合テクノス魚魚工房「ととあわせ（京都丹後版、江戸前版）」
- ・価格 1,320円（税込）
- ・備考 同シリーズとして、「越前若狭版」や「Sushi Bar 英語版」などもあり

1 教材名 トランプの活用①

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲームや体を動かして遊ぶことが好きである。
- ・視覚的情報を素早く認知することが苦手である。
- ・整理整頓が苦手で、持ち物を全てひとまとめにしてしまう。
- ・学習への苦手意識が強く、特に数学的思考が苦手である。

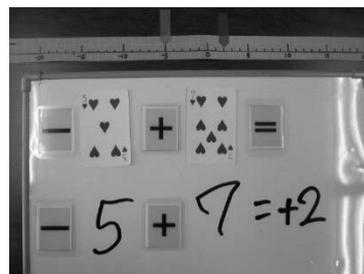


3 ねらい

- ・授業のはじめに、トランプを使用したビジョントレーニングを楽しみ、視機能を高める。
- ・生徒自身が引いた2枚のトランプの数字を使って計算問題（「正の数・負の数の加法・減法」）を作り、楽しみながらアクティブに取り組ませる。
- ・直接数字を扱うのではなく、トランプを使って、視覚的に数量を認知することにより、数学への抵抗感を軽減させる。

4 使い方

- ① ハートとスペードのトランプ各1から10までを机上にランダムに置く。
- ② ハートを10まで取ってから、スペードの10までを取るというビジョントレーニング（数字探しゲーム）であることを確認する。
- ③ タイムを計って取り組む（毎回のタイムを記録する）。
- ④ ビジョントレーニングで使用したトランプから2枚引く。
- ⑤ 引いたトランプの数字を使って計算問題を作り、解く。



5 指導上の留意点

- ・数字探しゲームのルールを確認しておく（慣れてきたら、ゲームの方法を変える）。
- ・個人差があるため他者とは比べず、前回の自己タイムを越えていくことができるように褒めたり励ましたりする。
- ・数字探しゲームでリラックスした後、トランプを使った自作の計算問題にチャレンジさせることで学習意欲の向上につなげる。
- ・計算過程で迷いが生じていると思われる時には、思考の補助として自作の「数直線の帯」と付箋を使用するように促す。

6 出典

- ①・教材名 株式会社実務教育出版「発達障害の子どもを伸ばすビジョントレーニング」
 - ・著者 小松 佳弘
 - ・価格 1,760円（税込）
 - ・備考 右よりワークシートがダウンロード可。URL：<https://www.0vision10.com/>
- ②・教材名 フォーラム・A企画「あそび+学びで楽しく深く学べる算数アクティビティ200」
 - ・著者 樋口 万太郎
 - ・価格 2,090円（税込）

1 教材名 トランプの活用②

2 対象児童生徒の特性

- ・勝ち負けのあるゲームに興味がある。
- ・数字や計算に対する苦手意識がある。
- ・集中力が持続しにくい。



3 ねらい

- ・ゲーム的な要素を取り入れた活動の中で、数量の意味を実感させる。
- ・集中できる時間を延ばす。
- ・教師とのやり取りを通して、コミュニケーション能力を高める。

4 使い方

(1) 数の大きさ比べ (2～5人)

- ① クリップを取り付けたカードを、マグネット付き釣り竿で釣り、大きさを比べる (複数枚の合計も有)。
- ② 2枚以上のカードを釣り、計算 (+、-、×、÷) した上で大きさを比べる。



(2) 10 (または他の数字) を作るゲーム (2～4人)

- ① カードを切ってから、手元に2枚ずつ並べる。残りは真ん中に裏返して積んでおく。
- ② 2枚のカードを使って (計算して) 10になれば、カードを獲得できる。
- ③ 獲得できたら、カードの山から2枚ひき、手元に並べる。
- ④ 10にならない場合は、1枚手持ちのカードを捨ててから1枚ひく。
- ⑤ カードの山がなくなった時点で、獲得しているカードの枚数が多いほうが勝ち。

(3) 筆算 (整数・小数・分数)

- ① 引いたカードを組み合わせてホワイトボードに並べ、筆算 (+、-、×、÷) の練習をする。



5 指導上の留意点

- ・事前にゲームのルールを確認しておく。
- ・ゲームの結果を板書したり、表に書き入れたりして、視覚的に振り返りをさせる。
- ・気づいたことや思ったことを発表したり書かせたりして、表現力の向上につなげる。
- ・複数の人数で行う際には、かかわり方の配慮をする。
- ・各学年の算数科の学習に合わせて、取組み方法を工夫することができる。

6 出典

- ・教材名 ダイソー「トランプ」
- ・価格 110円 (税込) (100円で2セット入りもある)

1 教材名 はじめておぼえるABCかるた

2 対象児童生徒の特性

- ・絵を描くことが好きである。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・自分で判断して行動することが苦手である。
- ・言語理解力が低い。



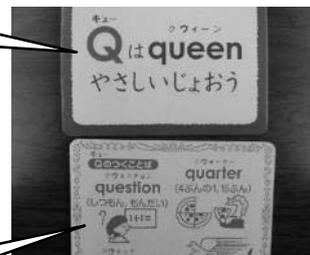
3 ねらい

- ・繰り返しかるたを読むことによって、アルファベットの発音や、大文字と小文字を正確に把握する力を高める。
- ・楽しく取りませることで、学習意欲や集中力の向上につなげる。

4 使い方

- ① 絵札を全て並べる。
- ② 「おや」が、読み札を読む。
- ③ 読み札のアルファベットが書いてある絵札をさがして取る。
- ④ 一番多く絵札を取った人の勝ち。
- ⑤ 絵札裏の他の英単語を発音し、イラストと意味を確認する。

読み札



絵札裏

5 指導上の留意点

- ・かるた取りのルールやかるたの使い方を確認しておく。
- ・複数で取り組む場合は、他者との関わりの面も意識させる。
- ・「おや」は、交替して行わせる。
- ・白札に好きなかるたを自由に描いて使わせることによって、記憶力や学習意欲向上につなげることもできる。

6 出典

- ・教材名 集英社「はじめておぼえるABCかるた」
- ・価格 1, 320円 (税込)
- ・備考 アルファベットを正しく声に出して読んだり書いたりすることができるようになったら、語彙の導入を行うために、「英語かるたゲーム」(下記書籍内)などを参考にして取り組んでみるのも楽しい。

明治図書出版「生徒が熱中する英語ゲーム33の技」

著者 瀧沢 広人

価格 2, 640円 (税込)



1 教材名 日本地図パズル

2 対象児童生徒の特性

- ・聴覚認知より視覚認知が優位である。
- ・地図に興味がある。
- ・学年相当の漢字は、なかなか覚えられない。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・自分の興味・関心があることは話せる。



3 ねらい

- ・児童の興味・関心の高い地図（日本の都道府県パズル）を通して、都道府県に興味をもたせるとともに、漢字の読み書きの力を高める。
- ・集中できる時間を延ばす。
- ・コミュニケーション力を高める。

4 使い方

- ① 地方ごとに分けて、都道府県名を読む。
- ② 読めるようになった都道府県を地図にはめ込む。
- ③ 読めるようになった都道府県を白地図にチェックする。
(読めるようになってきたら、読めなかった所だけチェックするでもよい。)
- ④ 読めるようになったら、都道府県名を漢字で書くことに挑戦する。ただし、難しい漢字は無理しない。
- ⑤ 読めたり書けたりする都道府県が増えていくことを褒め、自信につなげる。

5 指導上の留意点

- ・都道府県の白地図や都道府県名を書き込むプリントなども児童の実態に合わせて用い、児童の自己肯定感の向上につなげる。



6 出典

- ・教材名 「日本地図パズル」
- ・価格 528円(税込)
- ・備考 パズルになっていれば多少形態が違っていてもよい。

1 教材名 パズルT

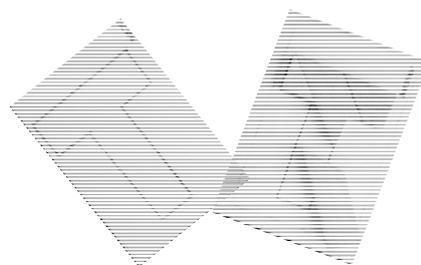
2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しない。
- ・積み木やパズルなどに抵抗がない。



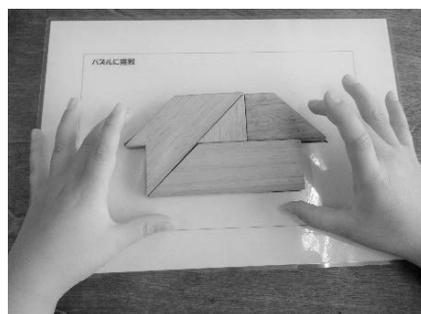
3 ねらい

- ・集中力を伸ばす。
- ・空間認知力を伸ばす。
- ・あきらめない心を伸ばす。
- ・「できた」という達成感を味わわせる。



4 使い方

- ① 敷き詰められる下敷き（教師が作っておく）を使って形をつくる。
- ② 難易度の低いと思われる形からチャレンジする。
- ③ 用意した下敷きが全部できたら、形だけを見てチャレンジする。
- ④ いろいろな形を工夫して作ってみる。



5 指導上の留意点

- ・自閉傾向・多動傾向等、多くの特性に対応できる。
- ・敷き詰められるようにいくつかのパターンの下敷きを作っておく。
- ・組み立てはやや難しいため、タングラムの経験があると取り組みやすい。
- ・なかなかできない場合はヒントとなる形に注目させる。
- ・ヒントを出すなどして、できないままいつまでもさせない工夫をする。
- ・4ピースなので短時間でできる。

6 出典

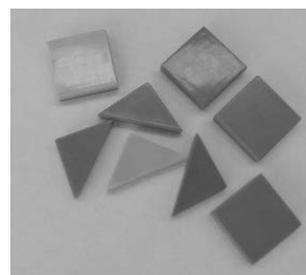
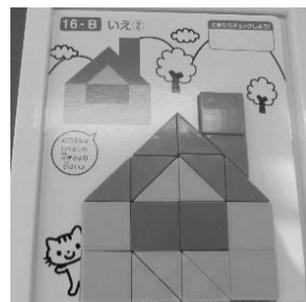
- ・教材名 ディーワン・プロダクツ
「銘木NOBパズルシリーズ The-T(ザ・ティー)」
- ・価格 1,650円(税込)
- ・備考 同シリーズに、「ロングラム(7ピース)」や「The-F(6ピース)」「テトラ(立体8ピース)」等、難易度が高いものもある。



1 教材名 図形モザイクパズル

2 対象児童生徒の特性

- ・まじめで、一生懸命取り組む。
- ・知識や方法が理解できたことは、他のことについても当てはめて処理できる。
- ・図形を直感的に捉えることが苦手である。
- ・教室では、話を集中して聞いて理解することが苦手である。



3 ねらい

- ・自分で選択する力を図る。
- ・図形を直感的に捉える力を高める。
- ・達成感を感じるにより自信を高める。
- ・図形を使って楽しく活動することにより、図形の苦手意識を軽減し、関心を高める。

4 使い方

- ① 同じようなレベル4枚の絵から取り組みたい絵を選ぶ。
- ② どんな場面の絵か確認する。
- ③ 課題の絵に合わせて、赤、青、緑、黄色4色の三角形と四角形のピースを枠にはめていき課題と同じ絵を作る。
- ④ できあがったら、合っているか教師と一緒に確認する。
- ⑤ ワークシートにシールを貼り、時間を記入し、活動を振り返る。
- ⑥ ブロックを形ごとに片付ける。

5 指導上の留意点

- ・三角形・四角形どちらを使ってもよい場合もあるが、解答にこだわらずいろいろな方法があることを確認する。
- ・ワークシートに、できるまでにかかった時間を記録、シールを貼ることにより、継続的かつ視覚的にできたことが実感できるようにし、達成感を味わえるようにする。
- ・できあがった作品を一緒にみて、誉め、学習意欲と高める。
- ・ただ、作品を完成させるだけでなく、その絵をモチーフに話をする。
- ・1サイクル終わったら、次の段階は何色のどの形が何枚使われているか予想する。
- ・色板を使って、自由に絵を作ったり見本と同じ課題で自由に取り組みたりする活動を取り入れてもよい
- ・写真を撮って、記録として残しておくのもよい。

6 出典

- ・教材名 くもん出版「図形モザイクパズル」
- ・価格 3,630円(税込)

1 教材名 お箸でお豆さんつかみゲーム

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しない。
- ・考えることを面倒がることもある。
- ・ある程度、箸が使える。



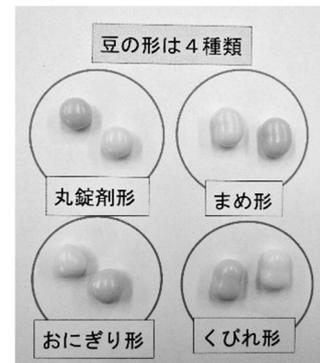
3 ねらい

- ・集中力を伸ばす。
- ・思考力を高める。
- ・指先の巧緻性を磨く。
- ・コミュニケーションを楽しむ。
- ・始める際の緊張感を味わう。



4 使い方

- ① 一人で（黄と緑の豆を箸でつまんで皿に入れる・出す。）
- ② 二人で
 - ・先生と：黄と緑に分かれて競い合う
 - ・友達と：黄と緑に分かれて競い合う
- ③ 色を交替して行う



5 指導上の留意点

- ・初めに一人でやってみるのもよい。
- ・4種類の形があるので、どの形からつまむか作戦を立てさせるとよい。
- ・つかみにくい形はどう箸を使うか考えるように促す。
- ・教師対児童の場合は、児童の進み具合を見ながら加減するとよい。
- ・一人でする場合は時間を計測する等やり方を工夫する。
- ・飽きないようにいろいろなやり方を取り入れる。
- ・ハンディをつけるのもよい。
- ・だらだらすることのないように、豆を全部移動したら一旦終了というようにする。
- ・スタート時の緊張感が楽しめるようにする。
- ・楽しい雰囲気の中でできるように配慮する。
- ・豆数が少ないので（全12個）、短時間でできる。

6 出典

- ・教材名 ダイソー
 「お箸でお豆さんつかみゲーム」
- ・価 格 110円（税込）



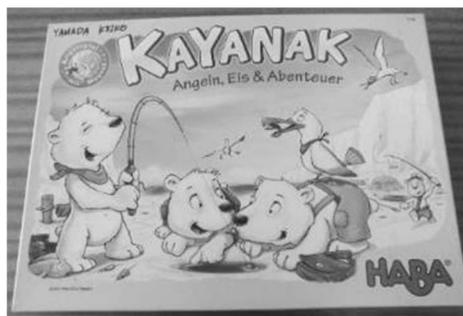
1 教材名 カヤナック（釣りゲーム）

2 対象児童生徒の特性

- ・ワーキングメモリーが苦手である。

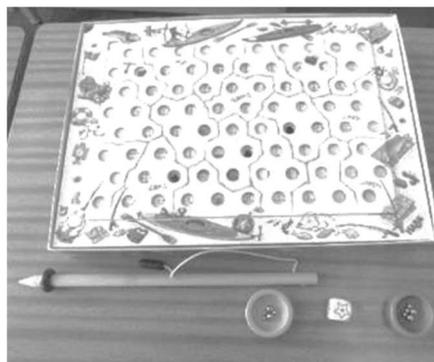
3 ねらい

- ・遊びながら、大事なことを覚えて使用する力を育成する。



4 使い方

- ① 取り組む時間を決めておく。
- ② 新しい紙をセットし、鉄球を入れる入れ物の色をそれぞれ決める。
- ③ じゃんけんなどで順番を決め、順番に白のサイコロを振る。
- ④ 振ったさいころの目（1～3）の数を、竿の先端の尖った部分で穴をあける。
- ⑤ 自分があけた穴を覚えておき、その穴に、先に磁石がついている釣り竿の糸を入れて、中にある鉄球を釣る。
- ⑥ 時間になったら、それぞれがとれた鉄球を数える。たくさん鉄球をとった人が勝ち。



5 指導上の留意点

- ・枠の下に敷いて使用する紙は、A4のわら半紙やコピー用紙などでよい。
- ・ゲームが進むとたくさんの穴があき、今、自分があけた穴も分からなくなるので、あけた穴を、しっかり覚えているように声掛けをしておきワーキングメモリーを訓練する。
- ・鉄球は小さくつかみにくいので、釣れた鉄球をこぼしたり転がらせたりしないように声をかけ、指先の巧緻性を高められるようにする。
- ・最後に自分がとった鉄球を数える活動をさせる。
- ・九九が定着していない子には、大玉5点、小玉3点など苦手な九九の段を使って、点数を数えさせるようにする。点数計算で九九の利便性を感じさせる。

6 出典

- ・教材名 HABA社（ドイツ）「KAYANAK（新版）」
- ・価格 6,380円（税込）



通級指導における

教材・教具③

—ダウンロード教材・ICT関係—

1 教材名 まちがいさがし・点つなぎ（点描写・点つなぎ・図形描写など）

■ まちがいさがし（ハシントンテンデー）

2 対象児童生徒の特性

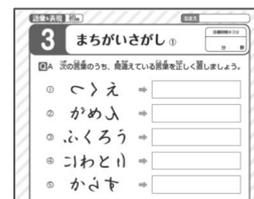
- A：集中力がない・人とのかかわりが苦手・気持ちのコントロールが苦手
- B：話すことが好き・集中力がない・言語能力が低い
- C：落ち着いている・自信がない・苦手なことはしない
思いを伝えることが苦手



「①まちがいさがし」

3 ねらい

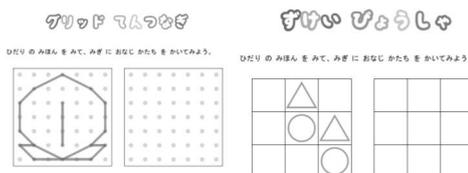
- ・集中する時間を延ばす。
- ・コミュニケーションをとりながら楽しく活動させる。
- ・学習を始められるよう落ち着かせる。
- ・成功体験をさせ、自信を高める。
- ・空間認知や形を分別する力などを高める。



「②語彙&表現 まちがいさがし」

4 使い方

- ① 種類やテーマ、時間を決める。
- ② 難易度（やさしい・ふつう・難しい）を選ぶ。
- ③ わからないときは、ヒントをだす。
- ④ 答え合わせをして認める。



「③グリット点つなぎ」

「④図形描写」

5 指導上の留意点

- ・落ち着いてその日の活動に取り組めるよう、授業の導入に取り入れる。
- ・季節感や興味・関心のあるテーマ・種類を選び、楽しくコミュニケーションを図る。
- ・個に応じて難易度を選ぶ。
- ・必ず完成させ、達成感・満足感を味わわせる。
- ・短時間でできるので課題終了後に活用してもよい。



「⑤点つなぎ」

6 出典

- ・①②⑤：教材名 ちびむすドリル
①⑤幼児の学習素材館
「間違い探し・探し絵」URL：<https://happyililac.net/machigai-h.html>
「点つなぎ」URL：<https://happyililac.net/gakusyuu-tentunagi.html>
- ②小学生 受験研究社 × ちびむすドリル コラボ企画「語彙&表現」
URL：<https://happyililac.net/sk1903221450.html>
- ・③④：教材名 ふりんときっず 幼児向けプリント（運筆プリントなど）
URL：<http://print-kids.net/>

1 教材名 季節の工作（モビール）

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・急に自分の興味のある話を始めてしまうことがある。
- ・ハサミやのり、コンパス等をうまく使えない。
- ・すぐにあきらめてしまう。



3 ねらい

- ・集中できる時間を延ばす。
- ・手指の巧緻性を高める。
- ・作品を褒めてもらうことで、学習意欲や自己肯定感を高める。

4 使い方

- ① 作りたいもの（種類）を選ぶ。
- ② 材料と使う道具の確認をする。
- ③ 作り方を読んで、手順を確認する。
- ④ 始める時間、終わる時間を決める。
- ⑤ 作業を進め、時間が来たらやめられるようにする。
- ⑥ 振り返りをして、後始末をする。
- ⑦ 次の時間の確認をする。



5 指導上の留意点

- ・事前に学習のルールを確認しておく。
- ・勝手に作り始めないように、一緒に作り方を読んで、手順を確認する。
(声に出して区切って読み、切り取り線と折り線を確認する。)
- ・切り取った部品に記名し、自分のものと友達のを区別できるようにする。
- ・分からないところは、「分からない。教えて」と言って確認できるようにする。
- ・出来上がった作品は在籍教室に掲示してもらい、自分で話したり、先生や友達に褒めてもらったりすることにより、学習意欲向上につなげる。
- ・複数で実施するときは、コミュニケーション面での関わりも意識させる。

6 出典

- ・教材名 ちびむすドリル 幼児の学習素材館
はさみ練習・のりで貼る練習プリント「季節のモビール工作プリント」
URL : <https://happyilac.net/kiriharikosaku.html#link2>

1 教材名 会話の練習用質問くじ

2 対象児童生徒の特性

- ・学習や運動に一生懸命取り組む。
- ・穏やかで、友だちに優しく、仲よく遊ぶことができる。
- ・場面緘黙傾向で、自分の思いを言葉で伝えることが難しい。
- ・読み書きや漢字が苦手である。

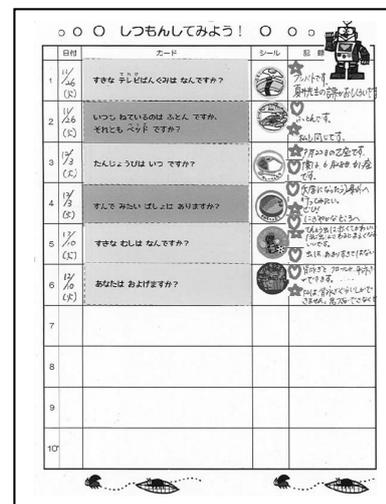


3 ねらい

- ・簡単な質問に答える力を高める。
- ・文章を書くことへの抵抗を和らげる。
- ・自分が発した言葉に、主語や述語を付け足すと文章になることを体験させる。

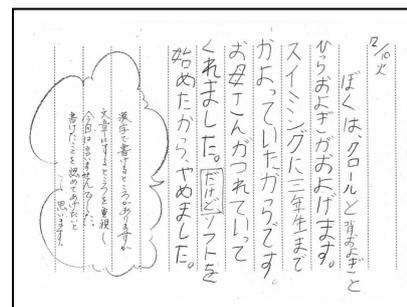
4 使い方

- ① 質問くじを切り離す。
- ② 児童：質問くじをひき、教師に質問をする。
- ③ 教師：質問に答え、児童にも同じことを尋ねる。
- ④ 児童：質問に答える。
- ⑤ 教師：児童の言葉を受けて、自分のことを話したり質問したりする。(できるだけ、話をつなげる)
- ⑥ 台紙に質問くじを貼る。
- ⑦ 質問をしたり答えたりできたことを振り返り、シールを貼る。
- ⑧ 話が続いたときは文章にし、その後大きな声で読んでみる。



5 指導上の留意点

- ・最初は、質問に対して目の動きや首振りでの返答も認め、反応しようとする意思を育てる。
- ・児童の様子を見ながら、答え方を例示をしたり、2～3個の中から選ばせたりする。
- ・慣れてきたら、交代して質問くじをひく。
- ・返答を教師がメモしておく、振り返りや文章化するときには児童と確かめられる。
- ・主語や述語を補足しながら、話した順に文章を書いていくとよい。文章として書きにくいものは、児童と相談をして省く。



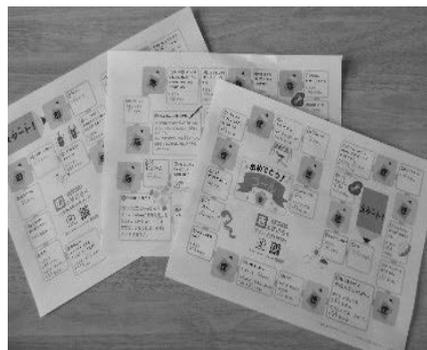
6 出典

- ・教材名 ちびむすドリル 幼児の学習素材館「文字・言葉・文カード 会話の練習用質問くじ」 URL : <https://happylilac.net/kcard.html>

1 教材名 50音すごろく

2 対象児童生徒の特性

- ・明るくお話が好きである。
- ・言葉の読みがたどたどしい。
- ・集中力が持続しにくい。



3 ねらい

- ・50音それぞれの音で始まる言葉にたくさん触れて、語彙を豊かにする。
- ・集中する時間を延ばす。
- ・順番やルールを守る姿勢を育む。

4 使い方

- ① 自分のコマを選んで、サイコロをふる順番を決める。
- ② 順番にサイコロを振って、出た目の数だけ声を出して数えながら進む。
- ③ 止まったところに書いてある文を声に出して読み、書いてある指示に従う。
- ④ 先にゴールしたら勝ち。
- ⑤ 今日の活動を振り返り、感想を伝え合う。



5 指導上の留意点

- ・事前に学習上のルールを確認しておく。
(お互いのやることをしっかり聞いたり見たりする、読めない文字や指示が分からないときは教師や友達に教えてもらうなど)
- ・指示が上手にできたときは、お互いに喜んで拍手をする。
- ・時間を見て、もう一回できそうだったら、相手と相談させてからする。
- ・活動の様子を保護者や担任の先生に伝え、次の活動への意欲につなげる。

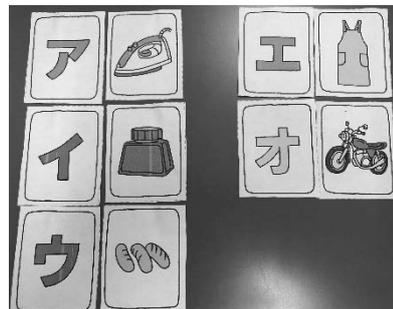
6 出典

- ・教材名 ちびむすドリル小学生
Dekanga × ちびむすドリル コラボ企画「50音すごろく」
URL : https://happyililac.net/dkg_2017-002.html
- ・備考
 - ・「言葉の発音練習すごろく」
 - ・「あ」～「わ」までのすごろくの他に、「けいさんすごろく」や「とけいすごろく」などもある。

1 教材名 カタカナカード

2 対象児童生徒の特性

- ・視覚的に捉えたことは覚える。
- ・座って学習することは困難である。
- ・集中力が持続しにくく、わからないと拒否して怒り出す。

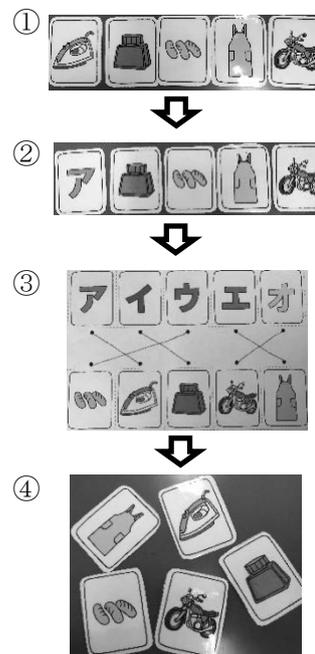


3 ねらい

- ・カタカナの読み書きの習得を図る。
- ・楽しみながら学習することで、学習意欲を向上させる。
- ・ゲーム形式を取り入れることで、集中力を持続させる。

4 使い方

- ① 絵の方のカードを並べる。
- ② 「アイロンのア」と言ったら、カードを裏返してカタカナの方を出す。
- ③ カタカナと絵をマッチングさせる。
- ④ アからオまで読んだら、バラバラにしてカルタのようにカードを取る。
- ⑤ 学習したカタカナをプリントに書く。



5 指導上の留意点

- ・初めは、ア行の5文字だけですが、徐々に文字数を増やしていく。
- ・知らない言葉は（オートバイなど）、カードやタブレットを使って調べる。
- ・慣れてきたら、フラッシュカードやトランプ遊び（神経衰弱など）のように使って楽しみながら学習を進める。
- ・時々、エビデンスを取り、次回の学習に生かす。
- ・文字と絵を切り取り、貼り合わせてラミネートをかけるとよい。

6 出典

- ・教材名 ちびむすドリル 幼児の学習素材館「カタカナ練習プリント・カード」
URL : <https://happyilac.net/katakana-h.html>
- ・備考 ・「ちびむすドリル」は教材の無料ダウンロード・印刷ができるサイト
・幼児用教材のほか、小学生用、中学生用、英語教材などもある

1 教材名 反対言葉 絵カード

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲームが好きである。
- ・文字を書くことに抵抗感がある。
- ・語彙が少ない。
- ・集中力が持続しにくい。



3 ねらい

- ・「大きいー小さい」、「長いー短い」、「重いー軽い」、「太いー細い」などの反対の意味を表す言葉を、イラストをヒントに、楽しみながら学びにつなげる。
- ・集中できる時間を延ばす。

4 使い方

- ① 絵カードを半分に折る。
- ② 半分だけ見せる。
- ③ 半分の絵カードを見て、隠れている絵カードの「反対言葉」を考える。

5 指導上の留意点

- ・枚数が多いので、何回かに分けて行う。
- ・一通り終わったら、見せる方を替えて行う。
- ・繰り返し行うことで、語彙も増え、反対言葉に対する自信も付いてくる。
- ・点線で切り離すと「反対言葉合わせ」や「神経衰弱」などもできる。

6 出典

- ・教材名 ちびむすドリル 幼児の学習素材館「文字・言葉・文カード」
はんたい言葉（反対語・対義語）絵カード
URL：<https://happyililac.net/sk1809051108.html>
- ・備考
 - ・「ちびむすドリル」は教材の無料ダウンロード・印刷ができるサイト
 - ・幼児用教材のほか、小学生用、中学生用、英語教材などもある

1 教材名 認知特性別読み書き支援 スマイル式プレ漢字プリント

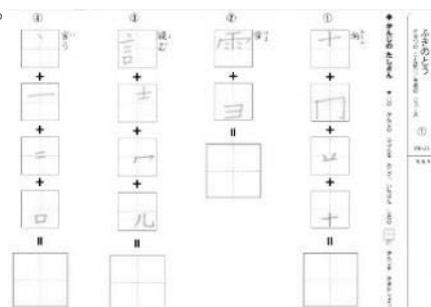
2 対象児童生徒の特性

- ・積み木やブロックなどで仮想世界を作り上げたり、自分が考えたゲームの世界を絵で表したりするのが好きである。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・ひらがな、カタカナの読み書きはだいたいできるが、濁音、拗音、促音の読み書きが苦手である。
- ・漢字の書き取りが苦手で、同じ字の反復練習を嫌う。
- ・文章を単語や文節のまとまりを意識して読むことが苦手である。



3 ねらい

- ・集中できる時間を延ばす。
- ・なるべく教科書に準じた教材で、単語や文節のまとまりを見つける学習をしたり、漢字の習得を図ったりする。



4 使い方

- ① ことばさがしクイズに取り組む。
- ② あなうめクイズに取り組む。
- ③ かんじのたしざんに取り組む。
- ④ 今日取り組んだ漢字の書き取りに挑戦する。

5 指導上の留意点

- ・事前に本時に取り組む内容（量）を示し確認しておく。
（集中して取り組める量を見積もり確認し、最後までできることを確認するため）
- ・新しい単元に入ったときと単元の学習が終わったときに教材文を読み比べて、自分の成長が実感できるようにする。

6 出典

- ・教材名 NPO法人 スマイル・プラネット
「認知特性別読み書き支援 スマイル式プレ漢字プリント」
URL : <https://smileplanet.net/specialty/smilekanji/>
- ・備考
 - ・小学校1～6年生までの国語（光村、東書）に対応
 - ・スマイル式九九プリントもあり

1 教材名 漢字カード合わせゲーム

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・漢字を読んだり書いたりすることが苦手である。



3 ねらい

- ・集中できる時間を延ばす。
- ・楽しく漢字学習に取り組めるようにする。
- ・漢字の部首に着目することで、読める漢字を増やす。

4 使い方

- ① 部首について学習する。
- ② ルールを確認する。
- ③ 配布された漢字カードの中から、同じ部首のカードを2枚見つける。
- ④ 読み方や熟語を言いながら真ん中に出していく。
同じ部首のカードがなくなるまで行う。
- ⑤ 残った漢字カードを「ばば抜き」のように順番を決めて取っていく。
- ⑥ 同じ部首のものがなくなるまで、読み方や熟語を言いながら、真ん中に出していく。
- ⑦ カードがなくなった人が出たら終わり。



5 指導上の留意点

- ・「得意・不得意から入る特別支援教育教材」から漢字カードをプリントアウトし、画用紙か厚紙に貼る。下の学年の漢字カードを使用し、できる喜びを味わわせるようにする。
- ・同じ部首の漢字カードを真ん中に出すときには、知っている読み方、熟語にした読み方など、児童の実態に合わせ、様子を見てレベルを上げていく。
- ・分からないときは、教師に聞いてから、もう一度言えばよいことを伝える。
- ・何度も繰り返したり、読み方を教えたりすることで、楽しみながら漢字の読み書きが身についてくる。

6 出典

- ・教材名 特別支援教育デザイン研究会 得意・不得意から入る特別支援教育教材
カードゲーム「カード合わせゲーム」
URL : <http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/tokui/index.html>
- ・備考 プリントワーク教材もあり

1 教材名 ペンでタッチすると読める音声付教科書

2 対象児童生徒の特性

- ・学習意欲が高く、何事にもまじめに取り組む。
- ・漢字の識字能力が極めて低い。
- ・直前に指導した漢字であっても、記憶に留まることは少ない。
- ・音読が苦手であり、音読の宿題の時には、母親が帰るまで待ってから音読をしている。



3 ねらい

- ・音読に対する苦手意識を軽減する。
- ・一人でも音読ができるようにする。

4 使い方

- ① 読めない漢字をペンでなぞる。
- ② 音量と速度を調整して音声聞く。
- ③ 聞いた音声をもとに音読をする。
- ④ 必要に応じて、自分の音読を録音する。
- ⑤ 軽量でコンパクトなので、筆箱に入れて持ち運びができる。

**簡単操作で
音声の再生・録音**

幼児から高齢者まで
簡単操作で、場所を選ばず
言語訓練やコミュニケーションの
お手伝いをします。

音声ペンが選ばれる5つのポイント

- 1 **簡単操作**
タッチするだけのシンプルな操作で音が出ます。
- 2 **速度変更**
操作シートをタッチするだけで発声速度を調節できます。
- 3 **録音可能**
短い単語はもちろん、長い文や歌も録音できます。
- 4 **軽量・小型**
コンパクトで軽量なので、どこでもお使いいただけます。
- 5 **外部接続**
イヤホンやスピーカーに接続できます。
音声ペン オプションからもご購入いただけます。

5 指導上の留意点

- ・ペンを使うときのルールを決めておく。
- ・既習の漢字が出てきたときは、安易にペンを使わず、思い出せなかったときに使用する。
- ・ペンに頼らず、漢字辞典や漢字検索アプリなどを使って調べる習慣も身につけさせる。

6 出典

- ・教材名 「ペンでタッチすると読める音声付教科書」
- ・価格 1学年分6, 500円（教科書冊子・音声ペン）（送料・税込）
- ・対応教科書 光村図書出版と東京書籍の国語（小学1～6年、中学1～3年）
- ・問い合わせ先 NPO法人 テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構
参考URL：<http://apricot.cis.ibaraki.ac.jp/textbook/index.html>

1 教材名 アプリ「ドロップキット つくるんです」(お話作り)

2 対象児童生徒の特性

- ・絵を描くのが大好き。
- ・言葉で気持ちを伝えるのが難しい。
- ・文字を書くことに抵抗がある。



3 ねらい

- ・伝えたいことを絵で表す力を高める。
- ・絵を文章で説明することによって、文章表現の力につなげる。
- ・気持ちを表す言葉を使って、思っていることを相手に伝える力を高める。

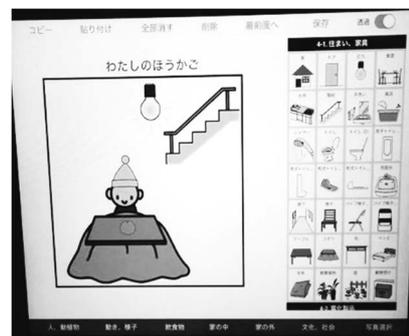
4 使い方

(1) 視覚支援ツールとして

- ① 伝えたいことを言葉代わりに1つのマークとして表す。
- ② 作ったマークについて、質問したり答えたりする。

(2) 作文のきっかけとして

- ① いろいろなジャンルの絵から5つのパーツを選ぶ。
- ② それぞれの絵のパーツの大きさを変えたり位置を決めたりして、絵を完成させる。
- ③ 絵を見て、その絵の説明をする。
- ④ 少しずつレベルを上げて、文を作る。
(5W1Hを入れて、修飾語を使って、など)
- ⑤ でき上がった絵を見て、感想を言う。



5 指導上の留意点

- ・選択できる絵は5つまで。(それ以上は入らない)
- ・出来上がった絵は「保存」しておく(よい。
(ふり返りに使う。印刷して吹き出しをつけると、文作りが広がる。
場面の絵として何枚も作れたら、紙芝居のようにお話ができる。)
- ・はじめに「〇分で絵を作ります」など大まかな約束をしておく。
(一定の時間を決めて絵作りをしないとどこまでも絵が仕上がらず文作りまでいかない)

6 出典

- ・教材名 Kazuhisa Yamamoto「ドロップキット つくるんです。」
- ・価格 無料
- ・備考 ドロップスシンボル「おくるんです」もあり



1 教材名 アプリ「常用漢字筆順辞典」

2 対象児童生徒の特性

- ・筆順がなかなか覚えられず、間違える。
- ・書き直しを嫌がる。
- ・字形が整わない。



3 ねらい

- ・楽しみながら正しい筆順を覚えることができる。
- ・分からなくなったときに自分で確かめることができる。

4 使い方

- ① 練習する字を書く。
- ② 出てきた字から目当ての字を探す。
- ③ 正しい筆順を確かめる。
- ④ 筆順通りになぞり書きをする。



①②



③



④

5 指導上の留意点

- ・筆順通りに色が変わるので、それをなぞると正しく書けるようになった気になるが、1回書くだけではなく、3～4回練習させるとよい。
- ・学習後は内容をプリントなどで確認し、できたことが視覚的に分かるように工夫し、学習意欲の向上を図る。

6 出典

- ・教材名 NOWPRODUCTION CO., LTD. 「常用漢字筆順辞典 FREE」
- ・価格 無料
- ・備考 本アプリは広告ありの無料だが、広告なしの有料版（600円）もある。

1 教材名 アプリ「中学生漢字（手書き&読み方）」

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続しにくい。
- ・教科書やワークの文章を読んだり、字を書いたりする作業が苦手。
- ・学習そのものになかなか関心が向かず、意欲がない。

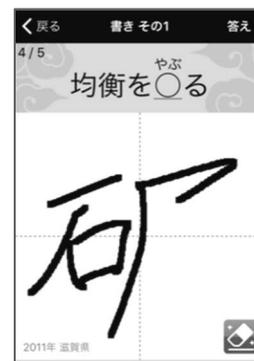


3 ねらい

- ・苦手意識のある教科書とノートでの学習ではなく、中学生になじみのあるタブレットを利用することで学習に対する抵抗意識を低くする。
- ・ゲーム感覚で取り組むことで、集中できる時間を延ばし、学習に対する意欲を高める。

4 使い方

- ① アプリを開く。
- ② レベルを選択して、プレイを開始する。
- ③ 出題された漢字を指で書く（書き順の正しさも採点される）。
- ④ 間違った漢字を確認する。



5 指導上の留意点

- ・事前に取り組む時間を決める。
- ・取り組んだ後は、新しく知ったことや、間違えたことなどを振り返り、やりっぱなしにしない。
- ・集中できた時間や、進んだレベルを記録して、視覚的にできたことが実感できるようする。

6 出典

- ・教材名 Gakko Net Inc.
「中学生漢字（手書き&読み方）－高校受験漢字勉強アプリ」
- ・価格 無料（広告非表示版 370 円）
- ・備考 中学生向けの同シリーズに「中学生の英単語 2000（中学英単語よく出る英単語勉強アプリ）」もある。制限時間内に英単語の表す意味を選ぶ（音声を聞いて確かめることもできる）もので、これも学習意欲を高めるのに有効だと思われる。



1 教材名 アプリ「Voice Dream Reader」(文章読み上げ)

2 対象児童生徒の特性

- ・ディスレクシア。「読む」ことは苦手で、音声で「聞く」ことの方が理解しやすい。
- ・iPadを学習場面で使用し、音声教材を活用している。

3 ねらい

- ・教科書を音声で「聞く」ことで、学習理解を向上させる。
- ・アプリやiPadを操作することで、ICT機器の操作に慣れさせる。
- ・アプリを他の学習場面(調べ学習等)での活用につなげる。



4 使い方

(1) 電子教科書の場合

- ① アクセスリーディング※の電子教科書をダウンロードする。
※障害により印刷物を読むことが難しい児童生徒のためのオンライン図書館。要登録。
- ② Voice Dream Readerを開く。
- ③ 該当ファイルを選択し、読み上げる。

(2) サイト上の記事の場合

- ① サイト上にあるファイルを表示する。
- ② Voice Dream Readerにコピーする(PDFで保存)。
- ③ Voice Dream Readerを開く。
- ④ 該当ファイルを選択し、読み上げる。

5 指導上の留意点

- ・付属のボイス(読み上げの声)が聞き取りにくい場合には、ボイスを追加(有料)し、自分の聞き取りやすいボイスを選ぶことができる。
- ・オーディオ設定でスピーチ速度設定し、自分の聞きやすい速度で聞くことができる。
- ・「しおり」機能を使用することで、アプリを再度開いたときに、続きに戻って聞くことができる。
- ・電子教科書以外の本や文書では、正しく読み上げない場合があるので注意が必要である。
例：ルビの打ってある文章、文学作品(近代文学)等

6 出典

- ・教材名 Voice Dream LLC「Voice Dream Reader」
- ・価格 1,840円(税込)
- ・備考 アクセスリーディング(無料) URL：<https://www.accessreading.org/>

1 教材名 アプリ「SUM! かわいい数字で算数遊び」
SUM!とらんぷ



SUM! for Family

2 対象児童生徒の特性

- ・話をすることや身体を動かすことが好きである。
- ・話の流れや周囲の状況に関係なく、他の話題の話をすることがある
- ・授業中での離席が多く、学習意欲が低い。
- ・数をまとまりとしてとらえたり、構成的を考えたりすることが苦手である。
- ・たし算・ひき算は、すべて指を使って答えを出す。



SUM!とらんぷ

3 ねらい

- ・10までの数を合成したり、分解したりする力を高める。
- ・楽しく学習することを通して、学習意欲を高める。

4 使い方

- ① 百玉そろばんや数図カードを使って、10の数の構成を視覚的にとらえる。【例：「4と6で10」など】
- ② アプリ「SUM! for Family」で10を作るゲームをする。
- ③ 獲得した点数の記録を取る。
- ④ 「SUM!とらんぷ」カードを表にしてバラバラに置き、足して10になるカードを見つける。(5+5、2+3+5など)
- ⑤ 「SUM!とらんぷ」カードを裏にしてバラバラに置き、足して10を作る神経衰弱をする。(足して10になるまで何枚引いてもよい。)
- ⑥ 取れたカードの点数または枚数を数える。



5 指導上の留意点

- ・楽しいという気持ちを大切にしながら、数の合成、分解(たし算やひき算)の力をつける。
- ・百玉そろばんや数図カードによる10の構成の視覚的な学習と、アプリやトランプでの活動とを組み合わせで行う。適宜、プリント等で学習内容の確認を行う。
- ・「SUM! for Family」での記録の伸びを褒め、学習意欲向上につなげる。
- ・「SUM!とらんぷ」を使っての神経衰弱は2~3人で行う。番がすぐ回ってくる人数がよい。
- ・「SUM!とらんぷ」で10を作る神経衰弱に慣れてきたら、児童の実態を見てルールを変えていく。

【例】・10以外の数字を作る神経衰弱をする。(11、20、30など)

- ・+や-のカードを入れて、神経衰弱をする。
- ・表(裏)に置いたカードで、一定時間内にどれだけ10を作るかを競う。
- ・あらかじめ出ているトランプの上手持ちのトランプを出して10を作り、手持ちカードがなくなる順番を競う。

6 出典

- ①・教材名 Enfani Inc. 「SUM! for Family かわいい数字で算数遊び」
- ・価格 120円(税込)
- ②・教材名 あんふあにショップ「SUM!とらんぷ」
- ・価格 1,430円(税込)

1 教材名 アプリ「毎日100マス計算」

2 対象児童生徒の特性

- ・漢字の読み書きは得意だが、「たし算」「ひき算」を苦手としている。
- ・繰り上がり、繰り下がりの場合は、必ず指を使って計算する。
- ・自分に自信がないようで、通級指導教室に来る時には周囲の目を気にする様子が窺える。

3 ねらい

- ・アプリを使って楽しみながら計算（たし算、ひき算、かけ算）に取り組み、できたことを実感するとともに、自分のがんばりが可視化されることによって、自己肯定感を高める。
- ・計算タイムを計りながらの計算を通して、集中力を高める。また、計算タイムが短くなることにより、学習意欲を高める。
- ・集中して学習に取り組むことにより、情緒の安定を図る。



4 使い方

- ① アプリを立ち上げた後、ユーザー名を入れる。
- ② 各ユーザー画面で、「5×5」（25 マス計算）を選ぶ。
- ③ 「たし算」「ひき算」「かけ算」から学習するものを選ぶ。

【ひき算】の例】

- ① 縦列の数字から横列の数字を引く。
- ② 引いた答えを下の数字から選びタップする。
- ③ タップした数字が正しければ自動的に次（右）へ進む。
タップした数字が正しくない場合は進まない。
- ④ 最後の計算が終了すると自動的に画面が変わり、計算にかかったタイムと間違えた回数が表示される。

5 指導上の留意点

- ・このアプリは 25 マス計算（5×5）と 100 マス計算（10×10）ができるが、見やすさや課題の量から 25 マスがおすすめである。
- ・3つの計算の中で1つ選ぶとしたら、「ひき算」がおすすめである。ひき算が最も頭をフル回転させると思われる。
- ・指を使つての計算が減ってくるので、毎回指折り計算の回数も観察し記録しておくことで成長のバロメーターになる。
- ・継続して実施できるので、学習の軸にすることができる。

6 出典

- ・教材名 B. Walker
「毎日1回100マス計算—基礎計算トレーニング」
- ・価格 無料（広告あり）





通級指導における

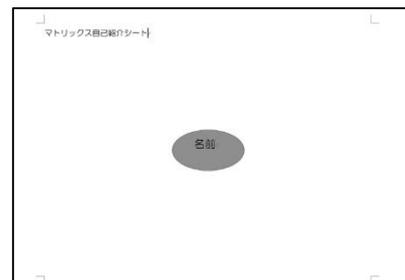
教材・教具④

— 自作教材・指導の工夫 —

1 教材名 マインドマップ

2 対象児童生徒の特性

- ・明るく人なつっこい性格である。
- ・コミュニケーション面に困難を感じている。
- ・相手の表情や言葉の意味が理解できず、トラブルになることもある。
- ・自分の思いを一方向的に発言することがある。

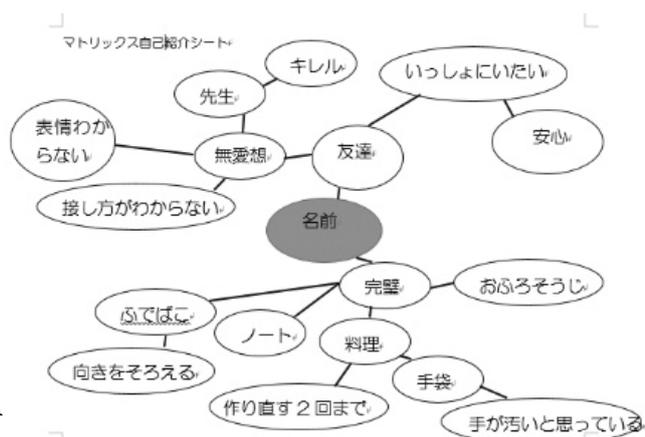


3 ねらい

- ・自分のことを理解し、自分のことを相手に伝える力を伸ばす。
- ・特性を理解した上で、対人面や生活面での困難さを自己理解させる。

4 使い方

- ① 生徒が発したことばやイメージを、生徒と一緒に記入していく。
- ② 記入することばは一つずつにして、一度にたくさん書かない。
- ③ 後で書き足しができるようにスペースを空けて書く。



5 指導上の留意点

- ・会話をしながら、意見が出やすいように促す。
- ・否定的なことばが出たときには、肯定的に変換していく。

6 出典

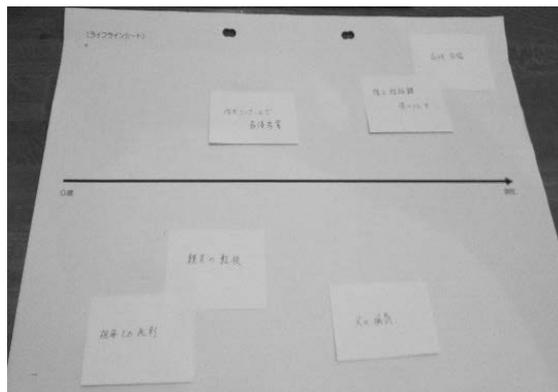
- ・教材名 株式会社ジアース教育新社
「教師のための対人関係トレーニング
サポート集TTST」
- ・著者 宮田 愛
- ・価格 2,090円(税込)



1 教材名 ライフラインシート

2 対象児童生徒の特性

- ・進路決定が近づき、情緒が不安定になっている。
- ・十分な自己理解ができていない。
- ・自己肯定感が低い。

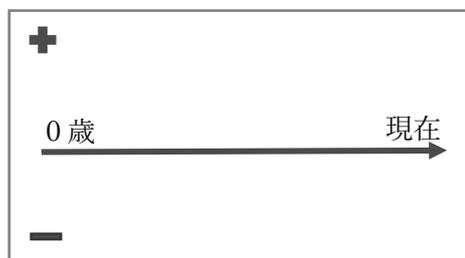


3 ねらい

- ・これまでに自分が達成したことを思い出すことで自己肯定感を高める。
- ・自分の成長に気づき、将来への希望を抱く。

4 使い方

- ① 右のようなライフラインシートを用意する。
- ② これまでの人生を振り返り、自分に起こった良い出来事と悪い出来事を付箋に書き込んでいく（シートに直接書き込んでもよい）。
- ③ 良い出来事を右図シートの上半分の＋、悪い出来事を下半分の－の部分に時系列に貼り付けていく。出来事の大きさによって、上下の位置を決定する。
- ④ それぞれの出来事と、自分がどう感じたかを1つずつ教師に説明する。
- ⑤ ある出来事が他の出来事が起こるきっかけになっているなど関連性が感じられる場合は、それらを線でつなぐ。
- ⑥ すべての出来事の振り返りが終わった時点で過去の辛い出来事の1つ1つを振り返り『今も同じように辛いですか』と尋ねる。もし答えがNOなら、『それは乗り越えたということです』と伝える（すべての出来事を乗り越えている必要はない）。
- ⑦ これから生きていく間にも、同じように－の出来事が起こるが、これまでのように乗り越えられることを伝える。



5 指導上の注意

- ・記入例を示してやり方を説明するとよい。
- ・記入に十分な時間を取り、話したくない出来事は無理に説明する必要はないと伝える。
- ・一つ一つの出来事をじっくりと振り返り、その時の気持ちを確認する。
- ・複数で取り組む場合は、コミュニケーション面や他者とのかかわりの面も意識させる。

6 出典

- ・特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会「GCDF-Japan キャリアカウンセラートレーニングプログラム」より

1 教材名 マッチングカード

2 対象児童生徒の特性

- ・身体を動かして活動することが好きである。
- ・生き物が好きである。
- ・書字読字に対して苦手が強く、読み書きを嫌がる。
- ・ひらがなは読むことができるが、一字ずつ読むため、単語から物を想起するのに時間がかかる。自分の書いた文字も逐次読みになる。
- ・書字が鏡文字になることがある。
- ・既製の教具には興味を示さなかったが、写真を撮ることや iPad アプリには興味を示した。



3 ねらい

- ・意欲的に取り組む姿勢を育む。
- ・文字表記の単語と、物との結びつきに興味をもたせる。
- ・本人の興味・関心を活かした学び方で、語彙力を高める。

4 使い方

- ① iPad を使って、校内や図鑑から自分の好きなところや物の写真を自分で撮る。
- ② 撮った写真をカードにする。また、別のカードに写真を表すことばを書く。
- ③ ことばカードを読み、写真カードとマッチングさせていく。
- ④ 写真カード→ことばカードの逆バージョンのマッチングをする。
- ⑤ 学習後は、自分でファイルに綴じて片付ける。

5 指導上の留意点

- ・事前に iPad の使用法や扱い方を練習する。
- ・「校内の場所・物」「文房具」「生き物（図鑑を含む）」などカテゴリを決めて写す。
- ・自分が撮ったものがカードになることで、興味をもって意欲的に文字を書くことにつながる。
- ・想起できない文字は「あいうえお表」を利用する。
- ・文字認識力を上げるため、タブレット端末用アプリ等でビジョントレーニングをする。



6 出典

- ・書籍名 ナツメ社「発達のが気になる子のビジョントレーニング」
- ・監修 北出 勝也
- ・価格 1,760円（税込）
- ・備考 タブレット端末用アプリの「視覚認知バランスー」「こども脳機能バランスー」、カード教材「ワードバスケットキッズ」（幻冬舎 税込 ¥1,572）の言葉遊びも学習に活用した。



1 教材名 フェルトで小物作り

2 対象児童生徒の特性

- ・運動や折り紙が好きであるが、手先は不器用である。
- ・語彙が少なく、話すことが苦手である。
- ・言葉の理解が難しく、友達の助けを借りて行動する。

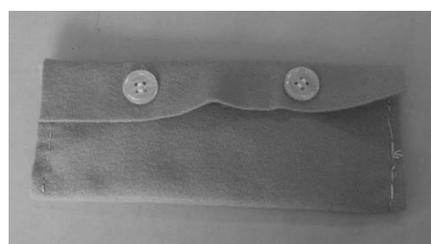


3 ねらい

- ・指先の巧緻性を高める。
- ・ボタン付けや手縫いなど、日常生活に生かせる力をつけ自立を支援する。
- ・自分で作った小物を生活に使うことで、達成感を味わわせる。

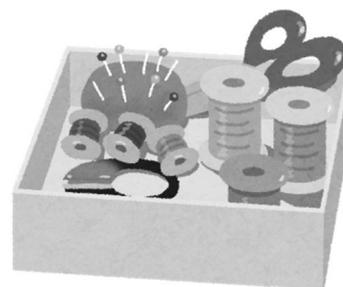
4 使い方（作り方）

- ① 20cm×20cmのフェルト、4つ穴ボタン2個を準備する。
- ② かぶせる部分（ふた）の長さを決める。
- ③ 返し縫やなみ縫いで、細かくわきを縫う。
- ④ 本体にふたをかぶせて、ボタンつけの位置を決める。
- ⑤ ボタンをつけて、かぶせる部分（ふた）にボタン穴をあける。
(ボタンの直径より数ミリ大きく)



5 指導上の留意点

- ・出来上がりの見本を見せて、仕上がりまでの見通しをもたせる。
- ・フェルトの色やボタンの色、使用する糸の色などを、児童が決めることで学習意欲につなげる。
- ・針の数を確認したり、糸くずを始末したりして用具をきちんと管理させる。
- ・家庭科担当や担任に、できた作品を見せたり自分の筆箱の中に入れて使っていることを伝えたりして褒めてもらい、児童の学習意欲の向上を図る。また、教職員の児童理解につなげる。
- ・イニシャルや模様を糸で縫い付けると、さらに手縫いの練習になる。
- ・家庭科の授業で裁縫セットを使う学習をしている時期に取り組むとよい。



1 教材名 すごろく①（会話すごろく）

2 対象児童生徒の特性

- ・ゲーム的な要素を含む活動が好きである。
- ・相手の気持ちを考えた言動が苦手である。
- ・自分の考えを伝えることに困難さがある。



図1 会話すごろく

3 ねらい

- ・複数ですごろくをすることで、自分の順番を守ることの意識づけを図る。
- ・質問くじを引き、内容に応じて会話することで、コミュニケーションの力を高める。
- ・自分がふったさいころを他者に言葉がけをしながら手渡すことにより、思いやりの心の育成につなげる。

4 使い方

- ① 児童たちにペーパーブロックですごろくのコースを作らせる。(図1)
- ② 1マスごとに紙コップを置いていく。
- ③ 紙コップの中に質問くじを1つずつ入れていく。(図2)
- ④ 順番にさいころをふり、マスを進め、質問くじを引く。
- ⑤ 質問くじを引いた人がくじを読み、他の人に質問する。
- ⑥ 最後に児童たちに頑張ったことを記録させ、活動を振り返る。



図2 質問くじの例

(質問例：
きょうのあさごはんは
なんでしたか?)

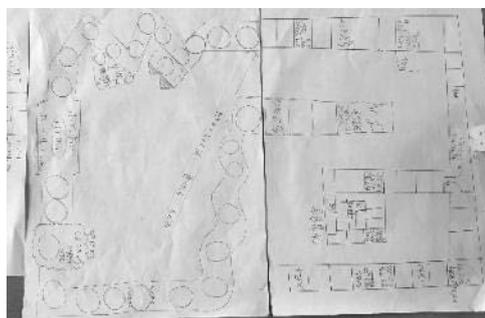
5 指導上の留意点

- ・児童たちにすごろくのコースを作らせるために1時間を配分し、写真を撮っておくと、次時にすぐに取り組める。
- ・質問くじを引いたら、相手の顔を見て、ゆっくり大きな声で読ませる。
- ・質問にすぐに答えさせるのではなく、1分くらいは待つことを全員に告げておく。
- ・どうしても質問に答えられない時は、パスしてもよいことを伝えておく。
- ・自分のふったさいころを「はい、どうぞ。」等の言葉を加えて手渡しするルール作っておくと、穏やかにすごろくを楽しむことができる。
- ・コースを短くしてコップの中に複数の質問くじを入れておくと、自分で選択して実行できたという自信につながる。
- ・質問を児童たち自身で考えさせると、児童たちが学習・活動に対して一層取り組みやすくなる。児童の実態や課題に応じて、指導者が作ってもよい。

1 教材名 すごろく②（作って遊ぼう）

2 対象児童生徒の特性

- ・絵を描くことが好きである。
- ・集団参加が苦手で、一人または少人数でしか行動することができない。
- ・四則計算が苦手で、正確さに解くことが難しい。
- ・ルールを守ったり友達とうまくコミュニケーションをとったりすることが苦手である。



3 ねらい

- ・視野を広くし、想像力を高める。
- ・計算の力を向上させる。
- ・集中力を高める。
- ・集団の中でルールを理解し、社会参加の力を高める。

4 使い方

(1) すごろく作り

- ① 大きめの画用紙に、学校や遊園地、病院などテーマを決めてすごろくの土台を作る。
- ② スタートとゴールをはっきりとさせ、その他は絵やイラスト入りで自由に形作る。
- ③ コマを進めていく途中に、計算や早口言葉、歌など楽しくて変化のあるルールや条件を取り入れる。

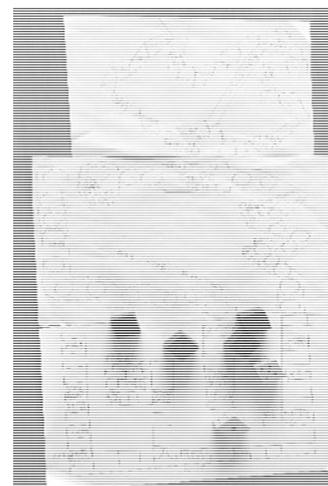
(例)・ 8×6 を答えられたら 2 マス進む

- ・校歌の 1 番を歌う
- ・好きな給食を言う
- ・スクワットを 5 回する など

(2) すごろく遊び

- ① 2 人～5 人の参加人数で取り組む。
- ② さいころを多めに用意しておく、すごろくのルールにも活用でき、様々な計算練習につなげることができる。

(例) さいころを 6 個同時にふって、出た目を足し算して、その数の分進むことができる など



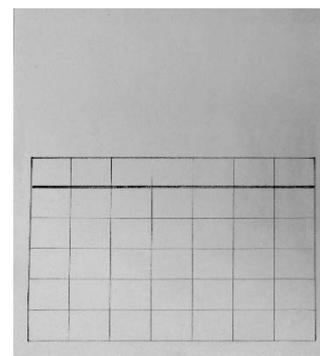
5 指導上の留意点

- ・一人 1 枚ずつ作って複数で貼り合わせることもできる。
- ・学年に応じてそれぞれのルールや約束を話し合い、確認し合う。
- ・慣れてきたら、付箋になぞなぞや簡単なクイズを書き入れ、合計 100 点になるよう得点を書いて裏返して貼っておく（途中で終わったときに合計点で競うこともできる）。

1 教材名 カレンダー作り

2 対象児童生徒の特性

- ・絵を描くことが好きである。
- ・日にちの読み方が分からない。
- ・一週間や先週・今週・来週などの関連性が分からない。
- ・集中力が持続しにくい。



枠は、自作

3 ねらい

- ・日にちの読み方や先週・今週・来週等の時間のつながりについての理解を高める。
- ・集中できる時間を延ばす。

4 使い方

- ① カレンダーを見ながらその月の曜日を書き込む。
(慣れてくるとカレンダーを見なくても入れられるようになる。)
- ② カレンダーを見ながら、日にちを書き込む。
(慣れてくると、月初めの日が何曜日か分かれば、カレンダーを見ずに日にちが順に入れられるようになる。)
- ③ 自分の誕生日や学校の行事、書き留めておきたいことなどを日にちの欄にメモする。
- ④ その月に合う絵を上の部分に描く。
- ⑤ 色画用紙に貼り、仕上げる。
- ⑥ 出来上がったカレンダーを見ながら日にちを読んだり、先週・今週・来週等の時間のつながりを確認したりする。



5 指導上の留意点

- ・カレンダー作りの時間を通して、コミュニケーションの向上も図る（その月に関連する話、楽しみにしていること、旅行・学校行事への思いなど）。
- ・家に持ち帰り、家の人に褒めてもらうことで、児童の自己肯定感の向上につなげる。
- ・在籍学級に掲示し（児童の理解を取る）、先生や学級内の友達に褒めてもらうことで、学習意欲の向上につなげる。



1 教材名 紙芝居

2 対象児童生徒の特性

- ・会話の部分は、役になりきって読むことができる。
- ・文章を読むとき、読みとぼしをしたり文にない言葉を入れて読んだりして、表記通りに正しく読めない。
- ・人に何かをお願いしたり、自分の発表について質問や感想を求めたりする経験が少ない。



3 ねらい

- ・児童が選んだ紙芝居を幼稚園の園児やクラスの前で読み聞かせる体験を通して音読の力を高める。
- ・「紙芝居読み聞かせ」のお願いをしたり、読み聞かせ後に聞き手からの感想や質問に答えたりすることで、コミュニケーション力を高める。

4 使い方

- ① いくつかの紙芝居の中から児童が興味をもったものを一つ選ばせる。
(教師が読み聞かせたり、児童と一緒に読んだりして選ぶ。)
- ② 最初は、児童と教師が交替に読み、文章に慣れる。
- ③ 読み聞かせの場を設定し、意欲を高める。
- ④ 会話の部分や地の文の練習をする。
- ⑤ 園児やクラスの前で紙芝居の読み聞かせをする。

5 指導上の留意点

- ・紙芝居は、教師が前もって学校の図書室や地域の図書館から、数点選んでおく。
- ・読み聞かせについては教師が前もって相手先をお願いしておくが、児童が直接お願いに行く場面もつくり、やりとりを見守る。
- ・読み聞かせ前後の挨拶や感想・質問のお願いの練習もする。
- ・読み聞かせ後に児童と教師が感想を伝え合い、頑張ったことを褒め自信につなげる。
- ・紙芝居の枠を使うと、より雰囲気盛り上がる。



1 教材名 コミュニケーションスキルカード

2 対象児童の特性

- ・友達や家族など周りの人に優しく寛容である。
- ・昼休みは、好きな絵を描いていることが多い。
- ・集団の中で、自分の思いを伝えたり自分から質問したりすることが苦手なため、同学年の友達とのコミュニケーションが不十分である。



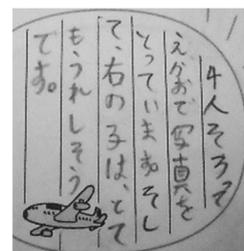
〈スキルカード〉

3 ねらい

- ・授業や体験活動などの振り返りにおける、文章表現力を高める。
- ・友達との相互理解を深められるように、自分の思いを的確に伝えたり相手に質問したりするコミュニケーション力の向上を図る。

4 使い方

- ① 学校生活、家族、アニメのキャラクターなどイラストのカードを用意する。
- ② 30枚のカードから無作為に1枚を選ぶ。
- ③ カードの絵を見て感じる会話やストーリーを想像して作文にする。
- ④ 完成した作文を音読する。
- ⑤ 教師と作文について、感想や工夫した点について話し合う。



〈5月の作文〉

5 指導上の留意点

- ・授業の最初の10分間を使い、毎時間継続して行う。
- ・50字から200字程度の作文に徐々に移行していく。
- ・作文の中で、自分の気持ちを表す言葉が多様に使えるように助言していく。
- ・作文中に会話文を入れることを意識させ、人物の気持ちに迫ることができるようにする。
- ・児童との話し合いは主として聞く側に立ち、いくつかの質問を投げかける。
- ・話し合いの中で、児童が自分の立場を考えて意思決定を行い、思いを伝えることができるように促す。その中で、表情や言葉の選択などのコミュニケーション能力を培う。



〈7月の作文〉



1 教材名 リクエストカード

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力が持続せず、指示や説明を聞き取ることが難しい。
- ・困ったときに、支援を求められない。
- ・語彙に乏しく、話すのが苦手である。
- ・話の流れや周囲の状況に関係なく、急に自分の興味のある話を始めることがある。



3 ねらい

- ・進んで学習に参加する態度を育成する。
- ・状況に合わせて、適切に行動する力を育む。
- ・必要に応じて、支援を求めるスキルを高める。

4 使い方

- ① 右上の写真のように、リクエストカードを児童の手元に並べておく。
- ② 学習ルールを共有しておく。
- ③ 児童は困ったときにカードを選んで、先生に提示する。
- ④ 児童がカードの裏の言葉を先生に伝える。
- ⑤ 必要な時間や適切な支援を受ける。

5 指導上の留意点

- ・事前に学習上のルールを確認しておく。
(話がわからないときや自分で解決したいときは、カードを挙げて、言葉で先生に知らせることや、それぞれのカードがどういうときに有効に使えるかなど)
- ・カードの言葉以外にも、自分の思いを伝えられるように、励ましながら発展的な活用を促す。
- ・「調べる時間をください」のカードを提示して、パソコン室に行ったり図書室に行ったりする移動を認める。
- ・カードの活用に慣れてきたら、挙手して自分のニーズに応じた支援を求められるようにスキルアップをめざす。



1 教材名 シルバニアファミリー（お話作り）

2 対象児童の特性

- ・絵や漫画を描くことが得意で、発想豊かに物を作ることができる。
- ・気に入らないことがあると、団体での活動に参加しなかったり授業を抜けたりすることがある。
- ・相手の気持ちに沿った言動ができないために、まわりとのコミュニケーションがうまくとれない。



お母さんがトーストを運んでいる場面

3 ねらい

- ・好きなことや得意なことに取り組むことで、心理的安定を図る。
- ・自分のよさを理解し、まわりとかかわる力につなげる。



みんなでパーティーの用意をしている場面

4 使い方

- ① シルバニアファミリーのセット（建物や人形、いろいろな小物）を使い、場面を考え配置し写真撮影をする。
- ② 場面の写真を見て、それぞれお話を書いていく。
- ③ パソコンで絵本に仕上げる。



5 指導上の留意点

- ・児童主体で活動を進められるようにし、教師も一緒にお話作りを楽しむ。
- ・場面の設定や物語の方向性などについて相談したり分からないことを尋ねたりする時には、相手をしっかり見て、言いたいことを言葉や文で伝えることを意識させる。
- ・工夫点をその都度褒め、活動意欲を持続させる。
- ・仕上げた絵本を在籍学級の児童や教師に読んでもらい、まわりとのかかわりの場を設ける。



6 出典

- ・教材名 エポック社「シルバニアファミリー」
- ・価格 商品による（人形は1,000円前後）



1 教材名 道徳教材の活用「出迎え三步、見送り七歩」

※「出迎え三步、見送り七歩」とは、お客様を出迎えるときは前に三步出て、お見送りをするときは外に七歩出て丁寧にお見送りをするというもてなしの精神を示す。本教材では、実際に「出迎える側」と「出迎えられる側」、「見送る側」と「見送られる側」に分かれ、体験を通して人と接する際の心構えや感じ方について考える。

2 対象児童生徒の特性

- ・明るく人なつこい性格である。
- ・テスト勉強を頑張るなど、普段の学習意欲はある。
- ・机やロッカーなどの整理整頓が苦手である。
- ・普段の授業中、気が散りやすい。
- ・周りの状況や他者の感情を読み取ることが苦手である（他者との距離感が取れない）。



3 ねらい

- ・他者の心遣いに触れ、自分の行動に活そうとする姿勢を育む。
- ・自分の行動が他者にどう伝わっているかを意識するきっかけとなるよう図る。

4 使い方

- ① 教材を読み、内容を確認する。
- ② 見送る側と見送られる側をロールプレイする。
- ③ 教師が見送る役になった時、一般的な例と過度な例をやり、見送られる側としての感じ方の違いを聞く。
- ④ ドアノックの数や強さで相手の感じ方が変わるなど、部屋に入る作法について、教師のロールプレイを見て感じたことを話し合う。

5 指導上の留意点

- ・教師は生徒に伝わりやすいようにロールプレイをする。
- ・ロールプレイしてみたの生徒の素直な感じ方を大事にする。
- ・振り返りの時に生徒の表情を見て、心の動きがあるか確認し、その動きに対して適切なアドバイスをする。
- ・価値の押し付けをしない。



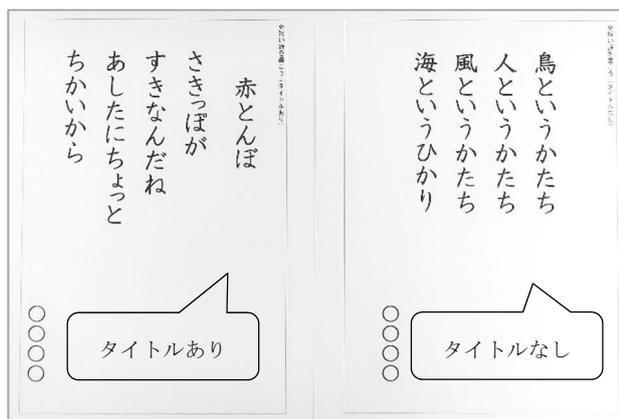
6 出典

- ・教材名 日本文教出版「中学道徳 あすを生きる3」内「出迎え三步、見送り七歩」
- ・著者 山折 哲雄
- ・価格 590円（税込）

1 教材名 短い詩の制作（自己表現活動）

2 対象児童生徒の特性

- ・教室と別室であれば、通級担当者と一緒に教科書の問題を考えたり、世間話をしたりできる。
- ・集団の中に入っていくのが苦手。
- ・保健室に登校。午前中で帰ることが多い。



3 ねらい

- ・4行程度の短い詩を書く中で、自分の思いを確かめさせる。
- ・まずは思いをことばにすることができた今の自分を認める、という感覚をもたせる。



4 使い方

- ① 参考資料の短詩にこめられた思いについて、教師の話聞く。
- ② 自分の詩を考え、メモしてみる。
- ③ 教師からアドバイスをもらい、清書する。
- ④ できた作品は掲示して、他の教員や級友に読んでもらう。

5 指導上の留意点

- ・参考資料にする詩は、うまい詩でなくてもいい。できるだけ教師の自作であることが望ましい。そのほうが詩にこめた思いを話しやすい。
- ・自分の思いをそのまま書くこともあれば、何かに託して表現する場合もある。教師はまずその子が一言でも書いたことを認め、その子の感じ方を受けとめてアドバイスしたい。
- ・清書をフェルトペンや筆ペンで行い、書くことになげることできる。



1 教材名 ふれあい囲碁

2 対象児童生徒の特性

- ・落ち着きがなく多動。
- ・5分以上集中できない。
- ・人間関係が一方的でしばしば人とトラブルを起こす。



3 ねらい

- ・集中できる時間を延ばす。
- ・自己肯定感を高める。
- ・ルールを守って人と関わる力を育む。

4 使い方

- ① 「お願いします。」礼で始める。
- ② 先攻後攻はじゃんけんで決める。勝った方が黒石を取る。
- ③ 碁石を一つでも先に取った方が勝ち。
- ④ 碁石は交代で一つだけ打つ。
- ⑤ 碁石は線の交差点に打つ。
- ⑥ 四方を囲まれたら囲んだ真ん中の碁石が取ることができる。
- ⑦ 淵は三方を、角は二方を囲んだら碁石を取られる。
- ⑧ 黒、白、黒・・・と交互に石を置いて行って、先に相手の石を取った方が勝ちになる。
- ⑨ 試合が終わったら「ありがとうございました」と礼を言う。



5 指導上の留意点

- ・礼で始め、礼で終わらせる。負けても必ず礼を言わせる。
- ・児童（生徒）の意欲が続くよう、最初、教師は負け役に徹する。
- ・教師は勝った子どもを常にほめたたえる。
- ・児童に自信がついてきたら「教師対児童」から「児童対児童」で試合させる。

6 出典

- ・教材名 NHK出版「命を救う『ふれあい囲碁』」
- ・著者 安田 泰敏
- ・価格 748円（税込）
- ・備考 ・碁盤セットは、ふれあい囲碁ネットワークより購入可。50セット1万円。
URL：<http://fureaiigo-network.jp/>
・文部科学省推奨

URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youji/asobou/try/igo.htm

1 教材名 将棋（集中力とコミュニケーション）

2 対象児童生徒の特性

- ・課題をやり遂げる真面目さがある。
- ・体験的な学習や屋外での作業には穏やかに取り組むことができる。
- ・生き物に接していると落ち着き、安らぎ、心の静けさを取り戻す。
- ・いらいらすると、他者に対する態度がきつくなることもある。また、すねたり大きな声を出したりして、自分の思いを通そうとする。
- ・在籍学級の教室など大勢の中で過ごすことが苦手である。
- ・考えることを面倒くさがり、やる気をなくして投げ出すことが多い。



3 ねらい

- ・落ち着いて考えるなどの、思考力をつける。
- ・最後まであきらめずにやり遂げるなどの、持続力をつける。
- ・たくましく果敢に攻め続けるなどの、行動力をつける。

4 使い方

① 駒を協力して並べる。

② 児童と相談して、ルールやハンデを決める。

【例】・対戦のルール「泣かない」「ずるしない」など

- ・観戦のルール「口出ししない」「駒に触らない」など
- ・回数の設定 何局行うか
- ・ハンデ 得意な人にハンデを付ける

③ 勝っても負けても、礼儀正しく挨拶をして終わる。



5 指導上の留意点

- ・教師はただ黙って対局しているのではなく、児童の指した良い手をしっかり褒める。
- ・児童の指す手がルールに反しているときはもちろん、明らかに児童にとって不利な手を指した場合は指摘する。
- ・さりげなく解説を添えながら対局を進め、いま指した手の意味に気づかせる。
- ・児童はどうしても勝ち負けにこだわりやすい。負けても楽しかった、少しずつ上達していると感じてもらうことを常に目標としたい。

6 出典

- ・教材名 株式会社任天堂「将棋盤と将棋駒」（木製）
- ・価格 盤と駒と併せて、5,000円程度（税込）
- ・備考 駒は裏返しになったときが分かりやすいように、裏面が朱墨になっているものを選ぶ。

1 教材名 絵カード

2 対象児童生徒の特性

- ・理科には興味をもって学習できる。
- ・ゲームが大好きで、将来はeスポーツ選手を目指している。
- ・思いがあっても自分から発言することは少なく、困ったことがあっても自分から訴えることはほとんどない。
- ・指示に素早く反応できず意欲も出ないので、学習作業が遅れ、理解も遅れていく。



3 ねらい

- ・大きくまた素早く声を出すため、時短を目指してウォーミングアップを図る。
- ・ゲームを楽しみながら、素早く判断して声に出そうとする意欲を高める。
- ・特徴を捉えて分かりやすい言葉でヒントを出すことで、語彙力を養う。

4 使い方

- ① 40秒間にできるだけたくさんの絵カードの名前を言う。

(ウォーミングアップ)

- ② 絵カード取りゲーム

カードを1枚ずつ出して、相手の出したカードの名前を早く言う。早く言った方が双方のカードをゲットできて勝ち。同時の場合はどちらも貰えない。

- ③ 3ヒントゲーム

絵カードの中から3ヒントゲームのお題にするカードを選択し、3つのヒントを考えて出題する。相手はヒントを手掛かりに答えを考える。



5 指導上の留意点

- ・①の時間設定は、児童の力に合わせて、20枚程言える時間を設定する。
- ・児童の実態に応じて、答えの許容範囲を考慮する。例えば、花なら「スイセン」や「アジサイ」といった固有の名称でなくても「花」でよしとする。
- ・③の3ヒントゲームのお題にするカードは、改めて絵カード全体から選択してもよい。

1 教材名 ひらがなカード

2 対象児童生徒の特性

- ・文字習得が遅い。
- ・発音が不明瞭なところがある。
- ・語彙数が少ない。
- ・ひらがな表のイラストを見て、「あひるの^あ」「いぬの^い」というようにして覚えている。



3 ねらい

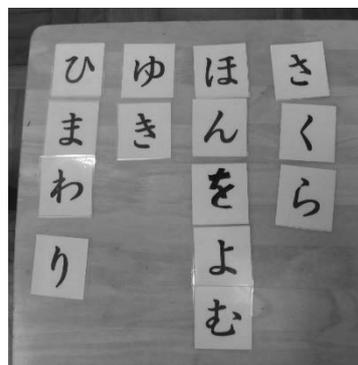
- ・やりとりを楽しみながら、ひらがなを覚えさせる。また、コミュニケーションの力を高める。
- ・理解できる語彙を増やす。

4 使い方

- ① カードを1枚ずつ出して、「あひるの^あ」というように、1文字だけでなく単語にして読む。
- ② 読めたカードは児童のものとし、読めなかったら教師のものとして、数を競う。
- ③ 広げたカードから物の名前などの単語になるようにカードを集めて並べ、声に出して読む。

5 指導上の留意点

- ・「れもんの^れ」などと声に出してとすることで、文字の発音も意識させる。
- ・ひらがな表に書かれていない「いすの^い」「いるかの^い」などの単語が出てきたらほめることで達成感をもたせる。また、身の回りの言葉に興味をもたせることで、語彙数を増やす。
- ・清音が読めるようになったら、濁音、半濁音のカードも入れる。
- ・カタカナカードでも同じようにできる。
- ・カードの組み合わせでは、単語だけでなく、文章づくりにも取り組むことで、助詞などの学習にも発展させることができる。



1 教材名 拗音かるた

2 対象児童生徒の特性

- ・ひらがなやカタカナの一字一字を読むことはできる。
- ・文字を読むことはできるが、書くことが苦手で、手が止まって考え込むことが多い。
- ・拗音を読むことや書くことが特に苦手である。



【左：取り札 右：読み札】

3 ねらい

- ・拗音を読む能力を高める。
- ・耳で聞いた拗音を正しい表記で表す力を高める。

4 使い方の例

- ①（拗音だけの）取り札を読む練習をする。
- ②（拗音の入った言葉の）読み札を読む練習をする。
- ③ 取り札を並べる。
- ④ 読み札を読み上げ、言葉の中にある拗音の札を取る。
- ⑤ 読み札を並べる。
- ⑥ 取り札を読み上げ、拗音の入った言葉の読み札を取る。

5 指導上の留意点

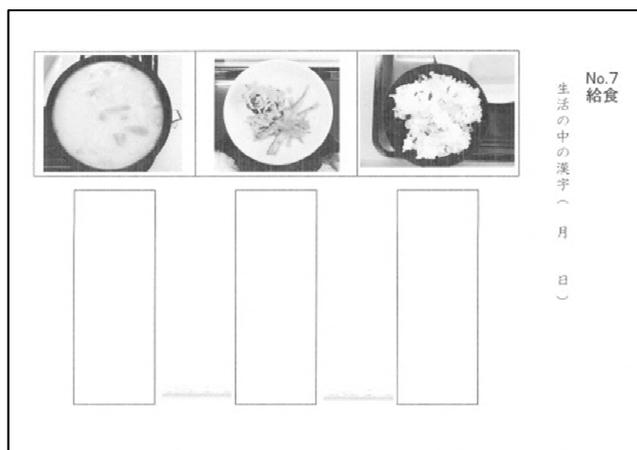
- ・一人でも二人以上でもできる。
- ・読み札を児童が作ったり、児童が自分で調べた言葉を使ったりすると、より学習意欲が高まる。
- ・読み札と取り札の内容を変えると、拗音以外の特殊音節についても取り組むことができる。



1 教材名 生活の中の漢字「給食メニュー編」

2 対象児童の特性

- ・食べ物に関心があり、食べることが好きである。
- ・カタカナやひらがなを使った特殊音節の理解と定着に時間がかかる。
- ・漢字の読み書きが苦手である。

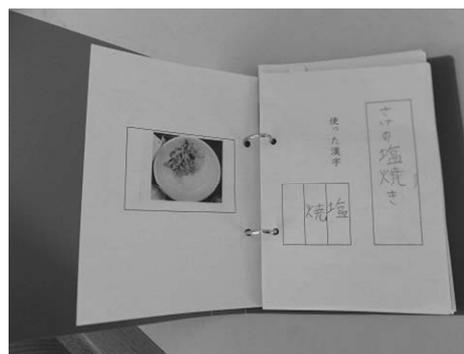


3 ねらい

- ・身近に使われる漢字やカタカナに親しみをもたせ、読み書きの定着につなげる。
- ・漢字の意味を知る、分からない漢字を進んで調べる、学習の足跡をカード化するなどの学習活動を通して、児童の学習意欲を高める。

4 使い方

- ① 献立名を教師から聞き、漢字やカタカナを使って書く。漢字が分からないときには、国語の教科書や国語辞典で調べる。必要に応じて、「筆順アプリ」で書き方を確かめる。
- ② 後日、同じ献立が書かれたワークシートに取り組み、漢字等を確認しながらカードにしてファイルに綴じる。



5 指導上の留意点

- ・教師が給食時に写真を撮っておき、ワークシートを作る。特殊音節を含む洋風メニュー、レストランのメニューでよく見かける漢字など、おさえてい表記を含むものに絞って写真に撮っておく。
- ・カタカナ表記に役立つMIMの方法、漢字が分からない時の調べ方など、これまでに学習してきたことを活用しながら自分の力で取り組めるようにする。
- ・以前から、「期」を「賞味期限の『期』」などと、漢字を食べ物に関連させて覚えていることが多く見られた。そこで、例えば「打ち豆入り味噌汁」では「打ち豆」の作り方を教えるなど、漢字が思い浮かばない時に食べ物の成り立ちや意味を伝えて興味をもたせた。

6 参考

- ・タブレット端末アプリ NOWPRODUCTION CO.,LTD. 「常用漢字筆順辞典」



1 教材名 漢字パズル

2 対象児童生徒の特性

- ・漢字の書字に困難さが見られる。
- ・文字の形、位置や方向を理解する視覚認知力が弱い。



【小学校3年生の漢字】

3 ねらい

- ・漢字の構成を知り、漢字への興味・関心を高める。
- ・パズルを使うことによって、漢字のパーツの配置や線の数、線の向きなどを捉えやすくする。
- ・個に応じた支援をすることで、漢字への抵抗感を軽減する。

4 使い方

(1) ばらばら漢字を組み立てよう

- ① 2～4パーツに分解されたピースを組み合わせて、漢字を作成する。
- ② 完成した漢字の読みや使い方を確かめた後、書き取り練習をする。

【支援例】

- ・へん、つくり、かんむり、にょう、かまえなどの構成パターンのモデルを示す。
- ・児童の活動の様子に合わせて、カードの数を少しずつ増やしていく。また、2ピースに慣れてきたら、3～4ピースの漢字も混ぜる。
- ・必要に応じて漢字の一覧表を掲示し、参考にさせる。

(2) 同じパーツの漢字を集めよう

- ① 同じパーツ（例：口、木…）がある漢字を集める。

(3) 漢字をつなげよう

- ① 漢字をつなげて、熟語を作る。

5 指導上の留意点

- ・漢字は、画数が増えるにつれ一字の形を記憶するのが難しくなり、そのことで漢字に苦手意識をもつ児童が見られる。そこで、分解したパーツを組み合わせることで、漢字を覚えやすくさせるとともに、漢字の構成に気付くことができるようにする。
- ・漢字の構成や意味などのおもしろさを知り、漢字への興味・関心につなげる。

6 出典

- ・教材名 青葉出版「漢字ドリル 3年（上）」
- ・価格 490円
- ・備考 教師用付録の漢字・計算サポートCD内にも、支援に有効なコンテンツあり。

1 教材名 目と手を使う計算カード

2 対象児童生徒の特性

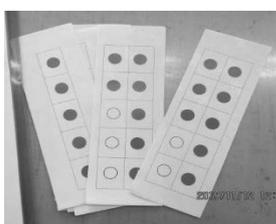
- ・軽い小児麻痺があり、右手が不自由で、左手を使って字を書く。
- ・漢字については、概ね学年相応の読み書きができる。
- ・1桁の数の構造の理解が難しく、1年生前半のたし算の内容を学習中である。

3 ねらい

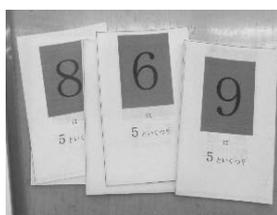
- ・大きく数字や図が書かれたカードを使用することによって、視覚的に数量や数の構造を捉え、数に関するイメージを高めることができる。
- ・毎回繰り返し取組むことによって、少しずつ数に慣れ、計算への抵抗を軽減する。
- ・指を使うという動作を伴うことによって、巧緻性を高める。

4 使い方（各カードについて）

- ① ドットの図を見て、視覚的に数量を捉え、ぱっと数字を答える。
- ② 数を5といくつに分解するカードで、指で数えることに対応している。
- ③ 5に数を足すといくつになるかのカードで、指で数えることに対応している。
- ④ 数にいくつ補うと5になるかを考えるカードで、指を折り曲げた数に対応している。
- ⑤ 数を分解するカード。
- ⑥ 数にいくつ補うと10になるかを考えるカードで、両手の指で数を作ったときの折り曲げた数に対応している。
- ⑦ 両手の指で足し算できるカードで、指の動作および巧緻性を高める。



①ドットカード



②分解I (5といくつ)



③合成 (5に足すと)



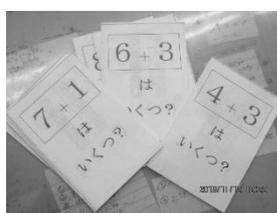
④補数I (5にするには)



⑤分解II (いくつといくつ)



⑥補数II (10にするには)



⑦指を使ったたし算



5 指導上の留意点

- ・児童に手本を示しながら、ゆっくりと進める。
- ・取組みを積極的に認め褒めることによって、できた喜びを感じ、学習意欲の向上を図る。

1 教材名 お金の数え方練習プリント

※次ページ参照

2 対象児童生徒の特性

- ・地道に活動に取り組むことができる。
- ・数の系列や分解・合成の理解に課題がある。
- ・大きな数を読んだり書いたりすることに課題がある。
- ・時計を読むことや時間・時刻の計算に課題がある。

お金の数え方 8 - 2 (千万の位まで)

1 両がえするとどうなりますか。

①  枚で  (1万円札が 枚) ③ 

②  枚で 10万円  (1万円札が 枚) ④ 

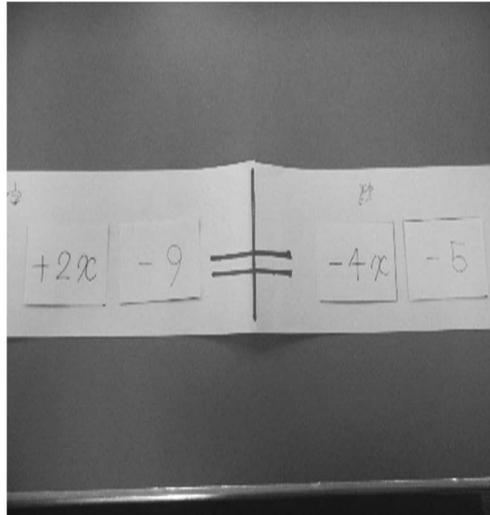
2 次のお金はいくらでしょう。

①       

1 教材名 方程式・移項 学習支援グッズ

2 対象児童生徒の特性

- ・集中力の持続が難しい。
- ・計算への抵抗が大きく、面倒だと思っている。
- ・正しい解答手順が身に付いておらず、同類項を意識せずに計算するため誤答することが多い。



3 ねらい

- ・操作活動を取り入れることで、集中力を高める。
- ・色の異なるカードを活用し、視覚的に同類項を捉えることを補助する。
- ・できた経験を積むことで、計算への抵抗を軽減させる。

4 使い方 (例： $2x - 9 = -4x - 5$ の場合)

- ① 各カードの表裏の符号が逆になっていることを確認する。
(例：「 $2x$ 」の裏には「 $-2x$ 」、「 -5 」の裏には「 $+5$ 」が書かれている。)
- ② 問題を見て、「項カード」を置く。文字の項は黒、数の項は赤で書かれている。
(例：「 $2x$ 」と「 $-4x$ 」は黒、「 -9 」と「 -5 」は赤で書かれている。)
- ③ 等号より左に黒で書かれた項、右に赤で書かれた項が来るように移項を行う。
移項をするときにカードを裏返し、符号が変わる様子を知る。
(例：「 $-4x$ 」は黒だけど右、「 -9 」は赤だけど左にあるので移項の対象になる。
移項すると、「 $-4x$ 」は「 $+4x$ 」に、「 -9 」は「 $+9$ 」になる。)
- ④ 文字の項どうし、数の項どうしをそれぞれ計算する。
(例： $2x + 4x = 6x$ 、 $-5 + 9 = +4$)
- ⑤ 解を出す。
(例： $6x = 4$ の両辺を6で割ると解は $x = 2/3$ になる。)

この5つの操作を繰り返すことで、移項に慣れる。

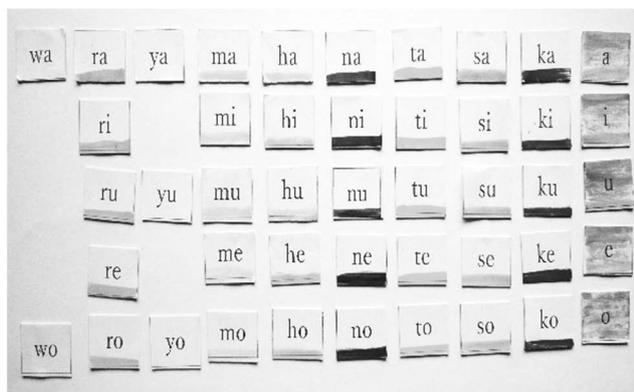
5 指導上の留意点

- ・できたことを積極的に認め、できた喜びや達成感を生徒が感じられるようにする。
- ・各カードは、生徒自身に作らせると、移項によって符号が変わるということをさらに体験的に学ぶことができる。
- ・グッズを使った移項ができたからといって、それが机上の計算に直接つながるわけではない。グッズを使った後は、プリント等で学習内容の確認をするとよい。

1 教材名 ローマ字カード

2 対象児童生徒の特性

- ・音読が好きである。しかし、言葉を飛ばして読んでしまうことがある。
- ・文字の読み書きが苦手である。
- ・集中力が持続しにくい。
- ・授業中の離席が多い。



3 ねらい

- ・文字に対する不安や苦手意識を軽減する。
- ・記憶力を高め、学習意欲につなげる。
- ・集中力を高める。

4 使い方

- ① ローマ字が書かれたカードを50音表の形に並べて読む。
- ② 「あ行」をランダムに出して覚える。
- ③ 「か行」をランダムに出して覚える。
- ④ 「あ行」と「か行」を混ぜてランダムに出して覚える。
- ⑤ 取り組む行を増やしていく。
- ⑥ ある程度覚えたら「あの段」を覚える。
- ⑦ 50音ができるようになったら、濁音・半濁音・拗音に取り組んだり、ローマ字の小文字を大文字に変えてみたりする。

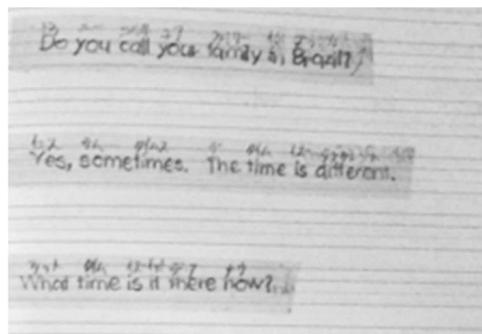
5 指導上の留意点

- ・授業の導入時に使う。
- ・50音表で規則性を確認してから始める。
- ・ランダムに出してクイズ形式で行うことにより意欲を高める。
- ・行を増やすときは、自分の名前の文字が含まれる行を優先的に取り組む。
- ・行ごとに色分けして、行を視覚的に識別しやすいようにする。
- ・初めは、50音表から抜き出して表を見ながらする。覚えたら表を崩す。
- ・先生がカードを指さしたり1枚ずつ提示したりして答えさせる、児童がたくさんのカードの中から答えを探したり50音表のようにカードを並べたりするなど、1つの教材でもやり方を工夫して意欲向上を図る。
- ・複数で取り組む場合は、かるた取りのようになると、意欲をもって楽しく取り組める。
- ・本教材は、白表紙に上質紙を張り付けたものであるが、ラミネートした方が長持ちする。

1 教材名 マスキングテープで見やすいノート作り

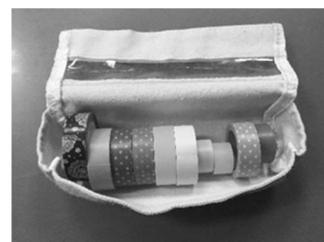
2 対象児童生徒の特性

- ・読み書きに困難さがある。
- ・字形をとらえて正確に書き写すことが難しい。
- ・分からないと思うと授業に参加できない。
- ・句読点を打ち忘れたり、スペースを空けたりせずに、続けて文字を書く。
- ・勉強の仕方が分からない。



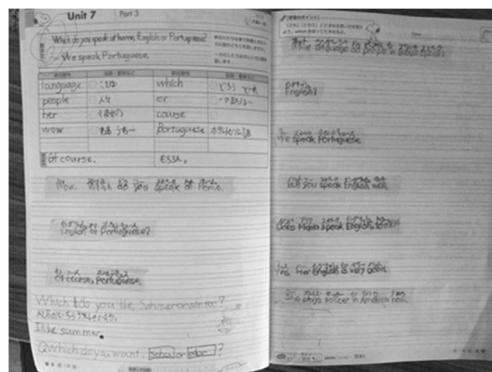
3 ねらい

- ・整った字形で正しく書き写すことができる。
- ・学習への意欲を高め、自主的に進めることができる。
- ・勉強している実感を持ち、授業に参加できるようになる。
- ・特性に応じた小さな目標を、一つずつ達成していくことでやればできるという自己肯定感を高める。



4 使い方

- ① 好きな色のマスキングテープを選ぶ。
- ② 英語の教科書に一行ずつテープを貼る。
- ③ 英文をなぞり書きし、テープをノートに一行空けて貼りかえる。
- ④ 英語の発音を聞いて、片仮名でルビをうつ。
- ⑤ 単語や連語、文を読む練習をする。



5 指導上の留意点

- ・「これならできる」と思えるような取り組みやすい課題を設定する。
- ・やり方を覚えて、自主的に進められるように練習する。
- ・予習する習慣をつけ、授業で満足感や達成感を得られるようにする。
- ・単語の意味調べや、板書の視写など、自分で書き込むことで満足感や達成感が得られるようにする。
- ・同様の方法は、空間認知が低く、字形が整いにくい児童生徒の漢字や計算式の書き取りの学習にも有効である。

1 教材名 英語授業プログラム

2 対象児童生徒の特性

- ・学習は全般的に苦手である。
- ・読み書きの困難さが見られ、英語の読み書きでは英単語の語彙力、綴り力が十分でない。英単語の意味を理解するのは、「音声の読み上げの効果あり」と思われる。
- ・日本文から英単語を呼び起こす際には、「カナ表記の効果あり」と思われる。

2Aの学習 U4④新出単語、基本文(will 動詞原形～)、本文理解

番号	すること	自分での評価
1	ア アルファベットカード並べ(大文字か小文字)	
	イ 考えるプリント1枚(両面)	
	ウ アルファベット単語読み(1年教科書Unit0)	
2	U4 ④音読練習 カタカナプリントの使用可	
3	U4 ④ 単語の確認 リピート練習後 スタディーノートに読みがなを自分でメモ	
4	基本文練習 ワークシートの上の口に着く	
5	基本文練習 教科書の練習問題をやる。ワークシート	
6	本文から基本文の入った文を探し、意味を考える。	
7	ワークの巻頭 p.58	

3 ねらい

- ・本時の全体の見通しを知り、自分で評価(振り返り)をすることによって、自己肯定感を高める。
- ・英語の音読や英単語の読み書き、意味理解ができるようになることで、英語に対する苦手意識を軽減し、学習意欲の向上につなげる。

4 使い方

- ① 授業プログラム1の「ア・イ・ウ」から取り組みたいことを1つ選ぶ。生徒に取り組みせたい課題については、1の「ア・イ・ウ」に入れ、2つ行う(実態に応じ、変更していく)。
- ② プログラム順に取り組む。(途中、教師と本人で話し合い、変更もできる)。
- ③ 取り組み後に自己評価を行う。
- ④ 教師からの評価を受ける。

2Aの学習 U5① If ~の文

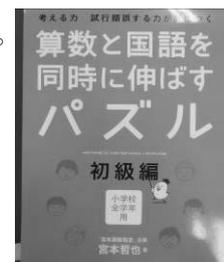
番号	すること	自分での評価
1	ア パフォーマンステストの練習をする	
	イ 考えるプリント1枚(両面)	
	ウ 生徒に取り組みせたい内容	
2	U5 ① 単語の意味確認と練習	
3	基本文(If 主語 述語～、別な主語述語の文)読み練習と意味	
4	基本練習(教科書右上=ワークシートの1番)	
5	本文内容(ワークシート 3番)	
6	パフォーマンステストの練習(2回目)か、新学習プリントの基本文読み練習	
7		

5 指導上の留意点

- ・プログラム1の「ア・イ・ウ」は生徒に自由に選ばせる。
- ・最後まで行かなくてもよい。
- ・学習内容ごとに、良かったところを大いに褒め、学習意欲向上につなげる。
- ・聴覚優位が認められるので、何度も繰り返し教師の後にリピートさせる。
- ・授業最後に授業プログラムの評価をし、教師も最後に必ず一言添えて綴る。
- ・担任や教科担当等と連携を密にし、生徒の実態に応じた課題(プログラム)の設定や通級指導での様子、成果や変容について共通理解を図る。
- ・生徒のその時の様子に応じて、プログラム内容の変更もあって良い。

6 出典

- ・教材名 小学館「算数と国語を同時に伸ばすパズル 初級編」
- ・著者 宮本 哲也
- ・価格 660円(税込)



1のイで使用した「考えるプリント」

1 取組み名 ALTの活用と連携 ～ALTとの英文での手紙のやり取りを通して～

2 対象児童生徒の特性

- ・素直な性格で熱心に部活動や学習に取り組むことができる。
- ・通常学級では話せる場面が限られていて、聞きたいことを質問したり自由に話したりすることが難しい。
- ・読み書きが苦手で、英語については特に書くことが苦手である。

3 ねらい

- ・つまづきをチェックしながら、読む人を意識した正しい英文を書くことにつなげる。
- ・ALTとの英文での手紙のやり取りを継続して行うことによって自己有用感を高める。

4 取組みの方法

① ワークシートを用いて、下書きを書く。

- ・自分の好きなことや興味のあることを伝える。
- ・ALTの好きなことは何かを尋ねる。
- ・ALTがやったことがあるかどうかの経験を尋ねる。
- ・自分がこれからやりたいことなどを述べ、ALTが何をしたいかを尋ねる。

② 別の用紙に清書する。

③ ALTに手紙を渡して返事を書いてもらう。

④ 生徒と一緒に返事を読む。

5 指導上の留意点

- ・ALTに事前にこの活動を説明し、返事を書いてもらうよう依頼する。
- ・ワークシートには、ALTが返事を書くための行を空ける。
- ・生徒と対話しながら英文を作り、教師が手本を示すようにゆっくりと板書する。
- ・確実に書けているかどうか教師がしっかり点検しながら、単語一つ一つをゆっくりと時間を取って丁寧に書き写させる。
- ・理解できていない日本語との文法事項の違いについて確認する。
- ・単発で終わるのではなく、継続して手紙のやり取りを行っていく。

6 ALTからのコメント

この活動は、生徒たちに自信をつけさせたと思います。生徒たちは、手紙を書く前は、私の前ではとても緊張していましたが、手紙を書くようになってからはあまり緊張しなくなってきたと思います。私も、手紙の返事を書くのが楽しみでしたし、生徒たちにとっても英語の練習には良い方法であると思います。何を、どうやって書こうか考えたり、実際に手紙を書いたりすることによって、英語への苦手意識も徐々に小さくなってきたと思います。

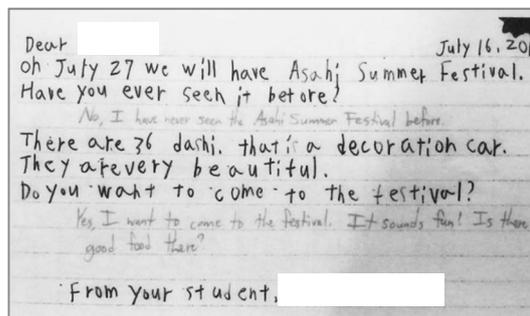
【ワークシートの例】

Dear ~ ,
 My name is _____.
 I like your class.
 I want to ask you something.
 I like _____.
 Do you like _____ ?

 Have you ever _____ before?

 What do you want to _____ ?

 From your student, _____



1 取組み名 校内連携の工夫と手立て

2 対象児童生徒の特性

- ・指示されたことや課題はきちんとやりたいという気持ちがある。
- ・遅刻や欠席がやや多い。
- ・学習全般について理解が難しく、特に読み書きと計算が苦手である。



3 ねらい

- ・通級指導での様子や学習の成果、生徒の変容について、学校内で共通理解するとともに、関係職員のそれぞれの立場から意見を出し合い、指導・支援方法を考える。
- ・生徒への指導・支援について、共通認識のもとで誰からも同様に行う。
- ・いろいろな人とかわり、がんばったことを褒めてもらうことで、生徒の学習意欲の向上を図る。

4 取組みの方法

(1) 全教職員の理解のために

- ① 特別支援教育コーディネーターとの情報交換を密にし、校内教職員と共通理解すべき内容を相談する。
- ② コーディネーターを介して主任会や職員会議で情報共有や連携を行う。

(2) 日々の学習状況の共有

- ① 通級指導での学習の状況、成果や課題についての記録を毎回とる。
- ② 管理職、担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター等の関係教職員に回覧する。
- ③ 必要に応じて、支援会議を随時開く。

5 通級指導時の留意点

- ・通級の時間には、まず生徒が話したいことを全て受け止めた。学習を進めねばならないという焦りもあったが、このつながりを大切にした。
- ・通級指導の最後には、見通しをもたせるため、翌週の予定をメモして渡した。その際、前向きに通級指導に取り組めるよう、必ず温かいコメントを記載するよう努めた。



6 取組み後の変容

当初から管理職に授業参観をしてもらえたが、このことは教職員のより深い理解につながり、職員室での生徒に関する会話が増えた。また、通級指導の記録簿を確実に確認してもらえることから、通級での学習等について担任から生徒に話しかけることが多くなった。通級指導を受ける生徒たちにとって、一人でも多くの教員に理解が得られ、頑張りを認めてもらえることは何よりも意義深い。

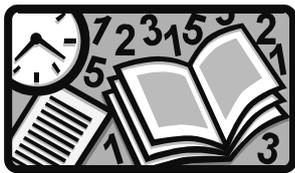
生徒も通級指導を受けることで、非常によくしゃべるようになり、笑顔が増えた。また、「この時間(通級)が一番好きだ。」「この時間があるから頑張れる。」と言葉にすることも多くなり、学習についても、少しずつ意欲が高まってきているようである。



【参考資料】

通級指導における

記録・連携シート例

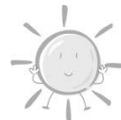


のうと スマイル ノート

月

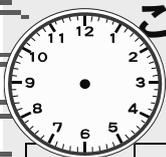
日

よう日



じかんめ

天気



こんなことをしました

～ふりかえてみよう～

○はじめ あいさつ

がんばれたかな??

(^0^) (^_^) (>_<)

(^0^) (^_^) (>_<)

(^0^) (^_^) (>_<)

(^0^) (^_^) (>_<)



あとかたづけ

○ おわりのあいさつ



つぎは

月

日

ようび

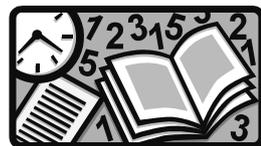
おうちのかたへ

ごらんになったしるしや感想をお願いします

先生方

保護者

スマイル ノート



月 日 曜日 時間目 天気

年 組 名前

この時間につけたい力

- ・見る ・聞く ・話す ・読む ・書く ・コミュニケーション ・数、計算
- ・ことば ・続ける ・集中 ・手先 ・体のコントロール・気持ちのコントロール
- ・学習のルール、マナー () ()

今日のかんそう

点

こんなことをしました ~ふりかえてみよう~

○はじめの あいさつ



①

②

③

④

⑤

1番がんばったことに ○ をつけよう

あとかたづけ かんそうを書く

○ 終わりのあいさつ



楽しかったこと

あまりやりたくなかったこと

またやりたいことは

次の 予定は

月 日 曜日 時間目



ごらんになったしるしや感想をお願いします

おうちのかたへ

先生方

保護者

(校内での情報共有用)

学校名	年	名前
-----	---	----

通級指導 記録シート

(※2回分)

日時	年 月 日() ()限 放課後
授業者	
本時の目標	
(自立活動の区分・項目)	
指導内容	
評価 (児童生徒の様子等)	
備考 (次時に向けて)	

日時	年 月 日() ()限 放課後
授業者	
本時の目標	
(自立活動の区分・項目)	
指導内容	
評価 (児童生徒の様子等)	
備考 (次時に向けて)	

【閲覧チェック】

校長	教頭	特コ	担任	その他

【特コ、担任等からのコメント】

対象生徒の学校生活の様子や変容など、お気づきのことがありましたら、ご記入ください。

--

※このシートは、「通級指導の記録」および「関係教職員間の情報共有」を目的として活用します。

< 出典一覧 >

◆教材・教具◆

- 1 「自己表現ワークシート2」 図書文化・・・ No. 1 P15
- 2 「小学生のための3枚の連続絵カードを使ったSSTの進め方」 黎明書房・・・ No. 2 P16
- 3 「ソーシャルスキル『柔軟性』アップ編」 明治図書・・・ No. 3 P17
- 4 「あたまと心で考えよう SSTワークシート思春期編」 かもがわ出版・・・ No. 4 P18
- 5 「教室・家庭でできる『見る力』サポートトレーニング」 中央法規出版・・・ No. 5 P19
- 6 「教室でできる特別支援教育 1分間集中トレーニング」 学陽書房・・・ No. 6 P20
- 7 「新・昭和レトロな間違い探し」 宝島社・・・ No. 7 P21
- 8 「間違い探し2」 世界文化社・・・ No. 8 P22
- 9 「こうさく（学研の幼児ワーク）」 学研・・・ No. 9 P23
- 10 「コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング」 三輪書店・・・ No.10 P24
- 11 「10秒映画 第1集」 葛西ことばのテーブル・・・ No.11 P25
- 12 「特別支援の国語教材 初級編」 学研・・・ No.12 P26
- 11 〃 〃 ・・・ No.13 P27
- 13 「多層指導モデルMIM 『読みのアセスメント・指導パッケージ』」 学研・・・ No.14 P28
- 14 「国語あそび ファックス資料集 小学校1・2年生」 民衆社・・・ No.15 P29
- 15 「小児科医がつくった ゆっくりさんすうプリント 10までのかず」 小学館・・・ No.16 P30
- 16 「パワーアップ読み上げ計算ワークシート 3・4年」 明治図書・・・ No.17 P31
- 17 「ひとりだちするための算数・数学ワーク①お金編」 日本教育研究出版・・・ No.18 P32
- 18 「とってもやさしい数学（中学1～3年）」 旺文社・・・ No.19 P33
- 19 「SST絵カード」 エスコアール・・・ No.20 P35
- 20 「五色ソーシャルスキルかるた スタートキット」 教育技術研究所・・・ No.21 P36
- 21 「こころかるた（子ども向け）」 クリエーションアカデミー・・・ No.22 P37
- 22 「こころかるた（全年齢向け）」 クリエーションアカデミー・・・ No.23 P38
- 23 「SST2択展開カード このあとどうなるの？」 クリエーションアカデミー・・・ No.24 P39
- 24 「アンガーマネジメントゲーム」 日本アンガーマネジメント協会・・・ No.25 P40
- 25 「イラスト版子どものアンガーマネジメント」 合同出版・・・ No.25 P40
- 26 「ナンジャモンジャ（シロ、ミドリ）」 すごろくや・・・ No.26 P41
- 27 「おとあわせ おはなしカルタ」 ヒラメキ工房・・・ No.27 P42

28	「ことばであそぼう 反対ことばカード」銀鳥産業	・	・	・	・	・	・	・	・	No.28	P43
29	「かなかなパズルゲーム」かもがわ出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.29	P44
30	「意味から覚える 漢字イラストカード」かもがわ出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.30	P45
	//		//							・	・
										No.31	P46
31	「漢字博士 No.1 (ポピュラー版)」奥野かるた店	・	・	・	・	・	・	・	・	No.32	P47
32	「ととあわせ (京都丹後版、江戸前版)」とと工房	・	・	・	・	・	・	・	・	No.33	P48
33	「発達障害の子どもを伸ばすビジョントレーニング」実務教育出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.34	P49
34	「あそび+学びで楽しく深く学べる算数アクティビティ200」フォーラム・A企画	・	・	・	・	・	・	・	・	No.34	P49
35	「トランプ」	・	・	・	・	・	・	・	・	No.34	P49
	//		//							・	・
										No.35	P50
36	「はじめておぼえるABCかるた」集英社	・	・	・	・	・	・	・	・	No.36	P51
37	「生徒が熱中する英語ゲーム33の技」明治図書出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.36	P51
38	「日本地図パズル」	・	・	・	・	・	・	・	・	No.37	P52
39	「TheeT (ザ・ティー)」ディーワン・プロダクツ	・	・	・	・	・	・	・	・	No.38	P53
40	「図形モザイクパズル」くもん出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.39	P54
41	「お箸でお豆さんつかみゲーム」ダイソー	・	・	・	・	・	・	・	・	No.40	P55
42	「KAYANAK」HABA社	・	・	・	・	・	・	・	・	No.41	P56
43	「パンでタッチすると読める音声付教科書」テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構	・	・	・	・	・	・	・	・	No.50	P65
44	「SUM! とらんぷ」あんふぁにショップ	・	・	・	・	・	・	・	・	No.55	P70
45	「教師のための対人関係トレーニングサポート集T T S T」シアース教育新社	・	・	・	・	・	・	・	・	No.57	P73
46	「発達が気になる子のビジョントレーニング」ナツメ社	・	・	・	・	・	・	・	・	No.59	P75
47	「ワードバスケットキッズ」幻冬舎	・	・	・	・	・	・	・	・	No.59	P75
48	「シルバニアファミリー」エポック社	・	・	・	・	・	・	・	・	No.67	P83
49	「中学道徳 あすを生きる」日本文教出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.68	P84
50	「命を救う『ふれあい囲碁』」NHK出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.70	P86
51	「ふれあい囲碁」ふれあい囲碁ネットワーク	・	・	・	・	・	・	・	・	No.70	P86
52	「将棋盤と将棋駒」任天堂	・	・	・	・	・	・	・	・	No.71	P87
53	「漢字ドリル」青葉出版	・	・	・	・	・	・	・	・	No.76	P92
54	「マスキングテープ」	・	・	・	・	・	・	・	・	No.81	P98
55	「算数と国語を同時に延ばすパズル 初級編」小学館	・	・	・	・	・	・	・	・	No.82	P99

◆ダウンロード教材◆

56	「小松式ビジョントレーニング」	https://www.OvOision10.com/	・	No.34	P49
57	「ちびむすドリル」	https://happyililac.net/	・	No.42	P57
//	//		・	No.43	P58
//	//		・	No.44	P59
//	//		・	No.45	P60
//	//		・	No.46	P61
//	//		・	No.47	P62
58	「ぶりんときっず」	http://print-kids.net/	・	No.42	P57
59	「スマイル・プラネット」	https://smileplanet.net/	・	No.48	P63
60	「得意・不得意から入る特別支援教育教材」	http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/tokui/index.html		No.49	P64

◆タブレット端末用アプリ◆

61	「ドロップキット つくるんです。」	Kazuhisa Yamamoto	・	No.51	P66
62	「常用漢字筆順辞典 FREE」	NOWPRODUCTION CO.,LTD.	・	No.52	P67
//	//		・	No.75	P91
63	「中学生漢字（手書き&読み方）」	Gakko Net Inc.	・	No.53	P68
64	「中学生の英単語 2000」	Gakko Net Inc.	・	No.53	P68
65	「Voice Dream Reader」	Voice Dream LLC	・	No.54	P69
66	「SUM! for Family かわいい数字で算数遊び」	Enfani Inc.	・	No.55	P70
67	「毎日1回100マス計算—基礎計算トレーニング」	B. Walker	・	No.56	P71
68	「視覚認知バランスー」	LEDEX	・	No.59	P75
69	「こども脳機能バランスー」	LEDEX	・	No.59	P75

